

2024 年度 年報

Eikoh-kai Group Annual report



栄光会 創立の精神・理念・基本方針

[創立の精神]

この最も小さい者の一人にしたのは
わたし（キリスト）にしてくれたことなのである。

～ 聖書 ～

[理念・基本方針]

癒し癒される

- キリスト信仰に基づいた全人的で最善の医療・看護・介護を目指します
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族 そして職員も
互いに癒し癒される関わりづくりに励みます
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族の権利・プライバシーを尊重します
- 地域の医療機関・介護福祉施設と連携し
総合的なサービスの提供に努めます
- 患者さん・利用者の方々の全生涯にわたり
その幸せと生きがいづくりに尽くします

目 次

栄光会創立の精神・理念・基本方針

理事長挨拶	2
院長挨拶	3

I 栄光会グループ 概要

・社会医療法人栄光会・	
社会福祉法人栄光会の沿革	6
・社会医療法人栄光会・	
社会福祉法人栄光会の概要	8
・栄光会グループ 組織図	11
・栄光会グループ 職員状況	12
・外来診療予定表	13

II 社会医療法人 栄光会の現況

1 医療事業本部

1) 栄光病院

・総合診療科	18
・呼吸器内科	19
・消化器内科	20
・外科・消化器科	21
・脳神経内科	22
・リハビリテーション科	23
・ホスピス	25
・在宅医療センター栄光	27
・健診センター	29

(1) 診療技術部

・薬剤課	32
・放射線室	34
・臨床検査室	35
・リハビリテーション課	36
・栄養管理課	37
・医療機器安全管理室	39

(2) 看護部

・看護部長挨拶	42
・2024年度看護部目標	43
・看護管理室	45
・外来/内視鏡/中材	47
・3A病棟（ホスピス）	50
・3B病棟（ホスピス）	52
・2C病棟（ホスピス）	54
・4A病棟	55
・4B病棟	58
・5A病棟	61

(3) 感染防止対策室・医療安全管理室

・感染防止対策室	64
・医療安全管理室	66

(4) 医療事務

・医事課	70
・診療情報管理室	71

(5) ライフサポートセンター

(6) 開放型病院推進室

2) 栄光会ファミリークリニック

3) 栄光会訪問看護ステーション

2 介護事業本部

・栄光会ケアプランサービス	98
・介護付き有料老人ホームかめやま	99
・栄光会通所リハビリテーション	101
・栄光会ヘルパーステーション	102
・介護事業本部栄養管理課	103

3 伝道部

4 地域協働部

5 ボランティア統括部

6 本部事務局

・財務・経理課	119
---------	-----

III 社会福祉法人 栄光会の現況

・特別養護老人ホーム ころろ	122
----------------	-----

IV 研修状況

1 院内・院外研修状況

・新入職員研修実施状況	128
・第16回TQM研究発表会	129
・院内研修会 実施状況	130
・看護部院内研修	131
・院外研修参加報告	134

2 対外研修の状況

・栄光杯セミナーこれまでの歩み	144
・2024年度院外からの研修	150

次世代の栄光会を目指して

社会医療法人栄光会 理事長
井上 裕

栄光会はこの5年大きく変化して参りました。20年近くともに働いた仲間が退職シーズンを迎えたり、創始者の先生方が亡くなられたり、人の入れ替わりが本当に多いここ5年でしたが2025年を迎え一段落してきたような気がします。去られた仲間と入れ替わるように、多くの新しい仲間を迎えました。また2024年7月には下稲葉順一医師が栄光病院の新院長となりました。これからの数十年の栄光会をこれらの仲間とともに作っていくために、栄光会の理念の継承と、栄光会が続いていく意味を伝え続けていくことが今年の最大の課題です。

栄光会を取り巻く環境は決して優しいものではありません。コロナの後遺症は未だに尾を引いていますし、米を初めとして食料や電気・水道などの物価高騰はとどまることを知りません。また賃金のベースアップも大きな課題です。国を初めとして医療・介護への資金流入がもう少し増えてくれるとありがたいのですが、このような厳しい経営環境のなかで法人をうまく運営していくことは、私どもの最大のミッションです。

栄光会では2024年度に中期課題を設定し「シン・栄光会5カ年プロジェクト」を掲げました。

シン・栄光会5カ年プロジェクト

〈 新（新生）・心（真心）・進（前進） 〉

- 1 新（新生）：新しい栄光会のために
栄光会の素晴らしい財産を継続・拡張
101番目のユニークな病院としての存在感の持続
新しい世代へのなめらかな事業継承
- 2 心（真心）：「癒し癒される」を実感するために
スタッフが「やりがい」を実感できる法人運営
スタッフとその家族の「健康」と「安心」を支援する
スタッフの「幸せ度」が向上することを目指す
- 3 進（前進）：愛される栄光会であるために
地域に愛されているか、常に意識し、前に進む
関わるすべての方に愛され、選ばれることで安定的な経営基盤を確立する

このプロジェクトのもとに栄光会の課題を掘り起こし、職員一人ひとりの協力をお願いし、全力でこなしていく所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

以上、新しい栄光会はすでにスタートしています。職員一同、一致団結し今後の栄光会発展のためによりよくご協力をお願いします。

「幸せ」と「生き甲斐」に応える病院をめざして

社会医療法人栄光会 栄光病院 院長
下稲葉 順一

この度、2024年7月1日付けで院長に就任致しました、下稲葉順一と申します。この重責に、身の引きしまる思いですが、覚悟をもって職務を遂行していく所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。

栄光病院は40年以上の長きにわたり、「癒し癒される」という理念のもと、患者さん・そのご家族の『からだ』と『こころ』を診る、そして『幸せ』と『生き甲斐』に尽くす医療・看護・介護を目指し、努めてまいりました。この思いをしっかりと引き継ぎ、発展させ、地域の皆様に必要とされ、愛される病院であり続けることができるように、更に励んで行きたいと思っております。

さて昨年度を振り返りますと、病院運営面において非常に困難な状況であったと言わざるを得ません。続く物価高、人件費の高騰、人材不足など私たち医療を取り巻く現場は益々厳しさを増しているからです。しかし、何とかこの現状を乗り越えていくべく、各部署スタッフと協議を重ね対策を練ってきました。同時に更なる病病連携、病診連携の強化に努めて参りました。今後も引き続き、この状況に対峙していくために、各方面との連携を深め努めて行きたいと思っております。

また同時に改めて当院の存在意義を再考する年度にもなりました。「超高齢・多死・人口減少社会」を迎えた今、上述のように私たちを取り巻く生活環境は益々厳しくなりつつあります。このような生きづらさを覚える状況だからこそ、当院の「癒し癒される」という理念に基づく、『幸せ』と『生き甲斐』に応える働きが必要だと感じたのです。私は当院で約25年間、ホスピス緩和ケアに従事してまいりました。この終末期の現場で教えられたことは、ホスピスの『こころ』＝温かな思いやりの『こころ』で関り続けていくことで、人は例え困難な状態にあるなかでも、穏やかになれる可能性があるということでした。

今年度も、様々な困難があると思います。しかしそのような課題にしっかりとホスピスの『こころ』で応じ、関わる全ての方の『幸せ』の『小さなきっかけ』となる働きを目指していきたいと思っております。何卒宜しくお願い致します。

栄光会グループ

概要

社会医療法人 栄光会・社会福祉法人 栄光会 の沿革

昭和の初頭	亀山病院（炭鉱付属病院）としてスタート
昭和55年10月	院長 下稲葉 康之 就任
昭和56年 5月	院長 藤江 良郎 就任
昭和57年 4月	救急指定病院 認可
昭和61年 4月	福岡亀山栄光病院（キリスト教主義の病院として現「医療介護施設かめやま」の地に移転）
平成 元年 5月	栄光ホスピスセミナー第1回を開催
平成 2年 4月	ホスピス病棟増築
	9月 ホスピス・緩和ケア病棟 認可（西日本初 全国で5番目）
平成 3年 7月	医療法人 福岡亀山栄光病院 認可
	在宅医療・訪問看護 及び 通所リハビリテーション 開設
平成 4年 3月	病院納骨堂の建立
平成 5年 2月	ホスピス110番開設
平成11年 9月	特別医療法人 栄光会 認可
平成12年 4月	介護保険法施行に伴い居宅介護支援等介護関連8事業に着手
	7月 開放型病院 認可
平成14年 2月	病院機能評価 Ver. 3 認定
平成15年 4月	社会福祉法人 援助会 「聖ヨゼフの園」（北九州市八幡西区）譲受
	8月 栄光会クリニック博多の森 開設
平成17年11月	新病院 竣工・移転 及び 亀山クリニック 開設
平成18年 4月	介護保健施設「グロリア」、特定施設入居者生活介護「かめやま」 開設
平成19年 3月	病院機能評価 Ver. 5 認定
平成20年 1月	特別医療法人 栄光会 理事長 下稲葉 康之、会長 藤江 良郎 就任
	7月 病院機能評価 付加機能 緩和ケア 認定
平成21年12月	社会医療法人 栄光会 認可
平成23年 4月	住宅型有料老人ホーム「安息」・栄光会ヘルパーステーション 開設
平成24年 4月	病院機能評価 Ver. 6 認定
	栄光病院新館 竣工（ホスピス3病棟・71床へ再編成、健診センター 他）
平成25年 9月	栄光会こどもクリニック開設（栄光会クリニック博多の森を小児科に）
平成26年 5月	社会福祉法人 栄光会 認可
	5月 社会福祉法人 栄光会 理事長 下稲葉 康之 就任
平成27年 4月	下稲葉理事長 『栄光会フィロソフィ（経営理念）』上梓
	8月 特別養護老人ホーム「こころ」 開設
平成29年 4月	病院機能評価 3rd G Ver: 1. 1 認定
	7月 社会医療法人 栄光会 会長 下稲葉 康之、理事長 青戸 雄司 就任
	栄光病院 院長 井上 裕 就任
平成30年 5月	栄光会ケアプランサービス・栄光会訪問看護ステーション 移転 (栄光病院敷地内へ)
	9月 介護老人保健施設「グロリア」 閉鎖
	12月 住宅型有料老人ホーム「安息」 休止（令和4年7月 閉鎖）
令和 2年 5月	栄光会ファミリークリニック 開設（亀山クリニック・栄光会こどもクリニック統合）
	7月 社会医療法人 栄光会 名誉会長 下稲葉 康之 就任

令和 3 年 7 月	社会医療法人 栄光会 理事長 井上 裕 就任
	社会福祉法人 栄光会 理事長 青戸 雄司 就任
令和 5 年 1 2 月	病院機能評価 3 r d G V e r : 3 . 0 認定
令和 6 年 7 月	栄光病院 院長 下稲葉 順一 就任

『癒し癒される』

栄光会はキリスト信仰に基づいた全人的で最善の医療・看護・介護を目指しています。それは、悩みや痛み、苦しみを共にし、「こころ」も「からだ」も癒される医療・看護・介護であり、かかわる方々の全生涯にわたり、その幸せと生きがいづくりに尽くすことであります。

そしてそれは決して一方通行ではなく、互いに我々も癒される＝「癒し癒される」ものとなることを目指しています。

101番目の病院（キリスト教病院）

栄光会は、昭和の初めに志免町亀山に存在した炭鉱付属病院、「亀山病院」を前身とします。時代の移り変わりとともに炭鉱は閉山となり、亀山病院は付属病院としての使命を終え、地域の一病院として診療を続けていました。当時の亀山病院は老朽化が激しく、消防署などから再三改築を迫られる状態でした。そのような中、1986年の4月に、栄光会の創立者である3人の医師の手によって新築移転することになりました。その3人の医師：藤江良郎（初代会長）、下稲葉康之（前名誉会長兼名誉ホスピス長）、折田泰彦（前総院長兼副理事長）が全員クリスチャンであったことから、「キリスト信仰に基づいた医療、からだと心を診る医療、そして幸せと生きがいに尽くす医療を提供する病院（101番目の病院）」として、福岡亀山栄光病院と名前も新たに再出発したのです。

それは、まだ「ホスピス」という言葉があまり世に知られていない頃に、終末期医療に真正面から取り組む数少ない病院でもありました。

地域の人々の理解と協力に支えられ

キリスト教病院としての再スタート直前、町内会・婦人会・老人クラブなどの代表4～5人が訪ねてこられました。そしてこんな質問をされました。「クリスチャンではない私たちも、診てもらえるのでしょうか？」。地域の方からの素朴な質問です。栄光会の3人の創立者をはじめ、スタッフの一部はクリスチャンであり、栄光会創立の精神はキリストの癒しを礎としています。しかし、我々が提供させていただく医療・看護・介護は、患者さんや利用者さんの宗派や信仰の有無に関係ありません。地域の方々に「クリスチャンであろうがなかろうが一切関係ありません」とお答えしたところ、ある日、病院に大きなふろしき包み2個が届けられました。開けてみると手縫いの雑巾がぎっしりつまっていて、「ぜひ病院で使って下さい」という言葉が添えられていました。このように、我々栄光会は創立の時から、このような地域の方々のご理解・ご協力と、多くの教会関係者の祈りと支えによって、現在があるのです。

ホスピスのところで仕える

栄光病院の診療内容は内科・外科・泌尿器科・循環器科・消化器科・リハビリテーション科・麻酔科・肛門科などで、病床数150床からスタートしました。また、開院当初1982年から終末期医療に取り組んできました。すぐにベッドは満床になり、その数か月後に178床に増床し、その内、24床がホスピス病棟でした。当初、ホスピスは一般病棟と混在でしたが、1990年3月、念願のホスピス病棟が完成し、1998年5月には36床に増床、2005年11月、病院の移転を機に50床へ増床しました。その後も、地域の患者さん、関係医療機関からの強いニーズに応える形で、2012年6月に、新病棟の増築・病棟再編をおこない、全71床という国内最大規模のホスピス病棟を有する病院になりました。栄光会は、患者さん・利用者さんとそのご家族に温かいおもてなし（ホスピス）の心で仕え、穏やかな生活を送って頂くことを大切にしています。最善の医療設備の他に、病院や施設の建物内には礼拝堂を設け、患者さんやご家族、関係者などの結婚式やお葬式も執り行っています。また、お亡くなりになった方のため、墓地・納骨堂を建立しております。一見、医療とは関係ないことのように思われますが、医療の目的は人間の幸せ。患者さん・利用者さんの人生をトータルに考えると、医療・介護においては「死」は決してタブー視すべきものではなく、希望と喜びをもって「死」を迎えることができるかどうか大切です。それは、死を目前にしたある患者さんが言った「私はこんなに幸せでいいのでしょうか」という言葉に集約されるのではないのでしょうか。その根底には、患者さんとそのご家族、医師、看護師、介護士などのスタッフ、牧師やボランティアのみなさんなどとの心と心のふれあいがあります。

これまでの歩み

福岡亀山栄光病院は、1991年7月に認可を受け、医療法人化しました。その後1999年9月に、医療の安定性及び持続性を確保するため新設された法人として「特別医療法人」の認可を受け、名称を特別医療法人 栄光会 栄光病院としました。

2001年には、医療の質的向上を図るため、日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(V. 3)の審査を受け、2002年2月に認定を得ました。その後2007年(V. 5)、2012年(V. 6)、2017年(3rdG Ver: 1. 1)、2023年12月(3rdG Ver: 3. 0)と4度の更新審査を受け、無事認定を頂くことができました。

2003年には病院から約1km西方の地に栄光会クリニック博多の森を開設しました。

2005年11月には、志免町内の約0.7km西方の地に栄光病院を移転しました。移転後の旧病院建物は増改築工事を経て、2006年4月に「医療介護施設 かめやま」と称し、医療介護の複合施設として運営を開始しました。1Fは亀山クリニック(現・栄光会ファミリークリニック)、2Fには介護老人保健施設「グロリア」(2018年9月閉鎖)、3Fは介護付き有料老人ホーム「かめやま」を開設しました。その後、2011年には住宅型有料老人ホーム「安息」を開設しました(2018年12月休止、2022年7月閉鎖)。

２００９年１２月に「社会医療法人」としてより公益性の高い法人格の認可を受けました。

２０１２年は新病棟を建築し、病棟再編による新体制となり、同年７月より新「健診センター」がスタートするなど大きな変化の年となりました。

２０１３年４月には、「在宅医療センター栄光」を開設し、在宅医療により一層注力しています。また、同年９月には「栄光会クリニック博多の森」を小児医療に特化する事とし「栄光会こどもクリニック」として運営を開始しました。

２０１４年５月には特別養護老人ホームの開設のため、社会福祉法人 栄光会を設立し、理事長には社会医療法人 栄光会 の下稲葉名誉会長が兼務で就任しました。その後２０１５年８月に特別養護老人ホーム「こころ」（８０床、内ショートステイ１０床）の開設となりました。

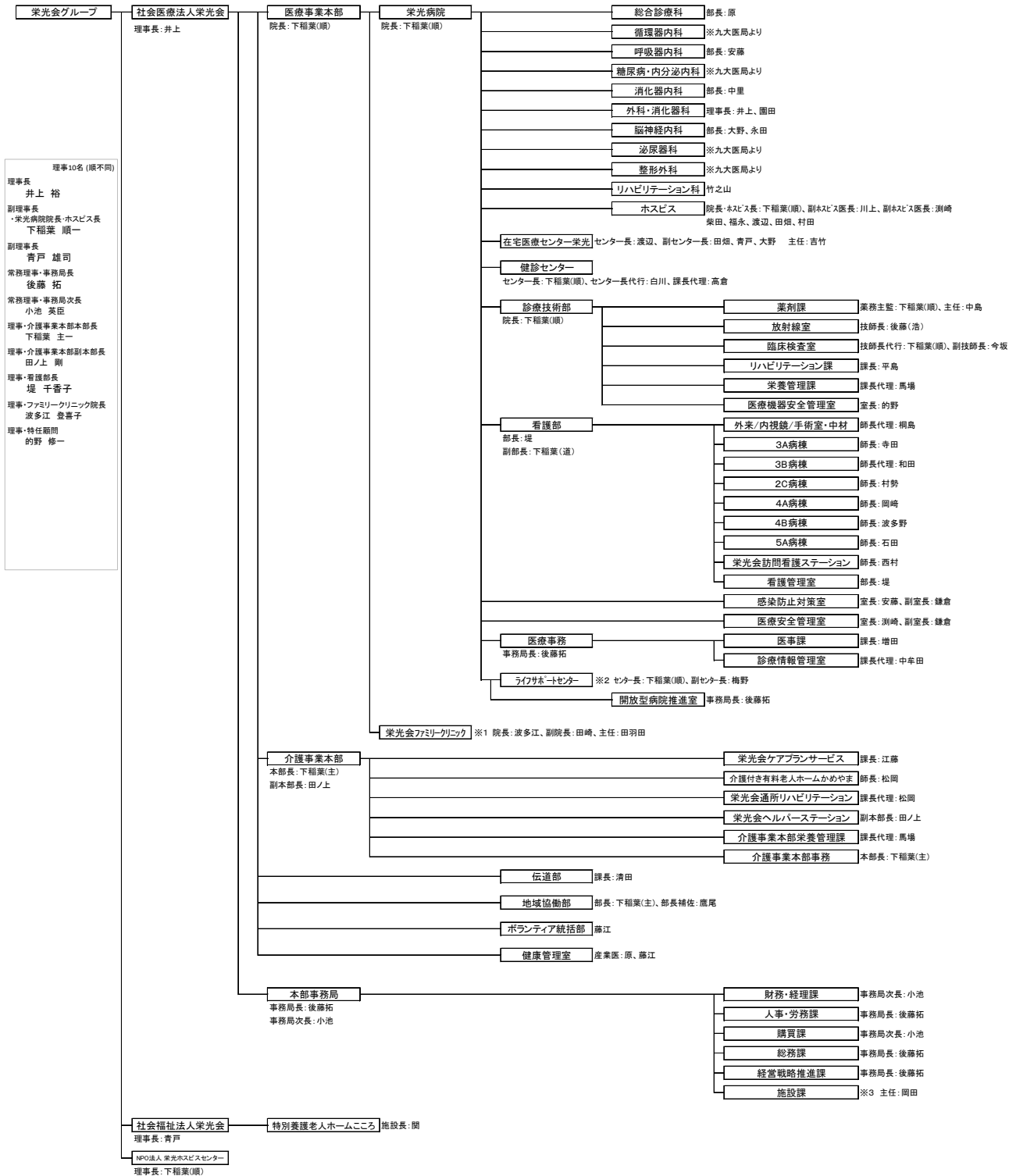
２０２０年５月には、亀山クリニックと栄光会こどもクリニックを統合し、全世代対応・地域密着のクリニックとして「栄光会ファミリークリニック」の運営を開始しました。

これからの栄光会

現在、社会医療法人・社会福祉法人を合わせた「栄光会グループ」の職員数は４５０名を数えます。また、おかげさまで栄光会グループとしては、医療・看護事業から介護事業まで幅広い体制を有することとなりました。これは偏に地域にお住いの皆様のご支援のたまものでございます。

栄光会の創立者である３人の医師を見送り、大きな柱を失い、コロナ禍の影響を未だ受けている私たちではありますが、あらためて、当院建院の精神であるキリスト教精神、栄光会創立の理念を大切に継承し、「栄光会フィロソフィ」を心に携え・育みながら、患者さん・ご利用者・ご家族の幸せと生きがいのために、スタッフ一同心と力を合わせ、地域住民のみなさまが安心して暮らせる支援体制の拡充にこれからも励んで参ります。

栄光会グループ組織図(2025. 05. 01. 現在)



※1 : 栄光会ファミリクリニックについては、看護師の人事教育責任は看護部が、事務職員の人事教育責任は医療事務が有するものとします。
 ※2 : ライザボートセンターについては、看護師及び相談員の人事教育責任は看護部が有するものとします。
 ※3 : 介護事業本部における施設課職員については、本部事務局の「施設課」に所属するものとします。

■ 栄光会グループ 職員状況 (2025. 04. 01. 現在)

医師（常勤）	21	理学療法士	20
医師（非常勤）	19	作業療法士	15
看護師	181	言語聴覚士	6
准看護師	7	音楽療法士	1
保健師	1	臨床工学士	2
薬剤師	2	チャプレン	1
放射線技師	6	相談員	8
臨床検査技師	3	ケアマネージャー	9
ケアワーカー	71	診療情報管理士	3
歯科衛生士	1	事務職	59
管理栄養士	5	その他	41
合 計			482

[事業所別内訳]	栄光病院	361
	医療介護施設かめやま	63
	特別養護老人ホームこころ	58

外来診療予定表【栄光病院】(2025. 05. 01. 現在)

曜 日		月		火		水		木		金		土	
		午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後
総 合	①	原	永 田	布 巻	原	青 戸	安 藤	原/安藤	永 井	藤 岡	青 戸	原/安藤	手 越
	②	当番医		鶴 田		原		井 上		鶴 田		手 越	
外 科		井 上		園 田		井上/園田		斎 藤		斎 藤		井上/園田	井上/園田 (初診のみ) 受付16:30迄
専 門 ・ 予 約 外 来	循 環 器				眞 柴	畑 島	折田義也	折田加奈子					
	呼 吸 器				安 藤					安 藤		山中(第1土曜) 長瀬(第3土曜)	
	糖 尿 病			永 井	永 井	市 川		永 井					
	脳神経内科	鶴 田		大 野		永 田		大 野		永 田			
	整 形 外 科		山 口	本 村				原雄人 (am10:00~)					
	泌 尿 器 科											九 大	

※注) 表中の表示について「/」・「隔週」の意味。表示医師が原則交代で担当します。

○診療時間は、午前9時～午後5時00分（昼休み12時30分～13時30分）となっています。

○午前中の受付は12:00までとなっておりますのでご注意ください。

○午後の診療終了間際の受付につきましては、検査等、診察時間の兼ね合いから、夜間当直医の診療へ切り替わることがありますので、ご了承ください。

○急患は何時でも受け付けております。

○「専門外来」は、原則として予約制です。ご予約がないときは、お待ち頂くことがありますので、ご了承ください。

なお、ご予約に関するお電話は、午後（13:30～17:00）にお願いいたします。

（緊急はその限りではありません）

○「ホスピス相談・ホスピス外来」は、予約制です。事前に必ずお電話でご予約ください。

○月が変わった時は、あらためて保険証をご提示ください。

■ 外来診療予定表【栄光会ファミリークリニック】(2025.05.01.現在)

内科・呼吸器内科・アレルギー科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
波多江	－	波多江	－	手越	－	波多江	－	波多江	－	波多江	－

小児科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	－	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	－

社会医療法人 栄光会 現況



医療事業本部

職場紹介

1. 職員構成

原 一生 : 総合内科専門医 消化器病専門医 消化器内視鏡専門医
老年科専門医

青戸 雄司 : 総合内科専門医

安藤 俊二 : 呼吸器専門医 アレルギー専門医 内科認定医

布巻 直美

鶴田 裕子 : 内科認定医 神経内科専門医

手越 静子

2. 診療内容

総合内科では下記の範囲の診療を行っています。

- ① 生活習慣病の管理
- ② 急性熱性疾患の精査・治療
- ③ 各種疾患のプライマリケア

2024年度を振り返って

2023年にCOVID19が感染症法5類感染症に変更され本年も発熱外来を継続し、時間外受診も含めて発熱者の対応を行った。冬季はインフルエンザ・感染性腸炎の流行があり、時間外受診が増加した。外科の常勤医師の入職があり外科外来が更に充実した。

2025年度に向けて

COVID19他感染症の流行も予想され、本年度も院内感染対策を継続しつつ、上記診療を行う。選ばれる外来を目指し、サービスの質の向上に努める。

年間統計

2024 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
初診	219	243	261	541	356	225	268	257	686	600	294	324	4,274
再診	1,015	995	1,007	1,083	1,016	927	1,066	987	1,055	1,017	900	987	12,055
計	1,234	1,238	1,268	1,624	1,372	1,152	1,334	1,244	1,741	1,617	1,194	1,311	16,329

職場紹介

1. 職員構成

外来部門

常勤医師 安藤 俊二（内科部長）

非常勤医師 （九州大学より月2回）

病棟部門

安藤 俊二（4A病棟医長）

2024年度を振り返って

本年度は常勤医師1名（安藤）、外来のみの非常勤医師1名の体制で診療を行いました。非常勤医師は九州大学より月2回の土曜日の午前の診療で、健診での胸部レントゲン異常の精査も行っています。

当科の主な検査は気管支鏡検査ですが、2024年度も診断的検査は0件（入院患者の痰吸引目的で1例）、肺癌診断における気管支鏡検査は遺伝子解析が求められており、当院での肺癌診断のための気管支鏡検査は困難となり、気管支鏡検査が必要な症例は他院に紹介しています。

入院診療は4A病棟で行いました。本年度の入院総数は113例で、2021年度（93例）より20例増加、2023年度（103例）より10例増加しており、病棟の稼働率が増加傾向にあると考えます。疾患別では肺炎（細菌性、誤嚥性、肺炎後廃用）が29例と最も多く、全体の26%を占めています。睡眠ポリグラフィー検査目的の入院が6例で、睡眠時無呼吸症候群の診断、CPAP療法の導入、導入後のCPAP圧の再評価を行っています。慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）の急性増悪が9例、気管支喘息発作が2例で、いずれも感染による増悪と考えています。慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息に対しては吸入ステロイド、長時間作用型抗コリン薬、 β 刺激薬を主体とした吸入療法を行っています。呼吸器疾患以外では尿路感染症、心不全、COVID-19治療後の症例があり、脳梗塞後、脳出血後のリハビリ目的（回復期リハビリテーション病棟への移行も含めて）が多くなっており、呼吸器疾患以外の一般内科診療も多岐に渡って行いました。

2025年度に向けて

外来診療では患者数の増加に伴い、待ち時間も増加していることが問題であり、効率的な診療、予約時間、人数の調整を行ない、待ち時間の減少を目指しています。

入院診療では常勤医師1名のため、重症例の受け入れは困難ですが、患者さんのQOLを重視した治療をご家族、コメディカルスタッフともコミュニケーションをとりながら行っていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の治療目的での入院の受け入れは2024年度では0件ですが、感染症法上の分類変更に伴い、今後は治療目的での入院受け入れに向けて準備する予定です。

地域包括ケア病棟としての診療、退院支援の再考、稼働率の向上を目指して、よりコスト意識を持った診療を心がけていきたいと考えています。

職場紹介

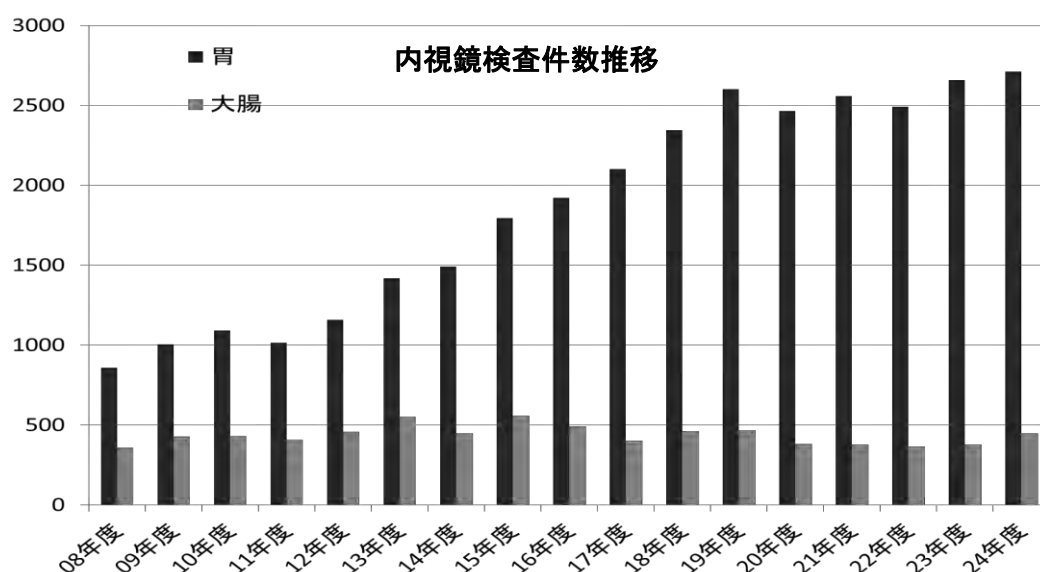
1. 職員構成

消化器内科部長兼内視鏡センター長：中里 貴浩

消化器内視鏡センター：外来看護師内視鏡チーム（認定内視鏡技師 5 名）

- 消化器内視鏡センターには検査室が 2 室あり、検査と治療、胃瘻交換、PTEGなどを行っています。

2024 年度を振り返って



- ・今年度の総検査数は 3 1 5 9 件と過去最高でした（前年度比 + 4 %、胃 2 7 1 2 件、大腸 4 4 7 件）。
- ・食道癌 3 例、胃癌 8 例、大腸癌 1 2 例を発見しました。
- ・内視鏡看護師チームから新たに 1 名が内視鏡技師試験に合格しました。

2025 年度に向けて

『内視鏡センターで発見された消化管癌（2008 年 4 月～2025 年 3 月 31 日）』

総検査数 上部 3 1 6 8 6 件 下部 7 4 1 4 件

	病変数(発見率)	内視鏡切除件数(切除率)
食道癌	4 9 (1 / 6 4 6)	1 6 (3 3 %)
胃癌	2 3 0 (1 / 1 3 7)	9 1 (4 0 %)
大腸癌	3 1 8 (1 / 2 3)	1 4 9 (4 7 %)

- ・今年度もスタッフと協力し、早期癌の発見のために内視鏡検査の質を高めるとともに、検査の安楽さも変わらず追求していきたいと考えています。

職場紹介

1. 職員構成

理事長： 井上 裕 部長： 斎藤 純 医師： 園田耕三

2024年度を振り返って

長年外科スタッフは井上・斎藤の2名で担ってきたが、本年度は4月から園田耕三医師（九大第二外科所属）が医局派遣として中間市の新中間病院から赴任し、外科スタッフは常勤医3名体制となった。そのため病棟入院患者は増加し4A地域包括病棟が20名および5Aリハビリ回復期病棟が10名外科常勤医の受け持ち患者となった。栄光病院外科は2017年3月に手術場を閉鎖し全身麻酔による手術治療を中止し7年が経過したが、この間消化器系疾患および整形外科リハビリを中心に入院患者さんを診察・治療してきた。新型コロナウイルス感染症もようやく収束に向かいつつあるなか、2025年稼働の改善に全力で対処したい。また長らく外科部長として活躍された斎藤 純医師が2025年3月31日をもって定年となり、常勤医を外れたことは残念であり外科のパワー低下は否めないが、園田・井上2名で今後の医療を全力で支えていく覚悟である。

外科診療を充実させるため2024年度に工夫したこと

- 1) 消化器センターとの連携を深め、適切症例を可及的すみやかに地域の中核病院に紹介し、治療（手術）終了後の療養を中心に病棟業務を組み替えたが、順調に多くの外科系病院と連携が取れている。早期癌を初めとする多くの患者を速やかに紹介することで地域医療に貢献している。
- 2) 従来糟屋地区および福岡市の中核病院の医師との定期的ミーティングを開催してきた。コロナが収束し2024年は年一回ではあるが復活させている。
- 3) 2025年中に糟屋南部地区の病院病床機能が大きく変化する予定であり、当院の回復期リハビリ病床機能の地域における役割は一段と上昇する想定である。2024年後半からすでに紹介患者は増加傾向にある。
- 4) 急性期病院からの緊急入院依頼（いわゆる「下り搬送」）がコロナ以降急速に充実してきている。当院の特色を最大限に活かすべく、救急医療への貢献を更に増大させている。

2025年度に向けて

- 1) 外科外来手術やその他消化器疾患については今後も積極的に診察・治療（外来・入院）を続ける予定であり、外来患者の増加を図り更に外来治療の充実については努力していく所存である。
- 2) 2025年中に糟屋南部地区の病院病床機能が大きく変化する構想の中で、当院の回復期リハビリ病床機能の地域における存在感をしっかりと確立していきたい。栄光会として全力でリハビリ病床機能の役割を全うすべく体制強化に務める所存である。
- 3) 急性期病院からの緊急入院依頼（いわゆる「下り搬送」）がコロナ以降急速に充実してきているが、当院の特色を最大限に活かすべく、救急医療への貢献を更に増大させていきたい。これは稼働状況の上昇に資するところ大である。
- 4) 2025年4月からは井上・園田の2名で4A地域包括病棟・5Aリハビリ回復期病棟を担当することになる。新しい外科構想を早期に構築し、今後の消化器疾患・整形疾患の対応にあたりたい。

職場紹介

1. 職員構成

常勤医 : 大野雅治、藤木亮輔

非常勤医 : 鶴田裕子 (外来のみ)

2. 診療内容/業務内容

神経疾患 (脳血管障害、認知症、てんかん、神経系感染症、末梢神経疾患、筋疾患、神経難病、頭痛など) を中心とした診療、病院の要請に応じて総合内科外来診療、脳波判読、筋電図・神経伝導検査施行、訪問診療

担当病棟 : 主として神経難病センター、他に地域包括ケア病棟

2024年度を振り返って

4B病棟 (神経難病センター) の年間平均稼働率は昨年度と比べ低下した。レスパイト入院の件数は昨年度より微増した。訪問診療の件数は昨年度と同じ (新たに開始になった方がある一方、長期入院に移行した方もあり)。

検査件数はエコー検査以外では前年度より増加、神経伝導検査・筋電図検査数も増加した。

2025年度にむけて

診療の質の向上

4B病棟の目標稼働率の達成、そのための適切な入退院調整、他病院との連携。

神経難病患者を受け入れ、そのQOLの向上を目指す。

在宅療養支援のため定期的なレスパイト入院、訪問診療。

画像検査 (特にMRI) や神経筋生理学的検査を積極的に行う。

2024年度 年間統計

脳神経内科外来患者数 : 1846

訪問診療 : 14件 (パーキンソン病 7、筋萎縮性側索硬化症 2、多系統萎縮症 2、
脊髄小脳変性症 1、ミオパチー 1、脳出血 1)

検査件数 : CT 284、MRI 102、エコー 94、脳波 18、神経伝導検査・筋電図 26

レスパイト入院 : 7名、22件

4B病棟稼働率 (月別平均、%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
77	76	68	80	93	79	82	85	81	88	85	88	81.8

職場紹介

1. 職員構成

回復期リハビリテーション病棟医長 竹之山 利夫

2024年度を振り返って

1) 病棟診療実績（過去3年間の年度別推移：各平均値）

	入院患者数 (人/月)	新規入院数 (人/月)		稼働率 (%/月)	在院日数 (日)	在宅復帰率 (%)
2022 年度	27.2	9.3		80	88.2	79.0
		脳血管 (%)	58.6			
		運動器 (%)	40.7			
		廃用 (%)	0.7			
2023 年度	26.9	9.1		79	80.4	84.2
		脳血管 (%)	53.0			
		運動器 (%)	47.0			
		廃用 (%)	0			
2024 年度	28.5	9.5		84	84.9	86.9
		脳血管 (%)	54.1			
		運動器 (%)	45.9			
		廃用 (%)	0			

2) リハビリ実績（過去3年間の年度別推移）

	リハビリ総件数	リハビリ総単位数	総診療報酬点数
2022 年度	21,758	47,543	11,089,703
2023 年度	20,130	49,222	11,323,207
2024 年度	22,677	50,719	11,839,184

3) 2024年度の総括

2024年4月より、リハビリテーション専門医（脳血管疾患）、医師（整形疾患）と二人体制となった。入院患者数、新規入院数、稼働率は、2022年度、2023年度を上回ることができた。

しかしながら、2021年度の実績を下回った。また、リハビリ実績も同様であり更なる奮起が必須である。

2025年度にむけて

1) 健全な病棟運営の継続

下記、回復期リハビリテーション病棟入院料2の施設基準の維持

- a) 新規入院患者のうち4割以上が重症の患者であること。
- b) 重症の患者の3割以上が退院時に日常生活機能が改善していること。
- c) 当該病棟において、退院患者のうち他の保険医療機関へ転院した者などを除く者の割合が7割以上であること。

2) 病棟稼働率

病院経営上、必要とされる病棟稼働率（90%・34床のうち32床）をめざし、堅守する。
結果的に2021年度を上回る実績を残すことを目標とする。

3) 医療の質の向上

各種研究会、勉強会、学会などへの参加を推奨し、他医療施設へのアピールを行うと共に診療の場に知識・技術のフィードバックを行うよう努力する。

4) 回復期病棟の質の向上

急性期病棟からの紹介患者をスムーズに受けるために、入院期間の短縮に努める。正確な病歴の把握、適正な薬剤投与（ポリファーマシーの是正）などについて検討していく。

職場紹介

1. 職員構成

ホスピス長：	下稲葉順一	ホスピス医：	村田修一
副ホスピス医長：	川上豪仁	(同)	吉田 晋
(同)	淵崎蓉史	在宅医療センター栄光センター長	： 渡辺啓太郎
ホスピス医：	柴田冬樹	(同)	副センター長： 田畑 香
(同)	福永頼子		(2025/4/1現在)

2. 診療内容/業務内容

- ① 外来：ホスピス相談（他院より当院への転入院・外来通院・在宅医療などの相談）
ホスピス外来（ホスピス相談後の患者の外来）
- ② 病棟：3A病棟 24床、3B病棟 24床、2C病棟 23床 計：71床
入院目的：全人的ケアの提供
疼痛などの身体症状マネジメント、レスパイトケア、在宅移行への準備、看取りなど
- ③ 在宅：別途報告あり
- ④ その他
 - 1) NPO法人栄光ホスピスセンター
栄光ホスピトラ発行、グリーフカウンセリングなど
栄光ホスピスセミナー（年1～2回：医療者・一般の方対象）
 - 2) 講義・講演
医学部生、看護学生、高校生（医学部クラス）などを対象
 - 3) 研修の受け入れ
医学部生、医師、看護師などを対象
 - 4) 学会活動など
日本緩和医療学会、日本ホスピス緩和ケア協会、日本死の臨床研究会

2024年度を振り返って

2024年度は各病棟医師2名体制を久しぶりに整えることができました。平均病床利用率は84.5%と2023年度の86.5%と比べ低下しましたが、いわゆるコロナ禍（2020年～2022年度）の70%台と比べ改善し、コロナ前の状態に回復したといえます。近年の傾向として、最後の時を病院で過ごす事を希望する方が増加してきた印象があります。今年度は総退院患者数に占める死亡退院患者数の割合は83%と、直近6年間では最もその割合が高い年度となりました。またスタッフの慢性的な人員不足が続く中、予定外の入院数も依然多く、多忙を極めた年度でもありました。このような中で、関わる患者さん・ご家族のために、『こころ』を込めてケアに従事してくれたスタッフ皆に感謝の思いです。

2025年度にむけて

昨今、医療・介護を取り巻く環境は厳しさを増してきています。このような中で健全な病棟運営、良好なケアの提供という課題に今年度（2025年度）も励んで行く所存です。昨年度（2024年度）は新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく病棟を運営できました。またコロナ禍以降中止となっていた集合形式でのホスピス病棟合同の各種イベントを再開でき、本当に感慨深いものがありました。コロナ禍以前と全く同じようなケアの提供は難しいかもしれませんが、新しいケアの形を模索しながら、同じ『こころ』、『想い』を大切に、2025年度も『こころ』を込めてホスピスケアを提供していきたいと思います。

2019～2024年度統計

年度	入院患者数	退院患者数	死亡退院患者数	生存退院患者数	予定外入院数	日数別の退院患者数			平均病床利用率	平均在院日数	ホスピス相談
						0-30日	31-60日	61日以上			
2019年度	645名	653名	481名 〈74%〉	172名 〈26%〉	189名 〈29%〉	405名 〈62%〉	135名 〈21%〉	113名 〈17%〉	89.9%	36.0日	658名
2020年度	622名	636名	439名 〈70%〉	197名 〈30%〉	216名 〈35%〉	430名 〈68%〉	120名 〈19%〉	86名 〈13%〉	77.2%	31.8日	683名
2021年度	565名	554名	422名 〈76%〉	132名 〈24%〉	169名 〈30%〉	388名 〈70%〉	87名 〈16%〉	79名 〈14%〉	74.3%	34.4日	693名
2022年度	538名	538名	409名 〈76%〉	129名 〈24%〉	155名 〈29%〉	359名 〈67%〉	103名 〈19%〉	76名 〈14%〉	80.6%	38.8日	631名
2023年度	534名	537名	434名 〈81%〉	103名 〈19%〉	163名 〈31%〉	329名 〈61%〉	94名 〈18%〉	114名 〈21%〉	86.5%	42.0日	661名
2024年度	565名	556名	463名 〈83%〉	93名 〈17%〉	164名 〈29%〉	363名 〈66%〉	107名 〈19%〉	86名 〈15%〉	84.5%	39.1日	682名

2024年度の当院のがん患者の在宅療養支援について

職場紹介

1. 職員構成

医師 4名（緩和ケア医 2名、脳神経内科 1名、内科 1名）
看護師 4名（主任 1名 常勤 3名）（2025年1～3月は3名）

2. 診療内容

当科はがんの症状や精神的苦痛緩和を病院受診せずとも自宅で行う事を支援する在宅医療センターである。

栄光病院の在宅医療センターは、1. 地域のがん治療病院や当院の退院支援、2. 広範囲の訪問看護ステーションとの連携、3. 施設療養・看取り支援を軸に置いた在宅療養を昨年同様に行っている。

また、当科は2023年4月以降、Medical Care Station（MCS）の導入により、多職種との密な連携が維持され、できるだけ患者さん、ご家族がともに地域で暮らすことのできる環境や安心感を提供することに努めている。

2024年度を振り返って

2023年度との大きな変化は、常勤の在宅ホスピス医師が2名に増加、往診を含めた自宅訪問件数は2240件／年と過去最高を記録した。

2024年度の12月までは訪問件数や新規依頼は好調であったが、2025年1月—3月末まで当科の看護師が1名ホスピス病棟に異動し、新規依頼を制限せざるを得なかった。

訪問患者数の調整が必要な時期が3か月間あった状況で、2024年度の新規患者数は144件（図1）、自宅看取りは72件（図2）と昨年を維持していた。

以上の統計から、現在の患者さん・ご家族の考えは、訪問診療依頼を利用してできるだけ家で過ごし、最期には入院を希望される傾向は前年と同様となっている。

2024年度の目立った診療の変化は、当科に抗がん剤治療中の併診と、他施設をバックベッドとした訪問診察が多かったことである。

抗がん剤治療支援では、自宅で症状緩和を図りつつ通院可能な状態を維持する支援も行っている。（セカンドオピニオン、がん治療医の変更）

他の治療病院やホスピスをバックベッドとした訪問診療が増えており、栄光病院ホスピスだけでなく地域医療連携を在宅医療センターは構築している。

2025年度にむけて

昨年度同様、緩和ケア病棟の面会制限の少なさから人生の最終段階では緩和ケア病棟含めた入院希望が高まるため、自宅看取りの人数ではなく、新規紹介数と訪問診療数の維持を目標にしていく。

また、入院希望が高まり病院依存になっていくと、癌治療病院や緩和ケア病棟の退院支援の必要性も高くなり、当科は積極的に退院支援を行う方針である。

2025年4月から再び看護師が4人態勢となるため、今後は訪問診療を増やすことができ、新規依頼を断らず、迅速に在宅に駆けつけることが可能となる。

在宅医療センタースタッフの体力・体調とやりがいを意識した職場環境調整もこれまで同様に行っていく。

2019～2024年 年間統計

図1：訪問件数と新規紹介件数

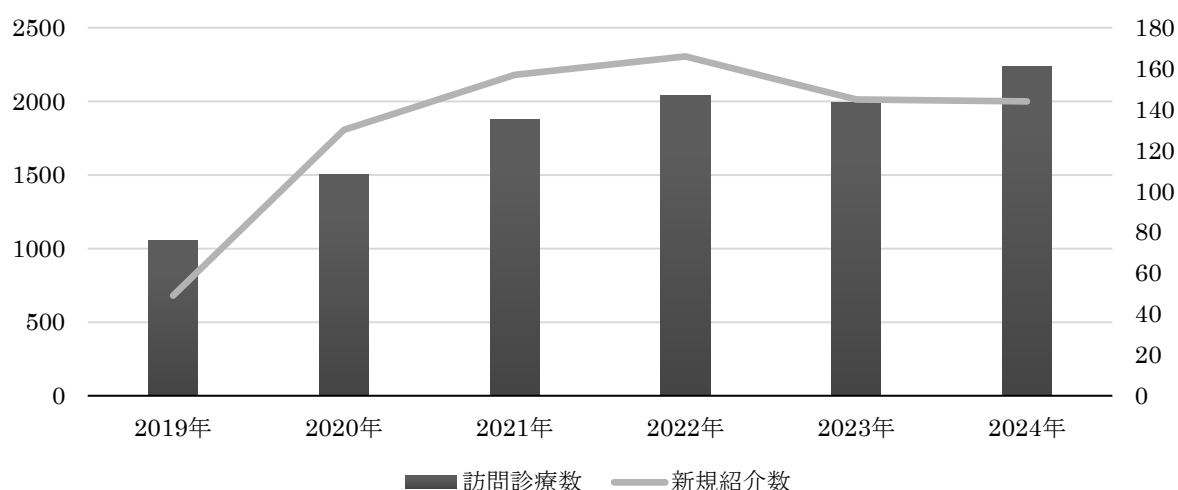
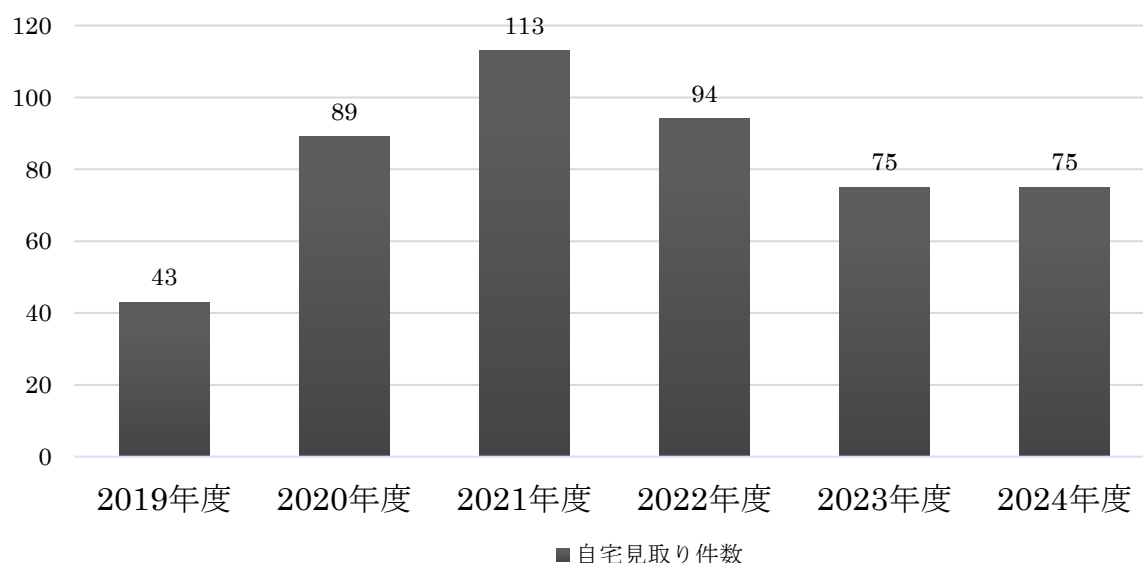


図2：自宅看取り件数



職場紹介

1. 職員構成

健診センター長：下稲葉 順一

診察/結果説明/読影/総合判定医師：

白川 剛(健診センター長代行)，木下 節子(非常勤)，金澤 有紀子(非常勤)

看護師：吉村 敦子

事務：高倉 誠一，畑田 雅世，鹿間 初美，檜山 典子，永井 真生

消化管内視鏡検査(中里医師)，脳ドック(大野医師，永田医師)，

乳がん検診(井上理事長，園田医師)

2. 診療内容，業務内容

がん・生活習慣病・動脈硬化性疾患をはじめとする疾患の早期発見及び現時点での健康状態を把握して健康づくりの一助とするために、診察・諸検査を行っております。

① 健診(健康状態を確認して病気の予防をする事が目的)

一般健診(雇入時含む)，特定健診，協会けんぽ健診，特定業務従事者健診 等

② 人間ドック

栄光会ドック：ライト，ベーシック，スタンダード，アドバンス，プレミアムの5コース

③ 検診(特定の部位や疾患の検査を行って早期治療につなげる事が目的)

胸部腹部単純CT，大腸内視鏡，乳腺，子宮，脳，甲状腺，骨，動脈硬化の検査 等

診察医3名が読影・結果説明・報告書確認等を行い、看護師が採血や生理検査及び診察介助等を行い、事務職員は受診者への案内・各企業等との折衝や営業・受診予約対応・書類作成及び発送・料金受領等の幅広い業務を担当しております。

2024年度を振り返って

2020年からのCOVID-19感染症の影響による受診者減少及び企業の人員削減や倒産等は、それまで右肩上がりであった受診者数の減少傾向をもたらしました(図：年間統計)。また、常勤医師不在の時期はございましたが関係各部署の御協力もあって、2023年の収入額は再度上昇に転じました。

この度、2024年4月より筆者(白川)が健診センター長代行として赴任致しました。他部署の一時的な業務体制変化もあり受診者数が伸び悩む事も危惧されましたが、1年間を通して積極的な受け入れを推進し、またスタッフの頑張りがあって年間受診者数は増加に転じました。結果として、御陰様で1年間の収入額は前年度を大幅に超えて過去最高の実績を上げる事が叶いました。

2025年度に向けて

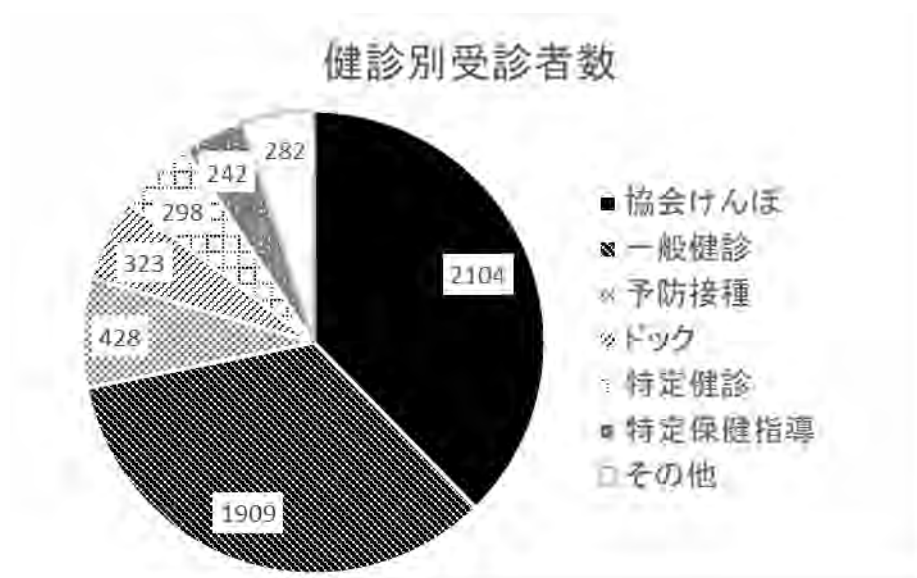
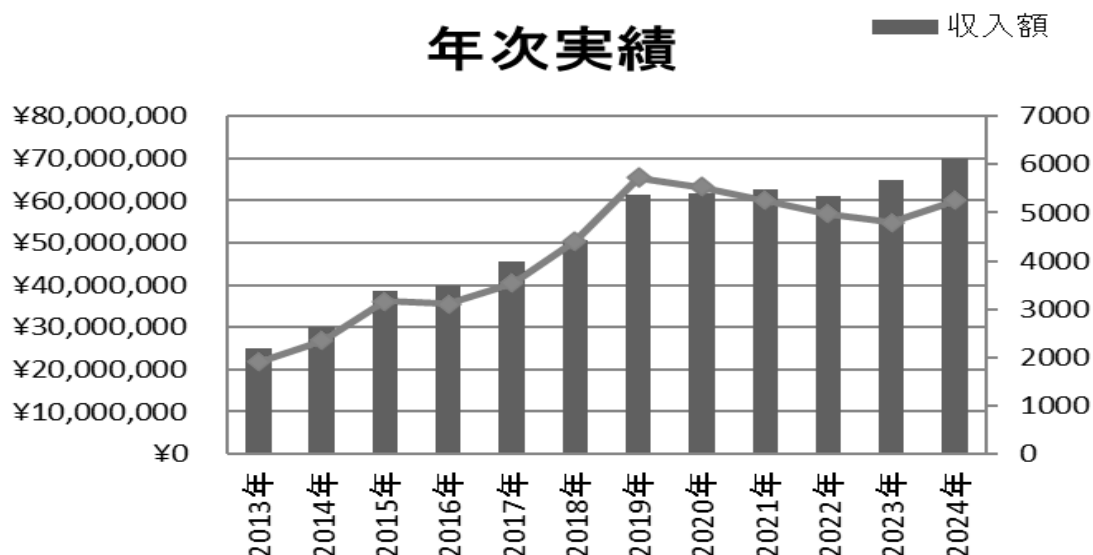
医療費抑制の流れは今後も続くと考えられ、益々健診・検診の重要性は高まるばかりです。疾患の予防そして早期発見による早期介入は必要不可欠であり、健診部門と診療部門を連動させた病院全体での経営戦略が極めて重要である事は言うまでもありません。

栄光病院の中心理念に「癒し癒される」というものがございますが、健診センターを受診なさる方々の幸せと生き甲斐づくりに少しでも貢献できる様に、そして丁寧な診療及び互いに癒し癒される関わりづくりを心掛け、選んでいただける健診センターづくりに励みたいと考えております。

そして可能な限り個人や企業等の多彩なニーズに応え、受診者数を更に増やして栄光会全体の経営発展に微力ながら貢献できればと思っております。

今後も引き続き、健診センターを何卒どうぞ宜しく御願い申し上げます。

年間統計





診療技術部

職場紹介

1. 職員構成

薬剤師 2名

調剤助手 2名

2. 業務内容

入院患者の持参薬鑑別

入院患者の内服薬・外用薬・注射薬の調剤

入院患者に対する薬剤管理指導

医薬品の適正管理

各種委員会/カンファレンス等への参画

新型コロナワクチンの管理

2024年度を振り返って

2024年10月より、新型コロナワクチンの定期接種が開始となった。対象者は65歳以上の高齢者と、一定の基礎疾患を持つ60～64歳とされ、100名を超える方が当院での接種を受けられた。

ワクチンはコミナティ筋注シリンジを採用することで、スタッフ側の負担も軽減でき、廃棄減にも繋がった。

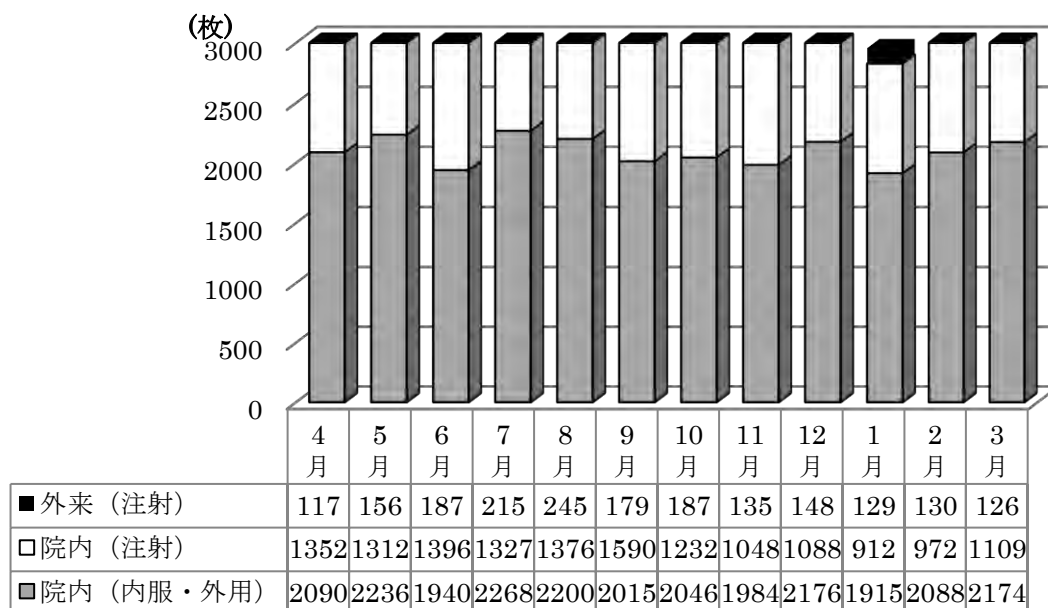
2024年度、薬剤課は、一般名処方加算取得率80%以上を目標の一つとしていた。

一般名医薬品マスターの整備、医師への協力依頼／案内と共に、薬剤師による一般名処方への変更／確認作業をおこなった。その結果、前年度月平均79.6%であった一般名処方加算取得率は今年度月平均81.7%へ増加し、目標を達成することができた。

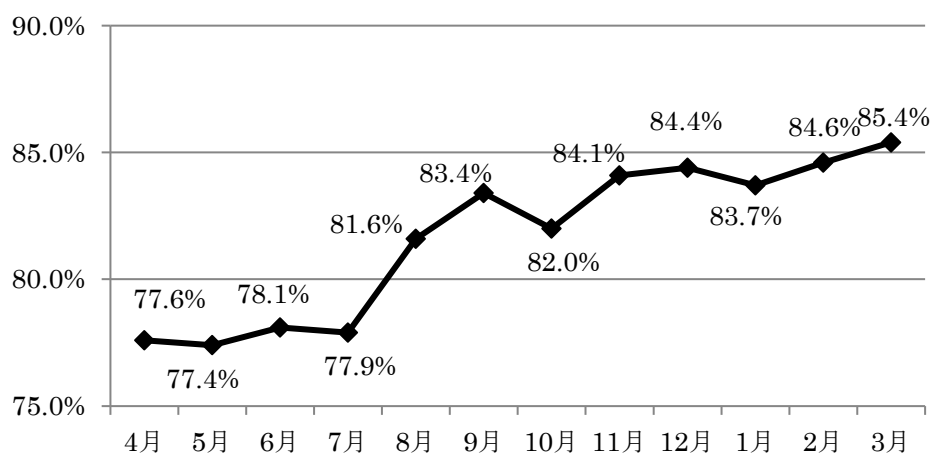
また、期限切れ廃棄薬剤金額も直近5年間では減少傾向にあり経費削減に繋がれていると考える。

医薬品の供給不足に関しては、未だ改善の兆しは見えず苦慮している状況である。

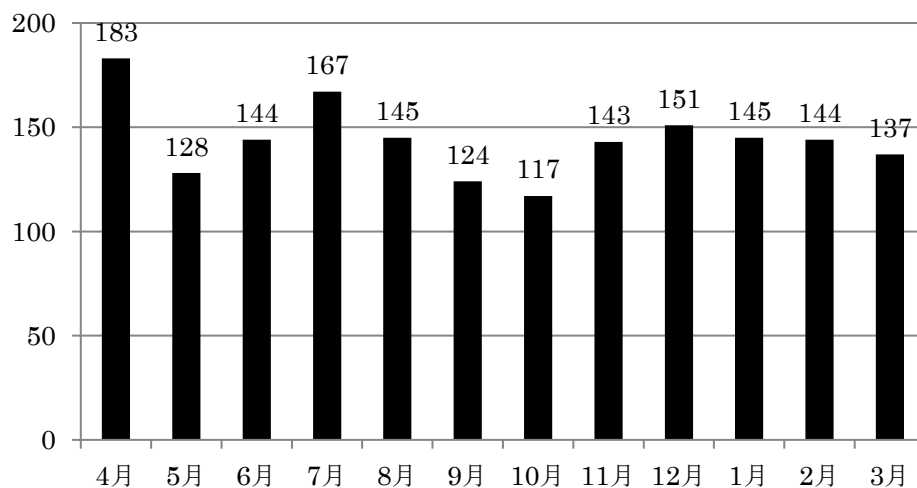
院内処方箋枚数



全外来処方箋発行件数に対する
一般名処方加算取得率



持参薬鑑別件数



放射線室

技師長 後藤 浩次郎

職場紹介

1. 職員構成

放射線技師 5名（男性3名、女性2名）

クラーク 1名（女性1名） 計6名

2. 業務内容

一般撮影、ポータブルX線撮影、骨塩定量検査、CT、胃透視、大腸透視、嚥下造影、MRI、MRCP、マンモグラフィー、健康診断撮影

2024年度を振り返って

2024年度は、2023年度と比較すると一般撮影、MRI検査に検査件数の増加がみられた。

CT検査、胃透視検査、マンモグラフィー検査は、検査数が減少している。

胃透視検査の減少は、胃カメラ検査を希望する方が多くなった為だと考えられる。

今年度は、前年度を大きく上回るようスタッフ一丸となって頑張りたいと思う。

2022～2024年度 統計

一般撮影

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	538	550	729	619	635	542	684	667	646	542	509	624	7285
2023年度	490	637	689	635	757	584	692	697	722	540	653	600	7696
2024年度	584	665	690	695	754	675	799	720	655	590	597	686	8110

CT

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	280	246	306	247	198	241	292	275	198	196	252	271	3002
2023年度	264	249	267	288	294	252	345	273	244	251	254	255	3236
2024年度	272	272	270	302	222	245	246	272	246	235	244	215	3041

MRI

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	86	90	103	67	56	50	69	63	62	72	51	74	843
2023年度	70	60	83	78	72	85	78	88	67	59	81	86	907
2024年度	73	94	70	86	93	74	80	82	78	66	64	72	932

胃透視

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	7	8	12	12	19	18	15	18	24	17	26	15	191
2023年度	8	10	28	22	14	19	13	9	18	20	18	20	199
2024年度	3	9	21	24	7	14	15	12	12	9	15	24	165

MMG

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年度	6	18	33	19	23	33	26	37	37	21	15	26	294
2023年度	20	19	31	29	19	26	36	28	34	29	20	33	324
2024年度	18	14	23	26	27	37	29	22	31	21	28	32	308

臨床検査室

副技師長 今坂 正生

職場紹介

1. 職員構成
臨床検査技師 3名
2. 業務内容
 - 1) 検体検査
血液、尿、糞便等の分析
 - 2) 生理検査
心電図、超音波、呼吸機能、脳波、眼底カメラ、脈波
3. 検査機器
血球計数器、血液ガス分析装置、電解質測定装置、生化学自動分析装置、尿素呼気分析装置、心電計、24時間ホルター心電計、超音波診断装置、肺機能測定器、脳波計、筋電計、無散瞳眼底カメラ、血圧脈波計、24時間血圧測定器、簡易型睡眠時無呼吸検査装置

2024年度を振り返って

スタッフが定数より1名減でのスタートでしたが、6月、7月で更に技師が退職した為マンパワー不足が生じました。検査室は病院長の管理下で、他部署からの協力体制を構築し何とか乗り切ることが出来ました。そして、検査件数は全体的に増加となりました。

その他として、6月に血液凝固測定機の導入、7月に血球計数装置、12月に血液ガス分析装置、血圧脈波計、1月に無散瞳眼底カメラを更新しました。

2020～2024年度 統計

	(件)				
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
血液検査	3,655	3,544	3,357	3,680	4,706
尿検査	8,497	9,010	8,688	8,966	9,061
生化学・免疫（院内）	5,682	6,489	7,330	9,058	9,347
血液・生化学・免疫（外注）	11,400	12,648	13,904	11,860	10,926
細菌検査	182	189	239	287	309
病理・細胞診	279	368	333	358	362
心電図	4,609	4,721	4,409	4,621	4,811
ホルター心電図	60	51	44	53	39
肺機能	52	28	41	302	415
腹部エコー	1187	1,252	1,066	970	917
表在エコー	530	542	472	478	453
心エコー	340	279	307	300	290
脳波	18	17	17	18	19
眼底カメラ	314	330	338	346	412
血圧脈波	159	167	189	186	163
その他	22	16	18	21	8

リハビリテーション課

課長 平島 哲也

職場紹介

1. 職員構成

課長 理学療法士 平島 哲也 課長代理 理学療法士 石元 淳也

主任 理学療法士 長谷川裕介

他 理学療法士 11名 作業療法士 10名 言語聴覚士 5名 音楽療法士 1名 リハビリ助手 1名

2. 業務内容

- 1) 入院、外来患者治療・訓練
- 2) 各部署カンファレンス、ミーティング参加
- 3) 退院前訪問指導・住宅改修案作成・調査実施
- 4) 介護予防事業（うきうきルーム・脳若）の運営

2024年度を振り返って

新型コロナにより中止・制限していた院外でのリハ業務（外出訓練・退院後訪問等）を再開しました。またスタッフのレベルアップおよび在宅部門との連携体制強化を目的にジョブローテーションを実施しました。業績面では上期は概ね目標達成することができましたが、下期の病棟稼働率の低迷の影響を受け、通年では目標未達に終わりました。

2025年度では、在宅部門との更なる連携強化、各病棟運営への協働体制を構築していく予定です。

2024年度 年間統計

(単位数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
PT	入院	4401	4276	4108	4288	4219	3638
	外来	392	246	213	191	173	181
OT	入院	2964	3207	3051	3403	3362	2965
	外来	36	57	78	65	74	61
ST	入院	1848	1765	1689	1893	1856	1516
	外来	44	30	34	35	40	32

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
PT	入院	3710	3669	4005	3849	3890	4150
	外来	198	173	127	111	169	197
OT	入院	3091	2804	3043	2901	2930	3214
	外来	74	94	80	45	49	45
ST	入院	1552	1543	1544	1645	1577	1844
	外来	37	36	23	6	3	12

職場紹介

1. 職員構成

病院側責任者：馬場 ひとみ 管理栄養士 3名 クラーク 1名

委託側：（日清医療食品株式会社）チーフ 秋山 妃代

栄養士 3名 調理師 2名 調理員 4名 食器洗浄パート 7名

1日実働人数 7～8名

2. 業務内容

- 1) 給食管理：入院中の患者さんの食事、付添の方々の食事、職員の食事
- 2) 栄養管理：入院中の患者さん
- 3) 栄養指導：入院中の患者さん、外来受診の患者さん、特定健診

2024年度を振り返って

・令和6年度診療報酬改定で、入院基本料等の見直しが行われ、栄養管理体制の基準の明確化が示された。当院の栄養管理手順も診療報酬改定に合わせ、関係部署と協議し、GLIM基準を栄養スクリーニングとして採用、多職種へ手順の周知、スムーズな導入に努めた。

・診療報酬改定を機に、「栄養管理計画書」と、内部資料扱いだった「栄養スクリーニング・モニタリング」をカルテ保管書類として一新した。今までの手書き（手入力）中心の書類作成では膨大な作業量になると予想できたので、電子カルテが導入されるまでのつなぎとして、簡易的な管理システムを企画、導入し、下記のような成果を得た。

- ① 給食管理ソフトのデータを活用し、入力量を2／3程度に減少させた。
- ② 概算でしか出せなかった栄養管理の数値をより綿密に計算できるようにした。
- ③ NST回診や体重推移一覧などの各種資料を、登録データから半自動作成できるようにした。
- ④ 個々の患者さんの栄養状態の推移を自動計算で可視化できるようにした。

・管理栄養士が専門職としての能力を発揮する業務に集中できるように、事務的な業務を担当するクラークを採用して、体制を整えた。管理栄養士は、事務業務に費やしていた時間を、徐々に病棟回診、多職種カンファレンス、家族会の参加などに、シフトできるようになり、献立をブラッシュアップする時間も確保できた。

2024年度 年間統計

食種別食数（単位：食）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食	9,845	10,794	9,900	10,495	11,382	10,418	10,048	9,780	10,264	10,255	10,118	11,440
特別食	1,963	1,815	1,791	2,075	1,566	1,378	1,201	848	1,238	1,207	1,557	1,513
合計	11,808	12,609	11,691	12,570	12,948	11,796	11,249	10,628	11,502	11,462	11,675	12,953

栄養指導件数（単位：件）

※相談とは入院中のホスピス病棟の栄養相談

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	6	3	11	6	7	6	5	10	3	6	5	7
入院	4	4	7	6	3	4	2	4	3	6	5	6
※相談	5	4	0	8	3	4	2	6	8	1	6	5
保健指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合計	15	11	18	20	13	14	9	20	14	13	16	18

職場紹介

1. 医療機器安全管理室とは

栄光病院を訪れる患者が安心して治療を受け、そして療養できるように、医療機器を必要時迅速に供給できるよう機器の整備、保守点検を主業務とする部署である。

2. 職員構成

室長：的野 修一（看護師・臨床工学技士）

職員：飯田 多佳子（臨床工学技士）

3. 業務内容

1. 医療機器保守点検計画作成
2. 医療機器保守点検
3. 医療機器修理対応
4. 医療機器貸出し対応
5. 医療機器に関する情報収集
6. 医療機器新規、入替え購入時の機種選定
7. 医療機器に関する研修会実施
8. 睡眠時無呼吸症候群検査調整
9. その他

2024年度を振り返って

2024年度は特に年末にかけて発熱患者が急増し、コロナ、インフルエンザも多かったため、引き続き機器の清掃、消毒を徹底して行った。また2024年度は2023年度同様老朽化した機器の不具合、故障が多く発生し、いつも以上に日頃の点検を徹底し出来るだけ不具合、故障が起こらぬよう、また早期発見を心掛けてきた。

また、「栄光これから研修会」等により医療機器についての知識、技術の向上を図り、特に病院移転時より使用していた人工呼吸器T-BIRDが換気量の低下等により使用不能となったため、新しい人工呼吸器を購入、スタッフへの使用方法等の勉強会を企画し、周知徹底を図った。

2025年度にむけて

2025年度は離床センサー等管理機器の種類、数量の増加に伴い、老朽化した保有機器の更新、必要数量の再検討を計画的に行いながら、輸液ポンプをはじめとするポンプ類、各種酸素流量計、吸引機等医療機器安全管理の更なる充実を図り、機器管理方法の見直し、業務の効率化等を行い、今まで以上にすべての機器を安全に迅速に必要な部署に供給できるよう業務に励んでいきたいと思う。

看護部

昨今の医療業界を取り巻く環境において、医師や看護師などの医療に従事する人材不足が深刻な問題となっています。更に、物価高騰による経費の上昇も、病院経営を圧迫する大きな要因となっている現状が、当院にも重くのしかかる2024年度でありました。高齢化が進むにつれて、医療のニーズは増してきていますが、高齢者人口が増加するほど、医療費の抑制も進むこととなります。病院経営においても明るい要素があまり見えてこない現状にあります。

2024年度は、看護部のあるべき姿『栄光会理念（フィロソフィ）を理解し、実践できる看護部となる』を中軸に、4つの看護部目標を掲げて実践して参りました。今年度は、看護師、看護補助者の人員定数に対して完全充足ができない中で、目標に対する行動計画の実行がなかなか困難な状況でした。妊娠、出産を迎える看護師が例年以上に多く、人員に対する課題を打破するためにも初の夜勤専従派遣看護師とトラベルナースの活用で多様な働き方を考慮しながら協働することが実現できました。

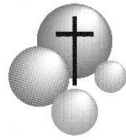
多くの課題を踏まえた中、幹部会で協議を重ね、理念達成に向けた『シン・栄光会5か年プロジェクト＜新（新生）・心（真心）・進（前進）＞』を立ち上げました。

新たなステージへ繋げていくための新しい発想と、様々な難関に対しても柔軟な姿勢で受け入れていくことを、全部署の管理者を始め個々人の職員の意識改革が求められることとなります。

今年度の大きな取り組みの一つに、福岡県看護協会より「新人看護職員アドバイザー派遣事業」に関して2年間の締結を行い、法人外部の医療関係の皆様との多くの繋がりを持たせていただく機会を得ることができました。長期課題であった新人（新卒）看護師の採用受け入れを停止について、まずは課題の洗い出しからのスタートではありましたが、アドバイザーの貴重な助言を受け、様々な情報共有をさせていただくことで、また新たな課題の発見となりました。新人看護職員を受け入れるにあたり、アドバイザー施設で実施されている新人看護職員指導者向けの研修に、看護副主任、看護主任総勢12名の参加を受け入れていただき、指導者としての心構えとZ世代の特徴を知る学び多い貴重な受講となりました。多くの皆様の出会いから当院の看護部運営が進展した1年となったことをとても嬉しく思います。

来年度も継続的に新人看護職員受け入れに向けた仕組みづくりを、看護部全体で取り組んでいく所存でございます。

最期になりますが、地域から求められる当院の役割を再確認し、必要とされる栄光会であるために、私たち看護部一人一人が理念の実践を遂行していくことで、関わる全ての方より愛され、選ばれる病院へと発展し、職員の幸せ度の向上へと繋がることを切に願いたいと思います。



2024年度看護部目標

【あるべき姿】

『栄光会理念（フィロソフィ）を
理解し、実践できる看護部となる』

【目標】

1. 栄光会フィロソフィ、経営に対する関心・意識を
高く持つことのできる看護部の組織風土を育てる
2. ホスピスマインドを看護部全体で実践し、
看護サービス・看護の質向上を図る
3. 多様な働き方に考慮した勤務形態を構築し、
働きがいを持って業務に励む事ができる
4. 看護師と看護補助者（他職種も含め）がパートナーシップを
形成し、患者中心のケアを実践する

2024年4月1日 看護部



社会医療法人
栄光会

栄光病院

ホスピス
緩和ケア病棟

消化器内視鏡
センター

地域包括ケア
病棟

外来

神経難病
病棟

回復期リハビリ
テーション病棟

栄光会
ファミリークリニック
(全年齢型クリニック)

在宅
医療センター

健診センター

栄光会訪問看護
ステーション

ライフサポートセンター
(地域連携室)

医療安全管理室
感染防止対策室

癒し癒される

『こころ』も『からだ』もともに癒され、しあわせに生きる医療を目指しています



栄光会 看護部理念

優

～やさしさ～



人が憂いを背負うと書いて 優と読む
私たちは 患者さんの憂い（悩み・悲しみ・痛み・苦しみ）を
覚悟を持って共に背負い
常に寄り添う看護師でありたいと思います

職場紹介

1. 職員構成

看護部長： 堤 千香子

副看護部長： 下稲葉 道一

看護師： 大窪 徳子（リリーフ看護師）

クラーク： 和田 麻理

2. 業務内容

1. 看護部の運営方針
2. 看護部の人事配置・人事・人材活用
3. 看護部の採用計画及び就業活動
4. 教育方針・活動計画・人材育成
5. 病院運営への参加

2024年度を振り返って

1 栄光会フィロソフィ、経営に対する関心・意識を高く持つことのできる看護部の組織風土を育てる

1) フィロソフィの唱和

①毎日4%+週3回以上14.1%＝18.1%（2023年度看護部アンケートより）

②毎日4.1%+週3回以上7.6%＝11.7%（2024年度看護部アンケートより）

⇒-6.4%減少

2) 理念に対する理解

①十分ある13.6%+ある程度ある71.8%＝85.4%

（2023年度看護部アンケートより）

②十分ある11.8%+ある程度ある75.3%＝87.1%

（2024年度看護部アンケートより）

⇒1.7%上昇

3) フィロソフィ発表会

【 ウキウキ・ワクワクフィロソフィ 『パートナーシップ』 】

パートナーシップをテーマに関わる方々とのエピソードをフィロソフィに紐づけて考える時間を得ることができた。看護部研修会2部制で発表会を実施し、昨年度同様有意義な時間となった。

- 2 ホスピスマインドを看護部全体で実践し、看護サービス・看護の質の向上を図る
 - 1) 今年度は年間を通じて看護要員の人員配置定数が未充足であり、行動計画の実行が困難であった。
 - 2) Kidsジョブチャレンジの開催
福岡都市圏地域経済・観光振興事業「ふくおか都市圏kidsジョブチャレンジ2024 in 糟屋」の参加依頼を受け実施。コロナ禍を経て大きなイベントを院内で実施できたことは、大変喜ばしいことであった。未来のプチナースから元気と勇気をいただいた1日であった。
- 3 多様な働き方に考慮した勤務形態を構築し、働きがいを持って業務に励む事ができる看護要員の人員配置を満たすことができず、多様な働き方を検討する
⇒派遣職員の夜勤専従看護師の導入
⇒トラベルナースの導入
⇒看護補助者離職率 45.8%（看護補助者個々の評価を行い、個別育成を検討）
- 4 看護師と看護補助者（多職種も含め）がパートナーシップを形成し、患者中心のケアを実践する
⇒看護補助者体制充実加算の体制の維持・向上
⇒看護補助者研修実施（OJT実行 移乗・食事介助）

2025年度に向けて

【2025年度 看護部目標】

- 1 栄光会フィロソフィに基づいて経営目標を理解し実践（目標達成）することができる
- 2 ホスピスマインドを看護部全体で実践し、看護サービス・看護の質向上を図る
- 3 パートナーシップ形成、業務効率向上により、部署環境が安定し離職率が改善する
- 4 教育体制を整備し、看護部個々の職員が成長できる体制を構築する

【看護部教育スローガン】

きょういく 共育



～共に学び・共に育つ～

職場紹介

1. 職員構成

看護師 16 名・准看護師 3 名・ケアワーカー 1 名・クラーク 1 名
(消化器内視鏡技師 4 名・福岡糖尿病療養指導士 1 名・日本糖尿病療養指導士 1 名)

師長： 岡崎 祥子

主任： 桐島 あす香

副主任： 中村 直子・山下 香・鈴木 裕美子

2. 診療内容

総合診療科・発熱外来・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・脳神経内科・糖尿病内科
ホスピス外来（相談）・消化器外科・肛門科・整形外科・泌尿器科・消化器内視鏡センター
健診センター・中材

2024 年度を振り返って

2024 年度外来目標

【『栄光会の玄関』としての誇りと責任をもち、選ばれる外来となる】

1. 「優しさ」を大切にしながら栄光会フィロソフィの理解とホスピスマインドの実践を通じて、
接遇力を高める
2. 外来受診率の増加
3. ワークライフバランスの充実
4. 地域・多職種との連携を強化し、「協働」を実行する
5. コスト意識をもち、適切な在庫管理をする

2024 年度も特に夏と冬は、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザは繰り返し流行の波が訪れ、流行時期は、発熱外来を求めて来院する患者は後を絶たなかった。今年度は、年末年始にインフルエンザ陽性者が爆発的に増加。昼夜問わず、発熱外来は対応に追われた。夜間帯の発熱外来の需要が多く、1 月は時間外初診率が 50% 台だった。発熱外来スペースを広げる等、工夫をしながらお断りなく対応できた。時間外初診率の回復は実現し、成長し続けている。

一方で様々な要因が絡み合い、時間内においては外来受診率が伸び悩んだ。患者層も高齢化が進み（当院かかりつけの患者の約 50% が 70 歳以上）当院に通院するための交通手段に不便を感じる方が多いのも現実問題である。タクシーを呼んでもなかなか到着しない事やバス停が遠く不便を感じる方、自力では通院できない方も増えてきており、すぐには解決できない問題も多く苦慮している。

当院は、中核病院としての役割を果たす必要があり、地域に根付いた病院でありたい。かかりつけの方に限らず、主に糟屋地区の皆様の駆け込み寺の役割を果たすには、やはり「協働」であり「コミュニケーション」「パートナーシップ」だと考える。開業医の先生方をはじめ、急性期病院との連携・病棟やファミリークリニックとの連携を取り、ベッドコントロールも重要になってくる。

外来スタッフが最高のパフォーマンスを発揮できるように業務調整や配置考慮、心身ともに健康でいられる様に、プライベートの時間も大切にできる配慮（休みの確保）を意識して統括した。時には厳しいご指摘を受ける事もあるが、スタッフひとり一人が「外来は栄光病院の玄関であり、顔」という事を意識しながら役割を果たそうと頑張れた1年であった。

2025年度に向けて

昨年と同様に、よき伝統を大切に悪しき習慣は見直しをしていき、特に接遇面に配慮し地域の方々へ細やかな対応を心掛けたい。加えて、開業医の先生方や急性期病院との連携を強化し、特に当院かかりつけの患者さんやご紹介いただく患者さんを一人でも多く対応できるように病棟との連携も強化していく。

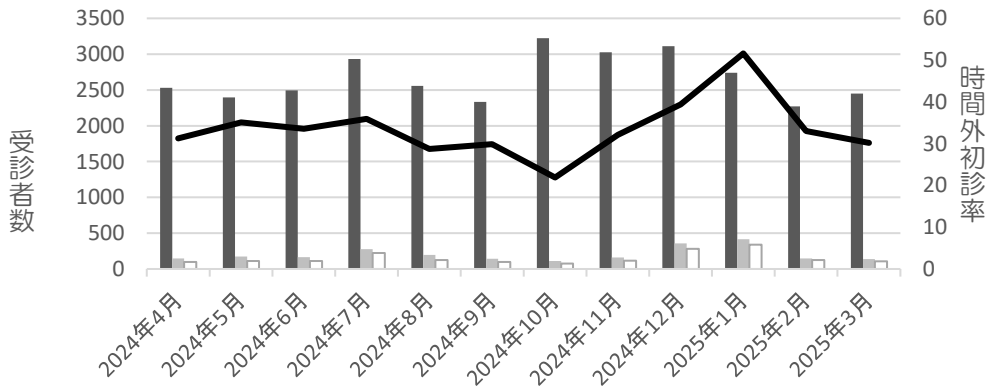
2025年度外来目標

【『栄光会の玄関』としての誇りと責任をもち、選ばれる外来となる】

- 1. 「優しさ」を大切にしながら栄光会フィロソフィの理解とホスピスマインドの実践を通じて接遇力を高める
- 2. 外来受診者数の増加
- 3. 院内各部署との連携を強化する
- 4. 看護共育を推進し知識の向上と継続的なアップデートを図る

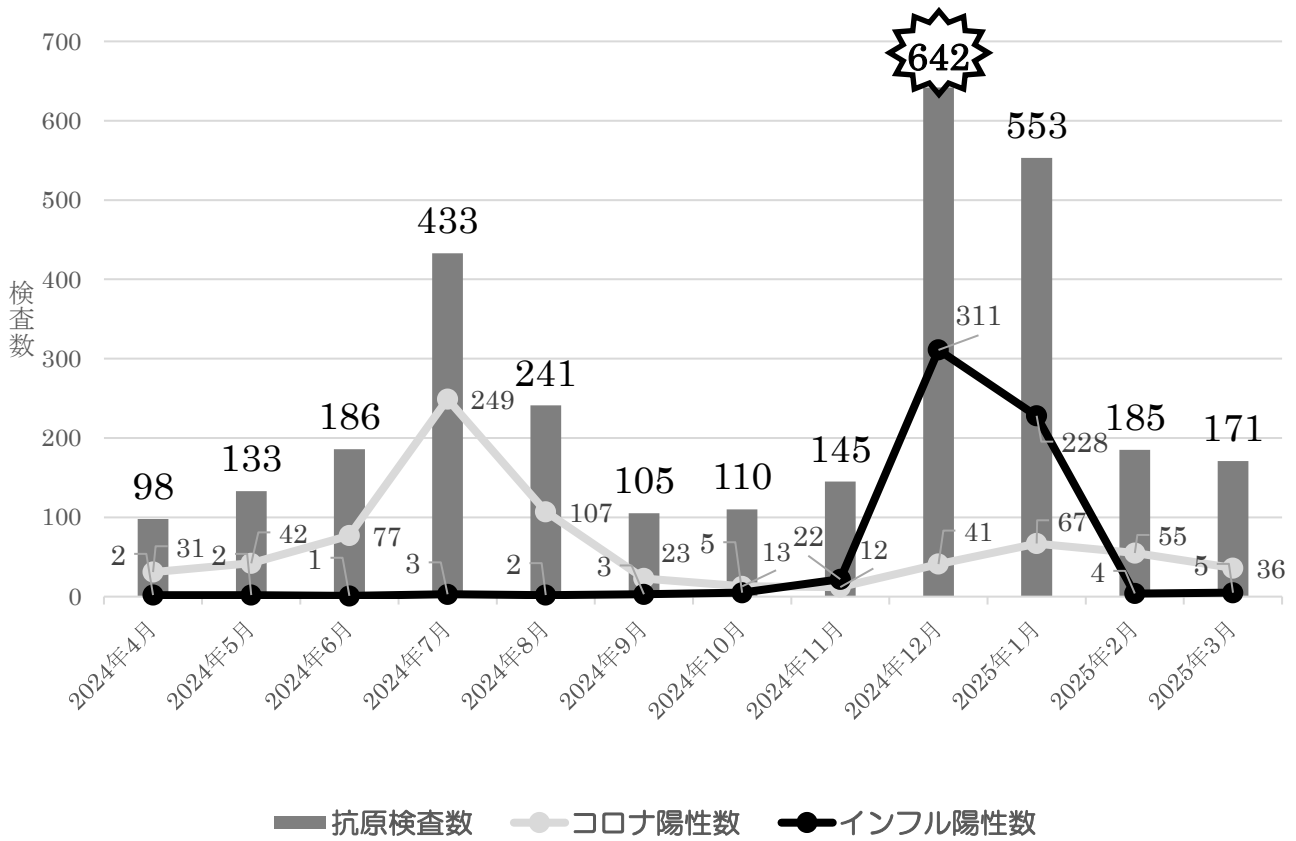
年間統計

2024年度外来受診者総数

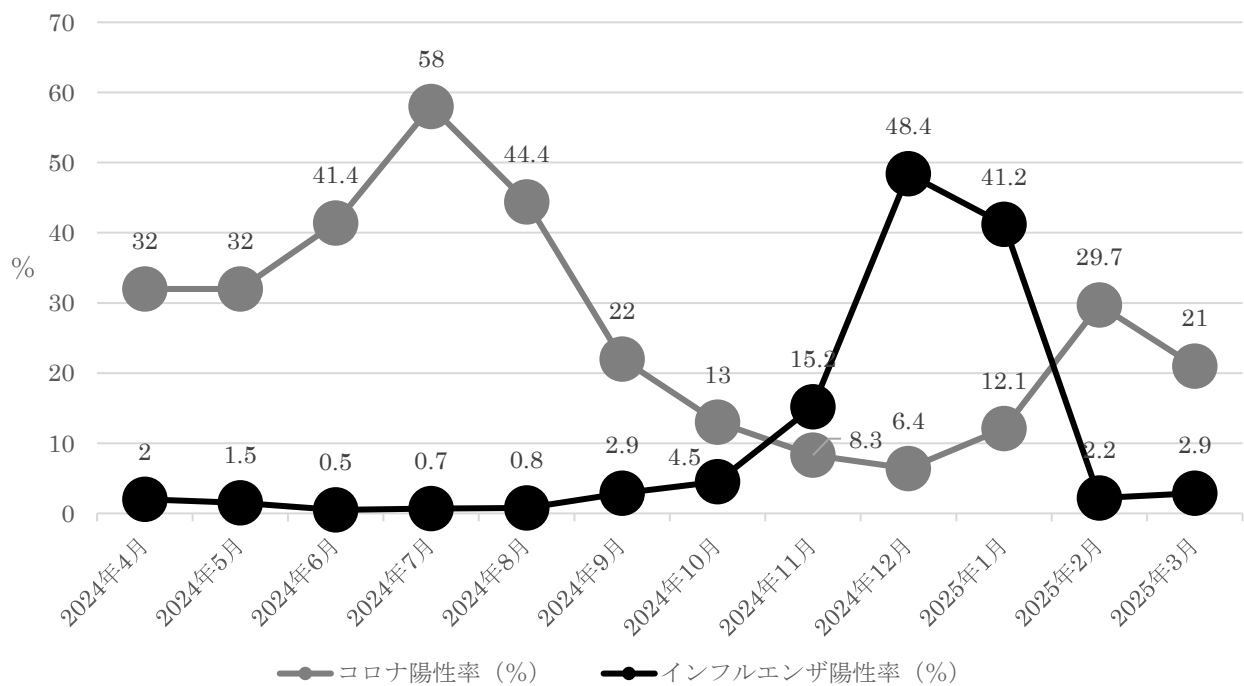


	2024 年4月	2024 年5月	2024 年6月	2024 年7月	2024 年8月	2024 年9月	2024 年10 月	2024 年11 月	2024 年12 月	2025 年1月	2025 年2月	2025 年3月
■ 受診者数総計 (人)	2529	2394	2493	2931	2559	2334	3225	3026	3111	2742	2270	2448
■ 時間外受診者数(人)	146	174	163	278	198	141	113	159	357	416	148	140
□ 時間外初診者数 (人)	98	110	112	222	127	96	77	118	280	341	123	106
— 当月時間外初診率(%)	31.3	35.1	33.6	35.9	28.7	29.9	21.9	32.1	39.4	51.6	33	30.2

コロナ・インフル抗原検査総数



コロナ・インフル陽性率比較



職場紹介

1. 職員構成

看護師 24名

看護助手 2名 クラーク 1名

2. 業務内容

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアを提供する

2024年度を振り返って

【3 A病棟のあるべき姿】

ホスピスマインドを持ち、心を込めたケアが実践できる

～あきらめず・投げ出さず・関り続ける忍耐力が希望を生み出す～

【3 A病棟目標】

1. 接遇・倫理

①ホスピスマインドの実践

②倫理カンファレンス

2. 知識・技術の基本に戻る

①診断カンファレンスの充実

②オリエンテーション資料の活用

③認知症ケア

3. 報告・相談できる

①チーム活動の理解・協働

②リーダーシップ・メンバーシップ

4. 経営参画

①療養の場を整える インシデント・アクシデントの削減

②退院支援

【実施・評価】

1) 接遇チェックリストを使用することで、接遇への意識が向上したと評価あり。

ホスピスカンファへの看護師の参加集合率が悪く、休憩時間や開始前の業務時間の調整を図ったことで看護師の参加率が上がったと評価あり、来年度も継続し多職種でのカンファレンスを実施継続する。

2) 診断カンファレンスへの意識が乏しかったことから、集まることを目標に時間を固定。一日のカンファレンス実施人数を制限することで意識を高めることができた。アウトカムについても個別性を考え検討する時間も増えていた。

日々の業務の中で、疑問の声があった間欠的鎮静と、STASについて勉強会を実施。新入職オリエンテーションの資料を基に、また、認定看護師の協力を得て実施できた。今後も継続した学習会の実施の検討を行っていく。

ユマニチュードを活用した資料を作成し、プランの作成やアウトカムを考える際のエッセンスにして欲しいことをスタッフへ伝え、取り組みの意識を高めるためポスターも作成した。

- 3) SHELL 分析や都度発生する決まりごとのまとめとして、マニュアルに組み込むものを整理した。リーダーシップ・メンバーシップの発揮に向けて、『コミュニケーションのための自己理解』の聞き取り調査実施。

それぞれの働き方が見え、聞き取り調査結果を踏まえて来年度もそれぞれの特徴を踏まえたコミュニケーションをとり、リーダーシップ・メンバーシップの発揮に向けて取り組んでいく。

- 4) 「療養の場を整える」を目標に、病室内のクッション・布団の整理整頓は実施継続出来ている。病室は生活の場でもあるため、気持ちよく過ごせる環境を患者さん・ご家族と共に考え見出し整えていく。

インシデント・アクシデントとしては看護師要因の報告が昨年と変らなかったため、次年度も引き続き看護師要因の報告削減に向けて取り組んでいく。

退院支援として、看護計画やパンフレットの修正を実施。在宅への退院患者に応じて使用し、今後も評価・修正を継続していく。

2025年度に向けて

2024年度は、体調不良者を抱えながらのスタートであり、部署間を超えての期間限定の応援スタッフや、派遣看護師、トラベルナースと多様な働き方のスタッフの協力を受け病棟運営が出来たと考える。4名の退職者があり都度、新入職者を迎え指導・フォローを繰り返し、既存のスタッフの疲労が大きかったと振り返る。

3Aは、患者さん・ご家族のために何が出来かを考える力のあるチームであり、ホスピス病棟ならではの取り組みとして、1人の患者さんが大切にしてきた家業のお好み焼きを、スタッフと共に焼いて皆に振舞うなど取り組むことが出来た。

新入職者のスタッフもホスピスマインドに触れながら、栄光病院のホスピス病棟に求められているケアを充実させる取り組みを継続していきたいと思う。

【2025年度病棟目標】

『患者・家族が安心して過ごせるよう、心の通った看護を実践する』

1. 心を込めたケアの実践ができる

看護記録の充実が図れる

動画視聴も含めた研修参加

2. 病棟・病室が心地よいと思える

患者満足度調査

インシデント・アクシデント削減

決定事項の周知徹底

3. 心身共に健康で働ける

病床稼働 92% 病床 22床 時間外削減

職場紹介

1. 職員構成

看護師：22名

看護助手：1名 クラーク：1名

2. 業務内容

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアを提供する

2024年度を振り返って

【3B病棟のあるべき姿】

ホスピスマインドを持ち、心を込めたケアが実践できる

～あきらめず・投げ出さず・関り続ける忍耐力が希望を生み出す～

【3B病棟目標】

1. 栄光会フィロソフィを基盤とした、安全・安心・信頼できるホスピスケアを提供する

1) 看護師要因のインシデントを50%削減

2) 看取り期におけるケアの充実

3) 癒し癒される療養環境の提供

2. チームを構成するスタッフが協働し、時間管理を意識したメリハリのある働き方、働きやすい職場を実現する

1) 申し送り時間15分以内

2) 時間外勤務 10時間以内

3) パートナーシップの構築と職場環境の整備

3. 積極的な経営参画 21床 88%稼働率を目標に入退院支援を行う

【評価】

1-1) TQMの活動として、チームや医療安全で取り組みを行った。内服に関連した看護師要因のインシデントが多かったため、思い込みに関する勉強会や、インシデントカンファレンスを行った。看護師要因のインシデントに関しては、前年度と比較し45%の削減と、目標には達成しなかったが、インシデント・アクシデント自体も100件近く削減でき、取り組みの効果はあったと考える。

1-2) 看取り期のケアの充実に関しては、臨死期のケアプランが病院機能評価での指摘事項であったため、チーム活動として取り組んでいった。スタッフへ看取り期のケアについてのアンケートを行いながら、個別性を記入しやすい自由度のあるケアプランを作成。これは、看取り期のケアを充実させるツールとして、スタッフ間の状況共有として活用していく予定である。

1－3）癒し癒される療養環境の提供は、2つのチームで取り組んだ。

患者さんのベッドサイドの療養環境を整えることに取り組んだチームは、家族を巻き込んだ部屋の整理整頓や、ケアリー時に使用するビニール袋の切れ端が廊下に落ちないように、ビニール袋の取り出し方法の改良を重ねていった。

おもてなしチームは、ロビーの飾りつけや、園芸を行った。3階のベランダには、常に花が咲いているように、季節折々の花を植えたり、種まきから患者さんと一緒に行い植物が成長する様子を一緒に楽しんだりした。藍染体験や、ベランダで育てたシソをジュースにして、患者さんと過ごす時間は、スタッフにとってもいい思い出となっている。

2－1）病棟の忙しさによって申し送りの集合にばらつきはあったが、個々のスタッフが時間を意識して集合しようとする姿勢は伺えた。申し送りは9時を過ぎることが多く、引き続きポイントを押さえた申し送りをスタッフが意識していく必要がある。

2－2）時間外勤務に関しては、稼働率に連動することが多いが、年間を通して、平均の時間外勤務は5時間程で、目標は達成できた。

2－3）これに関しては、特別な取り組みをしたわけではないが、師長・主任からスタッフとしっかりコミュニケーションをとるように心がけることで、チーム全体のコミュニケーションが活発になり、チームとして動いている意識が形成されていったと考える。

3．2024年度は、平均患者数20.5人、稼働率86%と目標達成はできなかった。ただ、入院患者数202名、退院患者数197名と3病棟の中では一番多いことから、それだけ患者の入れ替わりが激しく、スタッフも大変な状況下で努力をしていた。

2025年度に向けて

3B病棟は2024年5人の妊婦を送り出し、新たな命の誕生をともに喜び合うことができた。産休でスタッフが減った分スタッフが入れ替わり、更には和田師長代理を迎え、新たな体制で新年度の船出となる。

3Bは、明るく団結力があるのがチームとしての強みであり、それはホスピスケアにも存分に活かされている。スタッフが入れ替わっても、チームとしての強みはそのままに、栄光病院のホスピス病棟に求められているケアを充実させていってほしい。

【2025年度病棟目標】

患者・家族が安心して過ごせるよう、心の通った看護を実践する

1．栄光会フィロソフィを基盤とした、ホスピスケアを実践する

1）ケアの充実・質の向上（フィロソフィ活動、接遇、倫理）

2）癒し癒される療養環境の提供（環境）

3）積極的な経営参画 21床、88%稼働率を目標に入退院支援を行なう

2．チームを構成するスタッフが協働し、時間管理を意識した、働き方、働きやすい職場を実現する（スタッフの定着・インシデント対策）

1）時間の有効活用（残業を減らす）

2）パートナーシップの構築と職場環境の整備

職場紹介

1. 職員構成

看護師：20～22名（緩和ケア認定看護師1名、皮膚排泄ケア認定看護師1名）

看護助手：2名 クラーク：1名

2. 業務内容

ホスピス病棟の理念に沿った全人的ケアを提供する

2024年度を振り返って

1. 全人的ケア、ホスピスマインドに基づいた個別性を大切にするケアについて深め、患者・家族満足度が前年度より上がる。

＜実践＞看護計画モデルチームが中心となり、具体的にその人らしさが見える看護目標となるカンファレンスを実施した。2024年度は社会的苦痛を抱えている患者さん・ご家族が目立ち、チャプレンやMSWと連携しながら、チームアプローチで全人的ケアを行なった。

＜結果・評価＞投書箱には感謝のメッセージが数件あった。患者満足度調査についてはアンケート件数が少ないため、少数意見と思われる満足に至らない意見があった。日頃より、患者さん・ご家族とのコミュニケーションを丁寧にとりながら、満足してもらえる入院生活環境を作る。

2. 皆が気兼ねなく意見を述べることができ、自分らしくいられる組織風土となる。

＜実践＞各チーム目標に添ってチーム活動を行ない、メンバーシップで協力し合った。

- ・看護計画モデルチーム
- ・看護補助者との連携チーム
- ・フィッシュ哲学マインドで明るい職場を作るチーム
- ・倫理チーム

＜結果・評価＞チーム活動の平均評点は5点満点中3.4点であった。前年度に比べて0.5点減少だった。日々の病棟業務で精いっぱいであり、チーム活動までの余裕がない状況であったと考える。朝のミニカンファレンスでは、患者さん・ご家族のケアについて、モヤモヤしていることを皆で意見交換し、ケアの方向性を共有できる場となっていた。半面、自分の感情で部署全体の空気を乱すスタッフもいたため、新入職や異動者に対してみんなで協力し合う配慮を心がける。

3. 積極的な経営参画の実践で、稼働率89%（21.5床／日）、入院受けを16床／月以上とし、入退院支援を行う。

＜実践＞スタッフの退職や異動、体調不良による欠勤、子供に関する欠勤などで常に人員不足の中、声を掛け合いながら入院は断らずに受けることができた。

＜結果・評価＞稼働率約85%、目標値には至らなかった。

職場紹介

地域包括ケア病棟入院基本料1 算定

看護基準 13:1以上

1. 職員構成

医師：外科医師 3名（理事長・外科部長・医師） 外科・整形外科他担当
内科医師 2名（内科部長・総合診療科部長） 呼吸器・消化器内科 他
看護師：22名

認知症看護認定看護師1名、皮膚排泄ケア認定看護師1名、看護実習指導者2名、
救急救命士1名、医療的ケア教員2名、介護支援専門員1名

看護補助者：7名

病棟クラーク：1名

2. 業務内容（地域包括ケア病棟）

地域包括ケア病棟（病床）には、3つの役割があります。

1. ポストアキュート：急性期治療を経過し病状が安定した患者
2. サブアキュート：自宅や介護施設等において急性増悪した患者
3. 在宅復帰支援：在宅療養に不安のある患者

この3つの役割を果たすために、院内・地域内多職種協働による退院支援を実践することで切れ目のない医療提供を行い、「ときどき入院 ほぼ在宅」を目指しています。

2024年度を振り返って

【病棟目標】

1. 選ばれる病棟を目指す

計画的な入退院調整を行い稼働率維持（緊急入院お断りゼロを目指す）に努めた。4月から9月までは、稼働率も89%維持できていたが、10月は、入院相談数も減り、重症者が多く緊急入院を受け入れる病室の確保が出来なかった。しかし、12月からは、徐々に稼働率も上昇し、病室移動等で工夫しながら空床を利用し緊急入院を受入れる事ができた。

病床稼働率 87%（目標89%）

在宅復帰率 80.2%（目標72.5%）

入院数／月 35名（目標39名）

* 統計資料参照

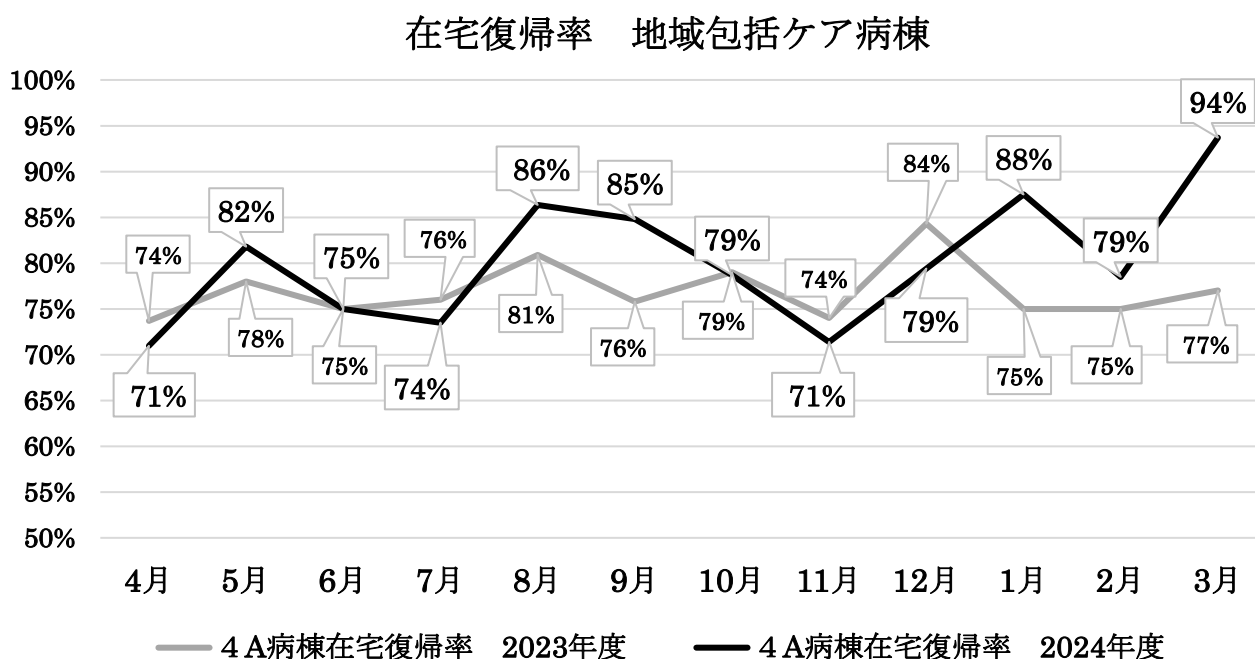
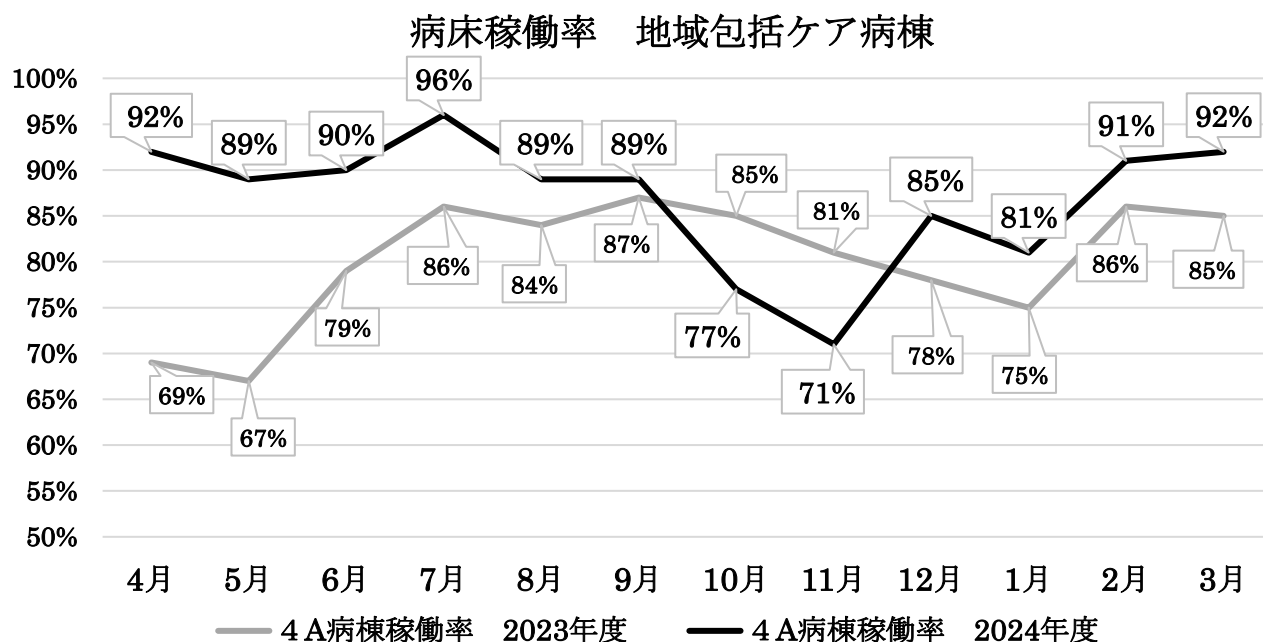
2. 看護補助者ケア加算の確立

看護補助者ケア加算を取得した事で、看護補助者へ業務委託できるようになり時間の余裕ができた。また、情報共有するために今まで以上にお互いがコミュニケーションをとり、責任感が増した。月1回の会議や毎日、午後からの勤務時に残業務などを確認する時間を設け、協力して業務を行うことができた。

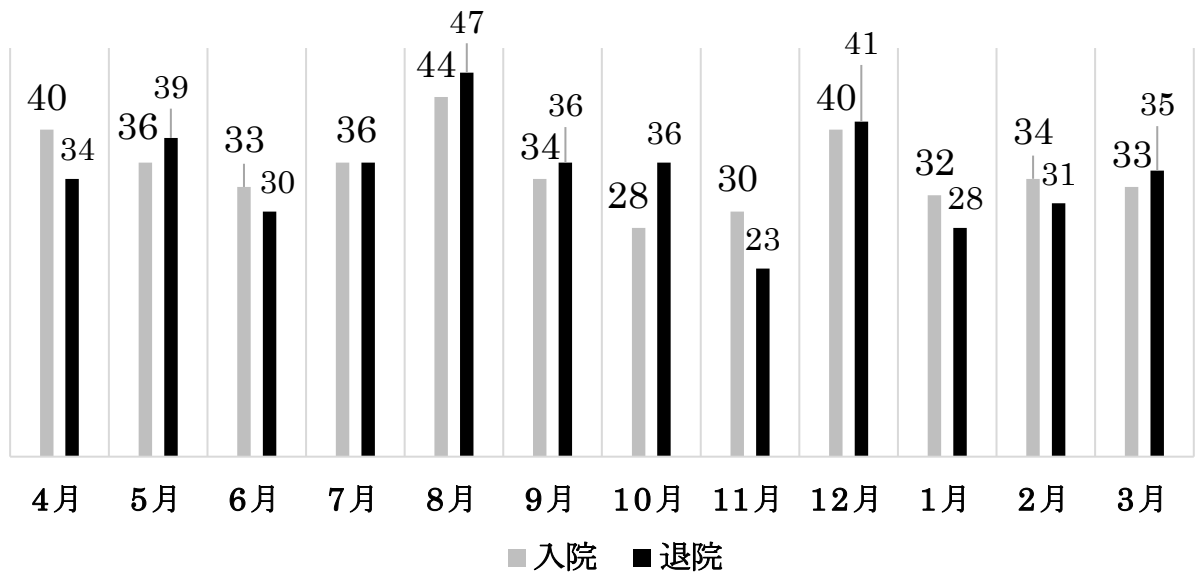
3. 職員満足度を上げ働きやすい職場を作る

今年度は、看護師の退職者は、0名であった。看護補助者は、2名の退職者がありマンパワー不足のため、残業が増えることで疲労感が増す日もあったが、病院内外で協力体制をとることで、全員が協力し乗り越える事ができた。リフレッシュ休暇は希望者全員取得できた。来年度は、協力体制は確立されているので、残業を減らし、生活にメリハリをつけ、心身共にリフレッシュできる環境を整え、引き続き退職者ゼロで働きやすい職場を目指す。

年間統計



2024年度月毎の入退院数



職場紹介

1. 職員構成

看護師 19名 看護補助者 6名 クラーク 1名

2. 業務内容

<病棟基本方針>

- ① 地域の神経難病患者さんを主に受け入れていきます
- ② 入院患者のADLを維持し、QOLを高めることで継続的で安全・安楽な医療看護を提供します
- ③ 癒し、癒される関係の構築を図ります
- ④ レスパイトを通して在宅医療の支援を図ります

<4 B 病棟の目指すべき医療・看護>

- 進行性の病とともに生きる患者やその家族の気持ちに寄り添い、安全と倫理を土台とした全人的ケアを実践する
- 患者が持てる力を活用してその人らしく生活できるよう多職種チームで連携し QOL の維持・向上を目指す

<入院患者状況>

神経難病を主に対象とする病棟。

主な疾患名は、パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症など。

主な入院目的は、

- ①病状評価のための検査
- ②身体機能維持・向上を目指したりハビリ
- ③症状マネジメント
- ④合併症治療
- ⑤呼吸器装着、胃ろう造設・交換
- ⑥レスパイトのための短期入院
- ⑦在宅療養指導
- ⑧医療依存度の高い患者の長期療養～看取りケア

などへの対応を行っている

<病床数>

28床

2024年度を振り返って

【病棟目標】

1. 個別性のある全人的ケアを実践し、患者のQOL向上を支援する

- ① 各チーム活動の充実を図る
- ② 多職種チームアプローチを深め、患者の療養上の目標に沿った看護を実践する

＜評価＞

内科カンファレンスで活用するシートを改訂しカンファレンスの充実につなげる方向で活動したが、様々な検討の上で改訂版の完成に至っていない。シートの完成は次年度につなげる。さらにコミュニケーションを深めチームで協働する体制作りを引き続き行っていく。

2. スタッフがやりがいと誇りを持った仕事を実践し、職務満足度が上がる

- ① セルフケアとスタッフのケア
- ② 部署の業務手順、決まりごとの見直し・検討

＜評価＞

各自で役割分担し勉強会の実施や業務改善を行った。各チーム会での意見をリーダー会で吸い上げ、部署全体で検討する場を明確に持ったことでそれぞれの気づきや意見が反映された部署運営に繋がっている。その中で、心身の不調を機に欠勤・退職に至った職員が複数名あり。スタッフが限られた中で協力して業務遂行ができた。

3. 安定した部署運営への取り組みを実践する

- ① 稼働率89%維持に取り組む
- ② 残業時間短縮の取り組み

＜評価＞

2024年度 平均在院患者数22.9人 平均稼働率81.8%、目標未達成。
神経難病センターとしての役割を果たすとともに、一般疾患・ホスピス待機患者の受け入れを積極的に行い、さらに意識を高め取り組んでいく。

2025年度にむけて

【病棟目標】

昨年はフィロソフィでパートナーシップについて考え振り返る機会を持ちました。

2025年度は、4B病棟患者ケアの核となる多職種連携・協働を通してパートナーシップを具体的に実践し、さらなる患者ケアの質向上を目指します。

1) チーム力（パートナーシップ）を発揮し、QOLを支える看護・介護を実践する

- ① 多職種連携・協働の促進～神経難病の特徴を理解し患者を生活者として支援する～
 - * 誤嚥性肺炎予防、離床促進、拘縮予防など患者の生活の中でできるケアの充実
 - * 内科カンファレンスシートの活用・充実
 - * 多職種カンファレンス、家族会の定期的実施の定着
 - * 4B病棟のケアの基本である呼吸管理・栄養管理などについて知識技術の向上

②チーム活動でそれぞれの役割を実践し、業務改善・ケアの質向上を促進する

* チーム目標に沿って活動を進める

* チームリーダー会、病棟会を活用し部署運営について深める

* TQM発表

2) 個の力、チームの力で長く元気に働ける職場環境を作る

①自己管理（セルフケア・セルフコントロール）に努める

* 心身の健康管理、時間管理、期限期日の厳守、接遇・態度

* 有給休暇消化率平均50%以上、時間外勤務総時間月平均50時間以内

②各自が高めたいキャリア（能力・目標）を明確にし、研修や学ぶ機会を持つ

* e - ラーニングの活用、難病ネットワーク主催の研修参加・伝達講習

3) 数値目標（26名／93%）を達成し経営参画する

①部署の役割を理解し、入院退院支援を行う

②入院待機日数を7日以内に調整する

職場紹介

1. 職員構成 看護師長代理：倉田 正子
 主 任：平山 好恵
 副 主 任：藤田 花奈子
 看護師 18名（上記含む）、ケアワーカー5名、クランク1名
2. 診療内容／業務内容
 回復期リハビリテーション病棟
 脳血管疾患や骨折術後など急性期治療を終えた患者さんに、リハビリテーションを集中的に行う。
 在宅復帰を目標に各職種専門性を活かし、各患者さんにあった効率的なリハビリテーションを提供する。

2024年度を振り返って

2024年度5A病棟目標

1. 効果的な退院支援に取り組み、看護の質の向上を目指す
2. 看護師と看護補助者のパートナーシップの形成により、働き甲斐をもって業務に励むことができる
3. 認知症への知識を高め、対応力強化を図る

1. 合同カンファレンス・看護診断カンファレンスは週間スケジュールに組み込めず実施できなかったが、臨時のカンファレンスや、終礼時に必要事項の共有を行った。次年度への課題である。多職種カンファレンスは必要時に各自担当が集まり話し合いを行っていたが、現状の共有のあり方の方法をどうするかが今後の課題である。家族会はご家族が質問など話しやすい場となるように引き続き改善していく。退院支援に関しては、チームリーダーの退職やマンパワー不足に起因する夜勤回数の増加に伴い、日々の業務を回すことに精一杯で、中々深くチームメンバーが関わることが出来ない現状であった。しかし患者個々にあった支援という点においては想定していた転帰先の急な変更が発生した場合でも、各職種からなる担当を中心に患者さんやご家族と関わり、支援が出来た。

2. 慢性的に看護補助者の人員不足があり協働に向けた取り組みを進めていくのに現状厳しいものがあつた。まずは人員の定着が最重要である。現状、看護師が担っている看護補助者業務も多くあり、人員が充足したうえで次年度協働に向けて取り組んでいきたい。

3. 病棟の特性上、高齢者が多い為認知症の患者さんが多くその対応力強化は大切である。今年度はケアカンファレンスを4回開催し皆で学びを深める事が出来た。困っている事を共有し患者さんが安全にリハビリできるように対応を検討した。またコロナ禍で長らく実施できなかった夏祭りとクリスマス会が開催でき、長い入院生活とリハビリでおそらくストレスがたまっているだろう患者さん達が楽しそうに参加されていた姿が印象的であった。忙しい中時間を作って準備を進め開催したメンバーにとってよい成功体験になったと思う。



2025年度にむけて

5A病棟のあるべき姿

『在宅復帰』

1. 患者個々に合った看護・支援をおこなう
2. 【連携】各職種の専門性を活かし、効果的なリハビリを提供する

2025年度病棟目標

1. 回復期リハビリテーション病棟入院料2，病床稼働率の維持（94%以上）

- 1) 入院相談の速やかな受入れ調整。
- 2) 退院時期のコントロール。

2. 効果的な退院支援に取組み、看護の質の向上を目指す。

- 1) 退院支援チームのグループ化により、細やかな退院支援ができる。
- 2) 多職種カンファレンス、家族会の充実。
- 3) 合同カンファレンス、診断カンファレンスの開催。

3. 多職種とのパートナーシップの形成により、働きやすい部署環境が整う。

- 1) 看護師・看護補助者の役割分担を明確にする。
- 2) 業務改善（業務検討会の開催）。
- 3) 多職種でのミーティングの開催。
- 4) 個々の成長をサポートする。
 - ①スタッフ間の指導統一。
 - ②新入職者に対するフォロー体制の確立。
 - ③院外研修への参加促進。



感染防止対策室

医療安全管理室

■ 感染防止対策室

室 長 安藤 俊二

副室長 鎌倉 富雄

職場紹介

1. 職員構成 室 長：安藤 俊二

副 室 長：鎌倉 富雄

2. 業務内容

- ・ 新型コロナ、インフルエンザ院内感染発生時の初期対応、感染拡大対策、情報共有
- ・ 院内感染の管理と ICT ラウンドでの抗菌薬の適正評価と各部署の感染対策状況の確認、指導
- ・ 感染防止対策委員会の開催と進行
- ・ 職員への年 2 回の院内感染防止対策の研修の実施、部署毎の勉強会実施
- ・ 外部施設（福岡市民病院等）との連携と感染症サーベイランス報告、カンファレンス参加
- ・ 健康管理室との連携により職員のワクチン接種の管理（B 型肝炎、麻しん）
- * 新規：膀胱留置カテーテル挿入のサーベイランス
- * 再開：医療介護施設かめやま、特養こころの感染対策ラウンド など

2024 年度を振り返って

新型コロナウイルスの感染症区分が 2 類から 5 類へと変更となってから 2 年目に入り、段階的な感染防止対策についての見直しを昨年度に引き続き行った。2024 年度の法人内の院内感染は新型コロナが 9 件（うち 5 件が病院内、4 件が施設内）、インフルエンザが 3 件発生した（グラフ①）が、各部門、部署での経験値や準備が定着してきており、7 月に法人内で大きな感染拡大が発生したものの、短期間で終息することが出来た。6 月の診療報酬改定では、感染対策向上加算に新興感染症の受入れ条件が加わり、4 A 病棟に受入れ病床として 1 床を設置、県との締結をし、マニュアルや体制の整備を行った（2024 年度の届出期限内での対象者はなし）。

2024 年度は医療安全と共通の目標キーワードである「質の向上」を掲げ、マニュアルの見直しや新規作成、情報共有のためのオーダーリング画面の活用、医療介護施設かめやまや特養こころでのラウンドや職員研修を再開するなど、感染対策活動を拡大することができ、文字通り質の向上に繋げることができた一年であった。

2025 年度にむけて

2024 年度は「質の向上」をテーマに取り組んできたが、感染防止対策は継続と定着が鍵となり、それが大きな課題でもある。2025 年度は質の向上にさらにプラスした「質と意識の向上と定着」を目標テーマに掲げ、習慣化・標準化に向けた教育や支援を通じて、確実に実践できる環境づくりを目指していきたいと考えている。一人ひとりの意識の変化が、感染防止対策の質の向上に繋がり、またそれを継続し定着することで、安全で安心できる環境が作れると考える。

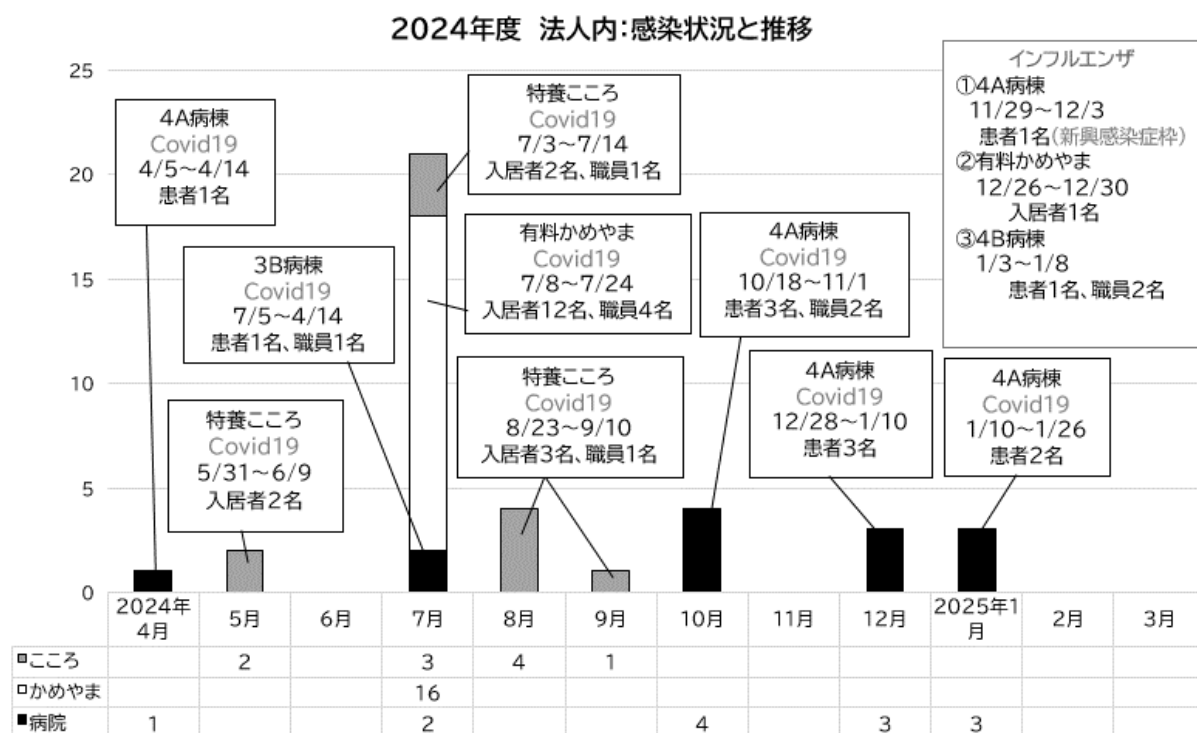
2026 年度より新卒の看護職員が入職してくるため、受入れ準備とシステムの構築も課題となってくる。感染管理としてもマニュアルの見直しをはじめ、感染防止対策における教育体制も整備していく必要がある。今年度も課題や問題が多く重積しており、多忙な一年になりそうではあるが、一つ一つを丁寧に確実に取り組んでいければと考えている。

室長より

院内感染防止対策として、医療機関内においては感染症の患者さんと、感染症に罹患しやすい患者さんとが同時に存在していることを前提に、手厚い医療的なケアを行う際に必然的に起こりうる患者さん・職員への感染症の伝播リスクを最小化するとの視点に立ち、全ての患者さんが感染症を保持し、かつ罹患する危険性を併せ持つと考えて対処する「スタンダードプリコーション(標準予防策)」の観点に基づいた医療行為とあわせて感染経路別予防策を実施しています。個別および病院内外の感染症情報を広く共有して院内感染の危険および発生に迅速に対応することを目指しています。

2025年度は「質と意識の向上と定着」を目指して、感染防止対策室では、鎌倉看護師長を中心に感染症に関する情報収集、院内講演会・実地指導による啓蒙活動、サーベイランスなどを行い、院内感染対策活動の必要性、重要性を全部署及び全職員に周知徹底し、院内共通の課題として積極的な取り組みを行います。

年間統計



職場紹介

1. 職員構成 室 長：吉田 晋
副室長：鎌倉 富雄

2. 業務内容

- ・ インシデント報告の内容把握と対策の確認、検討、全体の集計と分析
- ・ 事故レベル3－b以上の現場検証と再発防止策の立案と報告書の作成
- ・ 医療安全ラウンドの実施（毎週火曜日、1回2部署ずつ、全15部署）
- ・ 「医療安全だより」の発行による情報提供、注意喚起（不定期）
- ・ 業務改善の取り組みと報告書の作成
- ・ 院内研修の実施（2回／年）
- ・ 安全管理委員会の開催（1回／月）、医療安全リンクスタッフ委員会との連携
- ・ 院内での全死亡症例をチェックシートにより把握、確認
- * 新規：身体的拘束の最小化の取り組み：状況把握（集計）、共有 など

2024年度を振り返って

今年度は「質の向上」を目標キーワードに掲げ、マニュアルを見直しペーパーレス化を行ったり、医療安全ラウンドの指摘事項を点数化し部署間で共有するようにするなど、医療安全活動の見直しに取り組んだ。また、新しい取り組みとして6月の診療報酬改定により、新たに身体的拘束の最小化への取り組みが加算条件に加わったため、各病棟での身体的拘束の使用状況の把握とチーム立ち上げ等の体制の構築を行った。この他にも「医療安全だより」を2024年度は5部発行し情報発信に努め、ネームバンドの変更など業務改善などにも取り組んだ。感染管理との両立で一人体制という状況のため、一つ一つは小さな取り組みかもしれないが、積み重ねが変化となり「質の向上」に繋がったのではないかと考える。

2024年度にむけて

2024年度は「質の向上」を掲げたが、2025年度は意識の向上と定着をさらにプラスして「質と意識の向上と定着」を掲げ、これまでの取り組みを“習慣”として根づかせる段階へと移行していけたらと考えている。一人ひとりの気づきや報告が組織全体の安全を支えているという認識をさらに深め、院内の誰もが安心して医療に携われる環境づくりを推進していきたい。引き続き、現場と協働しながら、再発防止策の実効性向上、情報の可視化、教育の強化などを通じて、患者と職員双方の安全を守る体制づくりを行っていきたい。

室長より

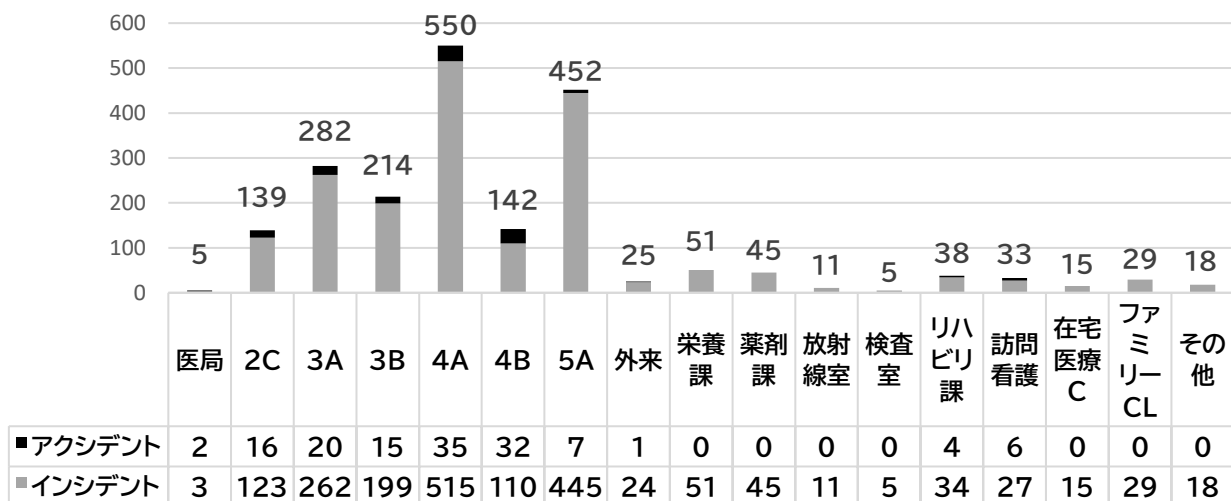
今年度は身体的拘束の最小化への取り組みが、重点事項でした。
今後も医療安全の取り組みがマンネリ化しないことが重要だと考えます。

年間統計

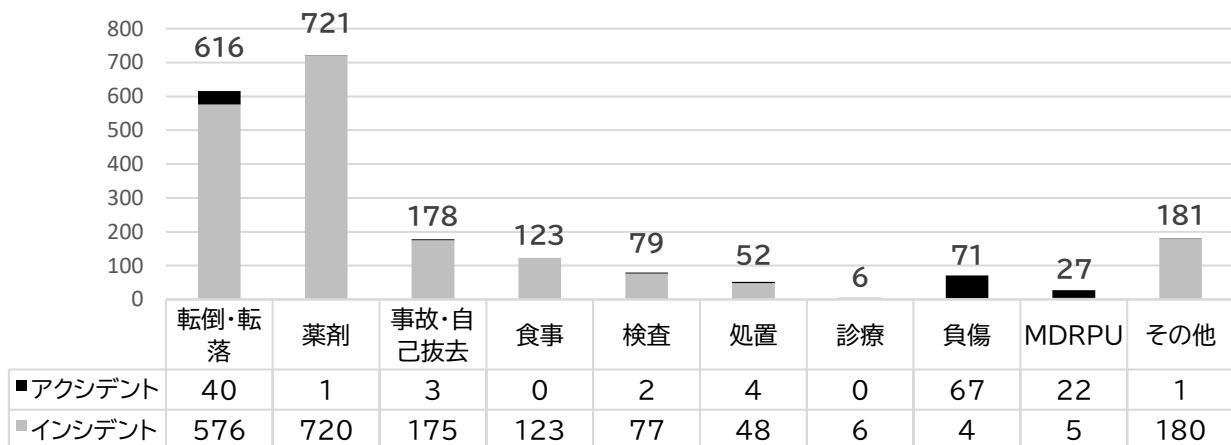
2024年度：インシデント・アクシデント報告件数年間集計

(2024年4月1日～2025年3月31日)

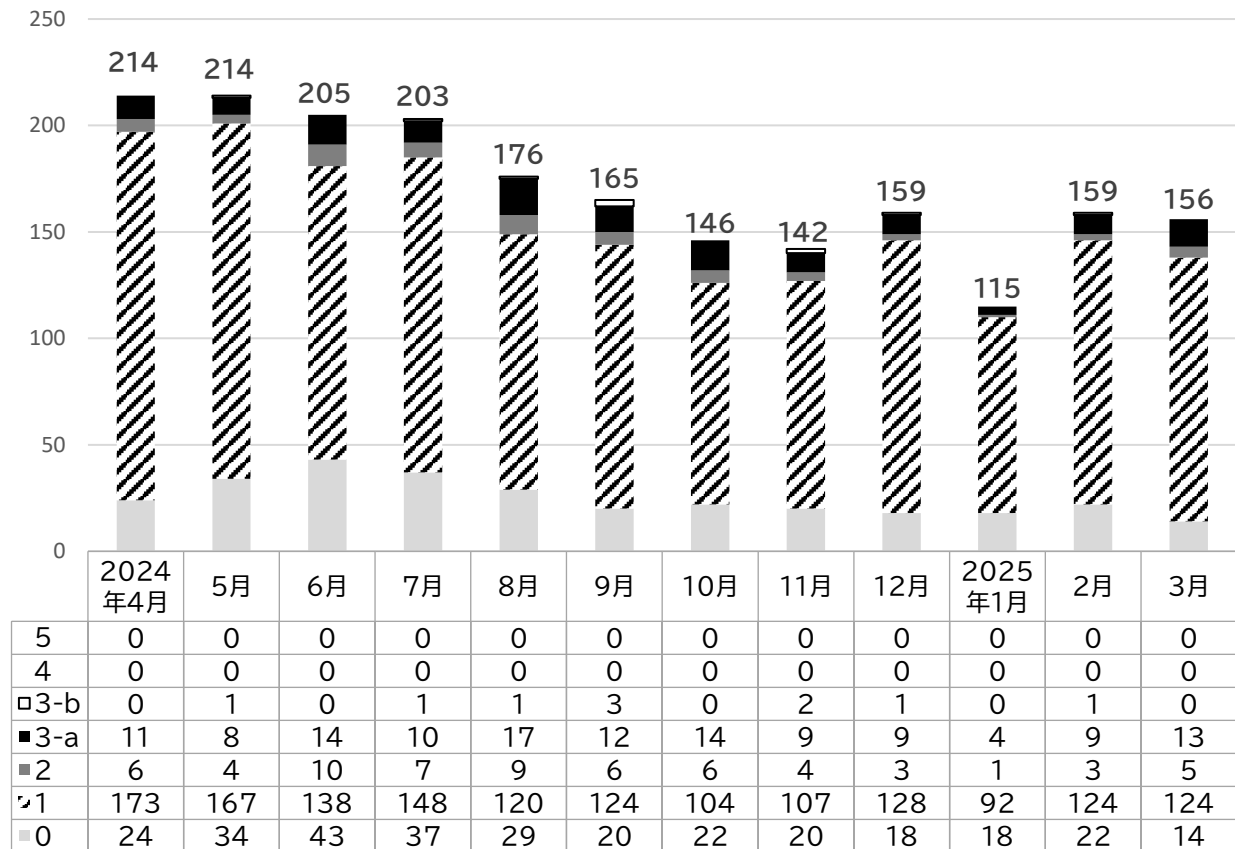
2024年度 インシデント・アクシデント報告件数:部署別 N=2054



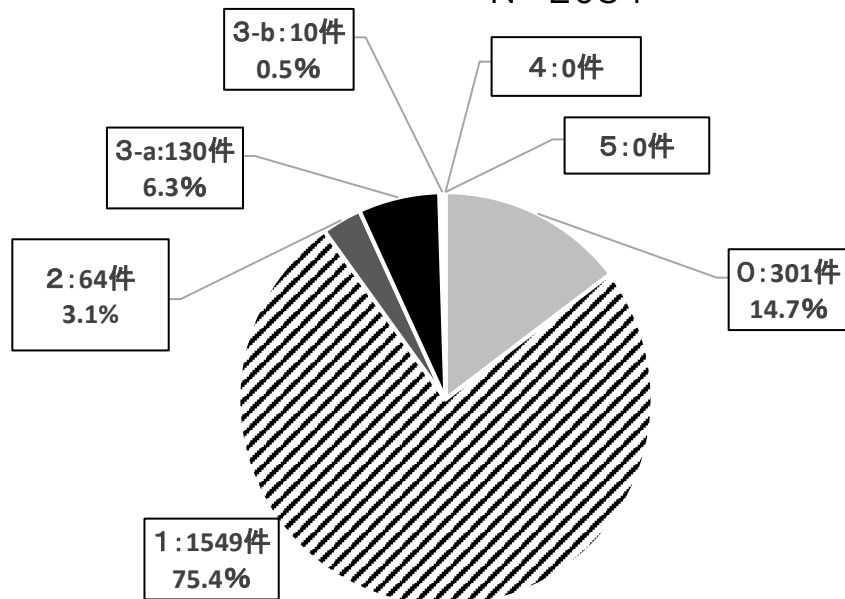
2024年度 インシデント・アクシデント報告件数:項目別 N=2054



2024年度 事故区分別月毎報告件数 N=2054



2024年度 事故区分別年間割合 N=2054





医療事務

職場紹介

1. 職員構成

課長	増田	こずえ				
主任	上條	憲一	豊福	稔		
副主任	森岡	直美				
入院担当	山田	留実				
外来担当	澤井	紋也	城戸	綾乃	定村	千香子
	高松	美樹	深川	ありさ		
夜間管理	川島	穂積	小島	真弓		

13名

2. 業務内容

- ・受付業務（初診・再診）
- ・会計業務（入院・外来）
- ・診療報酬請求業務（レセプトの作成・点検・総括・請求）
 - ・外来(在宅医療含む)：月平均 2,100件
 - ・入院：月平均 250件
- ・各種文書受付（生命保険・傷病手当・介護保険主治医意見書など）
- ・未収金管理
- ・他院からの問い合わせの対応等

2024年度を振り返って

- ・病院医事課と、ファミリークリニック医事課でスタッフの急な休みの時など協力して業務を行うことができた。
- ・診療報酬請求に対する査定では、月別の集計を継続して行い医師やコメディカルへの報告を行った。また部署内のミーティングでは、年々細くなる内容の把握と査定対策に努めた。
- ・未収金は「新規発生」や「回収状況」について委員会資料を毎月作成し、関連部署との情報共有や連携を図った。

2025年度にむけて

- ・法人全体の収入増加ならびに患者満足度向上を支援し、法人の必要収益の確保をサポートする。
- ・全スタッフが働きやすい職場環境となるよう、お互いに相手を尊重する気持ちを大切にす。
- ・困っているスタッフがいないか気に掛け声を掛け合う。
- ・病院を訪れる患者さんや、ご家族の方に話しかけられやすい雰囲気づくりを大切に、受付窓口では臨機応変な対応や、柔軟な対応を心掛けていきたい。

職場紹介

1. 職員構成

診療情報管理士 3名

2. 業務内容

- 1) 入院診療記録の保管管理
- 2) 入院診療記録の整理・点検
- 3) 退院時要約（サマリー）の早期推進と管理
- 4) 国際疾病分類（ICD-10）に基づく疾病コーディング
- 5) 「診療情報管理システム」へ情報登録、統計業務
- 6) 入院診療記録のアリバイ管理、貸出業務
- 7) 「DPC退院患者調査」データの作成業務
- 8) 全国がん登録データ作成業務
- 9) 診療情報管理委員会の運営

2024年度を振り返って

1) 診療記録の点検・管理

記録の見直しや点検を行い、診療記録の質向上に努めた。

2) 退院時サマリーの管理

退院14日以内のサマリー作成率：月平均99.5%

3) DPC退院患者調査（厚労省に提出）

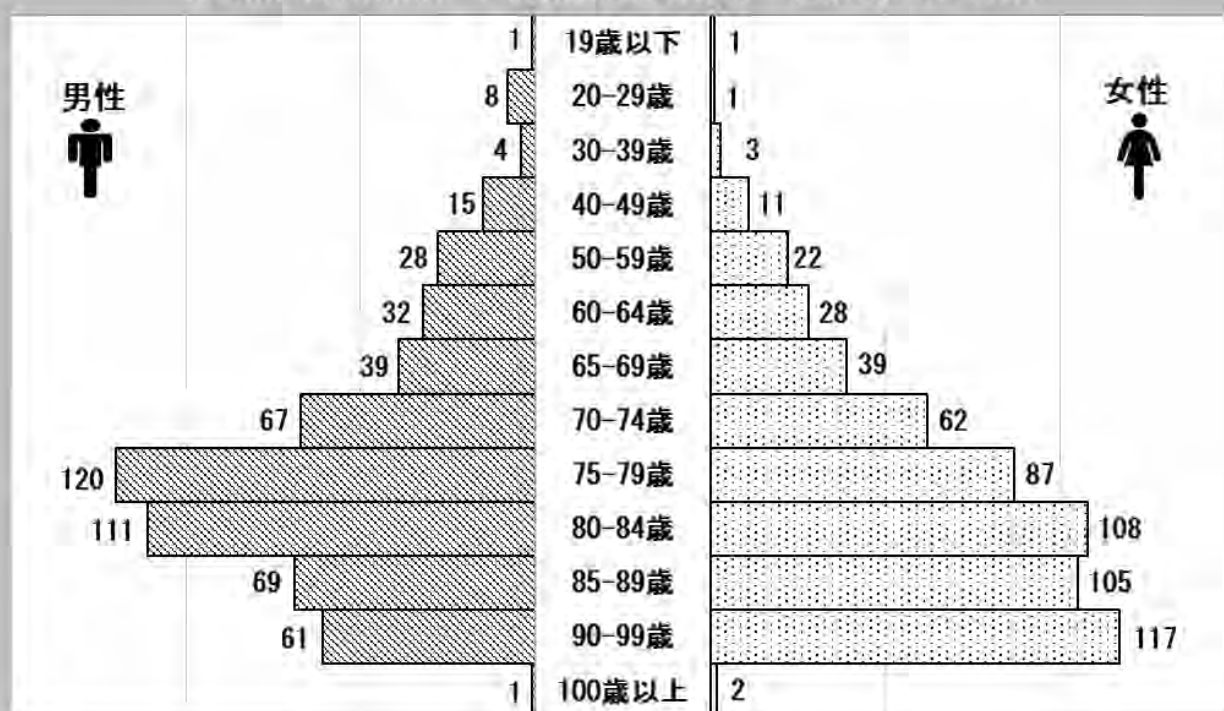
様式1作成件数：1,137件

本年度の診療報酬改定に伴い調査項目の見直しが行われ、心不全／バイオマーカー（BNP値／NT-proBNP値）、退院時体重、入棟中に測定したFIM得点（回復リハ病棟のみ）などが追加された。

4) 全国がん登録（2016年1月より法制化）

届出件数（2023年症例）：615件

男女別/年齢階層別 全病棟退院患者件数 (総件数：1,142件)



地域包括ケア病棟 疾病中分類別・上位疾病別・病名数

番号	順位	分類名	件数	構成比 (%)	延べ在院日数	平均在院日数	平均年齢
1	1	筋障害	42	10.7	1,740	41.4	85.0
2	2	腸のその他の疾患	25	6.3	283	11.3	73.0
3	3	インフルエンザ及び肺炎	24	6.1	529	22.0	75.3
4	4	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	22	5.6	1,124	51.1	84.8
5	5	脳血管疾患	21	5.3	718	34.2	80.3
6	6	股関節部及び大腿の損傷	20	5.1	756	37.8	83.5
7	7	外的因子による肺疾患	17	4.3	691	40.6	79.5
8	8	関節症	13	3.3	455	35.0	75.0
9	9	消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	11	2.8	309	28.1	79.4
10	9	代謝障害	11	2.8	462	42.0	88.3
11	9	その他の型の心疾患	11	2.8	406	36.9	86.5
12	9	胸部＜郭＞損傷	11	2.8	537	48.8	87.0

対象期間の総退院件数：394 件

障害者施設等病棟 上位疾病割合

			件数	構成比(%)
①	G20 パーキンソン病 G23 基底核のその他の変性疾患	計	21	26.3
		男	7	19.4
		女	14	31.8
②	G12 脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	計	11	13.8
		男	4	11.1
		女	7	15.9
③	J15 細菌性肺炎、他 J18 肺炎 J69 固形物及び液状物による肺臓炎	計	11	13.9
		男	10	27.8
		女	1	2.3
③	G90 自律神経系の障害 G93 脳のその他の障害	計	6	7.5
		男	4	11.1
		女	2	4.5
⑤	G30 アルツハイマー<Alzheimer>病 G31 神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	計	5	6.3
		男	1	2.8
		女	4	9.1

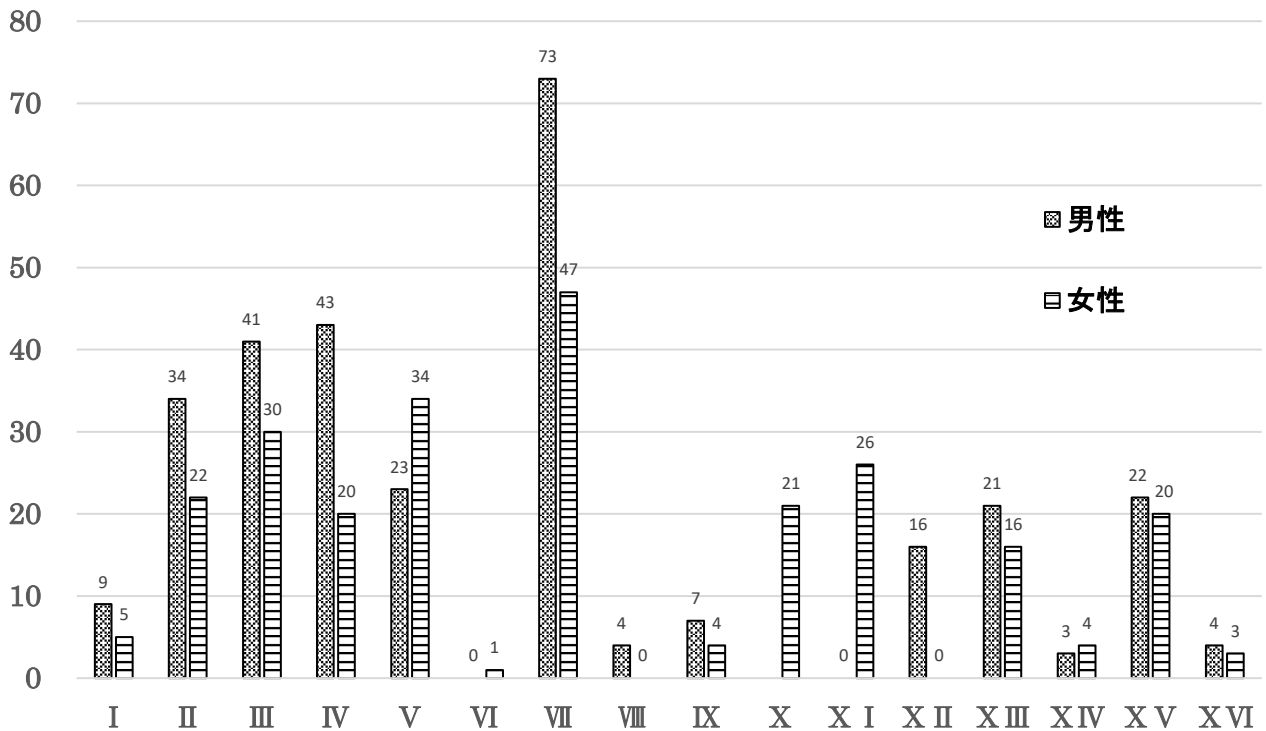
総退院件数	計	80	100.0
	男	36	45.0
	女	44	55.0

回復期リハビリテーション病棟 上位疾病割合

			総数	構成比(%)
①	I60 くも膜下出血 I61 脳内出血 I63 脳梗塞	計	43	37.8
		男	22	48.9
		女	21	30.4
②	S72 大腿骨骨折	計	24	21.1
		男	5	11.1
		女	19	27.5
③	S22 肋骨、胸骨及び胸椎骨折 S32 腰椎及び骨盤の骨折 T02 多部位(胸腰椎)の骨折	計	21	18.5
		男	6	13.3
		女	15	21.7
④	S06 頭蓋内損傷	計	5	4.4
		男	4	8.9
		女	1	1.4
⑤	M16 股関節症 M17 膝関節症	計	4	3.5
		男	1	2.2
		女	3	4.3

総退院件数	計	114	100.0
	男	45	39.5
	女	69	60.5

緩和ケア病棟 男女別悪性新生物部位別 件数



部位		男性	女性
I	歯肉・口腔・耳下腺・咽頭・梨状陥凹	9	5
II	食道・胃	34	22
III	結腸・直腸・肛門・肛門管	41	30
IV	肝・肝内胆管・胆嚢・胆道	43	20
V	膵	23	34
VI	鼻腔・中耳	0	1
VII	気管支・肺・胸腺・心血管	73	47
VIII	関節軟骨・皮膚	4	0
IX	中皮・後腹膜・腹膜・結合組織・軟部組織	7	4
X	乳房	0	21
X I	女性生殖器	0	26
X II	前立腺	16	0
X III	腎・腎盂・副腎・尿管・膀胱	21	16
X IV	脳	3	4
X V	リンパ組織・造血組織及び関連組織	22	20
X VI	部位不明	4	3
計		300	253

【 診療圏別 男女別 退院患者件数 】

診療圏	合計	糟屋郡志免町	糟屋郡宇美町	糟屋郡篠栗町	糟屋郡須恵町	糟屋郡新宮町	糟屋郡久山町	糟屋郡粕屋町	福岡市東区	福岡市博多区	福岡市中央区	福岡市南区	福岡市西区
男	556	144	61	22	42	—	2	56	26	102	8	4	1
女	586	172	68	18	35	1	1	40	28	106	12	9	1
計	1,142	316	129	40	77	1	3	96	54	208	20	13	2
構成比(%)	100.0	27.7	11.3	3.5	6.7	0.1	0.3	8.4	4.7	18.2	1.8	1.1	0.2

診療圏	福岡市城南区	福岡市早良区	大野城市	春日市	古賀市	宗像市	福津市	太宰府市	筑紫野市	前原市・糸島市	那珂川市	久留米市
男	4	3	33	7	1	2	2	9	5	—	1	2
女	1	6	21	9	6	3	—	14	10	1	2	1
計	5	9	54	16	7	5	2	23	15	1	3	3
構成比(%)	0.4	0.8	4.7	1.4	0.6	0.4	0.2	2.0	1.3	0.1	0.3	0.3

診療圏	大牟田市	小郡市	朝倉市・朝倉郡	北九州市	遠賀郡	飯塚市	鞍手郡	田川市・田川郡	直方市	宮若市	その他(九州内)	その他(九州外)
男	—	1	1	3	2	—	1	1	—	—	7	3
女	1	—	1	4	—	2	—	3	1	1	8	—
計	1	1	2	7	2	2	1	4	1	1	15	3
構成比(%)	0.1	0.1	0.2	0.6	0.2	0.2	0.1	0.4	0.1	0.1	1.4	0.3

ライフサポートセンター

■ ライフサポートセンター（地域連携室）

センター長 下稲葉 順一
副センター長 梅野 理加

職場紹介

1. 職員構成

N r s : 看護師、MSW : 社会福祉士

医師 1 名 N r s : 4 名 MSW : 5 名

センター長 医師 下稲葉 順一

○前方支援

副センター長 : 看護師長 梅野 理加 師長代理 倉田 正子（2025年4月より）

・ N r s . 山田 佳代・ N r s . 末永 理絵子

・ N r s . 和田 真知子（2025年3月まで）・ N r s . 古賀 悦子（2025年3月まで）

○後方支援

副主任 : MSW 森下 茂子・副主任 : MSW 矢羽田 有希子

・ MSW 野内 麻依・ MSW 北森 友理子・ MSW 鳥羽 レナ

2. 業務内容

- ・ 入院支援 ・ 退院支援 ・ 医療福祉相談（患者相談）
- ・ ホスピス相談（ホスピス面談の予約、面談時のサポート、ホスピス110番）
- ・ 地域医療連携（病病連携・地域連携パス）・広報活動 その他

2024年度を振り返って

1. 栄光会の窓口として患者、家族、医療機関へ安心、信頼して相談できる部署を目指す

ライフサポートセンターとして3年目を迎えました。部署のあるべき姿を「必要とされる部署」を目指し活動してきました。栄光会理念でもあるフィロソフィの共有を、毎週木曜日に朝のミーティングで共有し実践について共有できました。スタッフからの語られるエピソードは患者さん、ご家族のみならず栄光会職員との関係性を共有でき「癒し癒される」の実現につながっていたと感じています。2025年度も繰り返し語り合えるよう努めます。また、2024年度は、スタッフの定着ができるよう心掛けました。1名の退職がありましたができるだけスタッフとの関係づくりや具体的な困りごとを共有するように努めました。今後も部署内が密に連携が取れるように努めていきます。

安心、信頼を目指し、他の医療機関、福祉機関とスタッフ全員で対面での連携を行い強化していくよう努めました。そのため、たくさんの連携施設との対面を行うことができました。2023年度は119施設でしたが、2024年度の面会数129施設、225回の対面での連携を行いました。病院、介護施設、訪問診療、訪問看護、福祉施設との連携をさせていただき、近隣の情報やよりスムーズな入院、退院調整につながったのではないかと思います。今後ともより深く関係性を維持できるように努めます。

2025年度は開放型病院推進室との統合を目指します。栄光病院に関係のあるクリニックとの連携を強化していきたいと考えています。粕屋地区の医療圏の強化も含めて活動の場を広げられるよう努めていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

2. 稼働率や数字を意識した動きが取れる業務の効率化

数字や業務の効率化は、栄光会の動向を意識しながら、利益にも直結しています。入退院支援加算、介護支援加算、連携パス加算を丁寧に対応することで部署としても目標数値が明確になりました。2024年度は入退院支援加算30件／月 介護支援加算3件／月対応できています。2025年度は目標数値を意識して取り組みを実践していきたいと思います。

ライフサポートセンターは病院の窓口でもあります。患者さん、ご家族への適切な医療を受けられるような、入院退院の調整を担っています。病状の経過や家族背景、今後の方針など様々な情報を整理し対応しています。現在、様々な集計業務について「判定カルテ」として少しずつシステムを整えていくことができました。今後も数字を意識し必要なところに時間が活用できるように努めていきたいと思います。

2025年度に向けて

栄光会においてライフサポートセンターとして『欠かせない部署づくり』を目指していきます

1：部署内のコミュニケーションを密にして

患者、家族、医療機関、介護施設、福祉関連機関が安心できる部署を目指す

2：稼働率や数字を意識した動きが取れる業務の効率化

2025年度 紹介元 急性期病院ベスト10の施設

1. 福岡青洲会病院
2. 福岡市民病院
3. 福岡済生会病院
4. 福岡徳洲会病院
5. 九州大学病院
6. 福岡赤十字病院
7. 九州中央病院
8. 福岡和白病院
9. 浜の町病院
10. 九州医療センター

開放型病院推進室

職場紹介

1. 職員構成

後藤 拓 齋藤 修 深川 良子

2024年度を振り返って

1. 登録医療機関との連携

新院長就任にあたり、コロナ禍による停止後、昨年度より再開していた「登録医訪問」を、今年度はより積極的に行った。

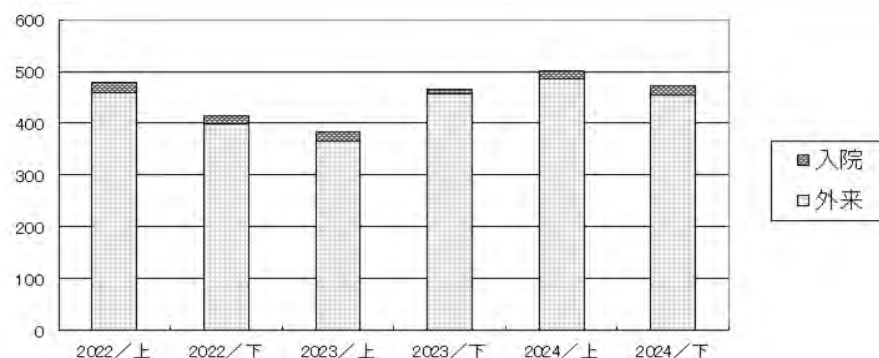
また、入院患者における「対診（登録医療機関による他科診療）」のニーズの高まりを受け、その調整をより積極的に行った。特に歯科受診の需要が大きく、その件数は3年前と比べ2倍となった。

2. 紹介患者数の動向

コロナ禍の影響により減ってしまった紹介患者数は回復傾向ではあったが、予想を下回る結果となってしまった。特に「紹介入院患者数」の回復状況は芳しくなく、コロナ禍前と比べ50%近く下がることとなった。

紹介患者数推移

	2022／上	2022／下	2023／上	2023／下	2024／上	2024／下
外 来	460	398	366	457	485	454
入 院	18	17	18	9	16	18
合 計	478	415	384	466	501	472



2025年度に向けて

1. 登録医療機関との連携の推進

医療連携関係の充実を図るため、当室のスタッフのみならず「当院の医師」と「登録医療機関の先生方」が「顔の見える関係」を構築することができるよう、「医師とともに訪問する」機会を増やす。

2. 紹介患者数向上への取り組み

登録医療機関の「当院への期待」と当院が果たすことができる「役割」とのマッチングに努め、より多くの入院・外来患者さんの紹介につなげる。

3. 糟屋地区オープンカンファレンスの再開

コロナ禍により停止したままの「糟屋地区オープンカンファレンス」を再開し、当院及び地域の医療機関の知見の向上を図るとともに、医療機関の連携の端緒を提供する。

栄光会ファミリークリニック

職場紹介

1. 職員構成

院長 波多江 登喜子

副院長 田崎 英範

医師 青戸 雄司（在宅診療）、手越 静子（水曜日外来）

看護師 田羽田 裕子、正木 由美、石井 咲紀、古川 幸子、平井嘉代子

溝口 由香子、久保山佳子（7月まで）、宮川朋美（9月から1月まで）

医事課 安河内晶子、土生律子（11月まで3月から）深江美幸（5月まで）

本田麻梨子（6月から）深野良太（6月から2月まで）

2. 診療内容

内科、呼吸器内科、アレルギー科、在宅診療（在宅療養支援診療所）

小児科

2024年度を振り返って <内科>

2020年1月に日本でも感染が始まったCOVID-19感染症は2023年5月に5類感染症となり当院での発熱外来は2024年3月で終了しCOVID-19感染症に対する特例加算も終了しました。そのため2024年度の収入は2022、2023年よりも減少しましたが、外来受診人数はほとんど変化ありませんでした。COVID-19感染症のワクチン接種によりかかりつけではない方々が多数来院されクリニックの知名度が上がったことも一因と思われます。また、小児科と合併後は若い世代の患者さんが増加しています。

また、今年度は11、12月にインフルエンザワクチンの夜間接種を久しぶりに再開し、約1500名の方が来院されました。

在宅診療はコロナ禍の期間に病院、施設の面会が制限され自宅療養を希望される方が多くなり新規患者さんが急増しました。しかし、介護者が高齢の配偶者であることが多く一旦入されると療養型病院や施設入所となる方が多くコロナ禍の終焉とともに訪問診療の患者さんは減少しました。しかし、2024年度は再び新規患者さんが増加しています。お看取り件数は病院死が多くなりコロナ禍以前より減少し特に在宅のお看取りは1～2名と激減しました。

2025年度に向けて <内科>

当クリニックは小児科、内科、在宅医療、通所リハビリテーションなどを行っています。

在宅医療は医師二人体制で14事業所の訪問看護ステーションと連携し365日24時間、患者さんの在宅療養を支援しています。出勤回数は多くはありませんが、訪問看護師さんからのオンコールによる電話対応は毎月一定数認めます。よって、医師の高齢化に伴い負担が大きくなっているのが現状です。今後は若い医師による世代交代が必要と考えています。

外来はコロナ禍が過ぎて各感染症の流行時期などに変化がみられます。発熱外来は終了していますが、一年中、呼吸器感染、消化器感染を認めています。よって、今後はワクチン接種による予防が重要と考えますし自治体からの助成金も増えています。特に高齢者にはワクチンによ

る予防が必要です。当院でも積極的に患者さん方にお勧めしていく予定です。

また禁煙外来、アレルギー性鼻炎に対する免疫舌下療法、睡眠時無呼吸症候群の治療、肺がん検診も継続して行います。

年間統計＜内科＞

2024 年度患者数

内科

2024年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外来	402	413	422	488	393	384
訪問診療	218	218	222	262	240	235
予防接種	14	3	17	9	7	11
延べ件数	634	634	661	759	640	630

小児科

2024年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外来	533	624	312	784	518	549
健診	11	70	5	4	0	6
予防接種	112	1	43	68	76	109
延べ件数	656	695	360	856	594	664

収益

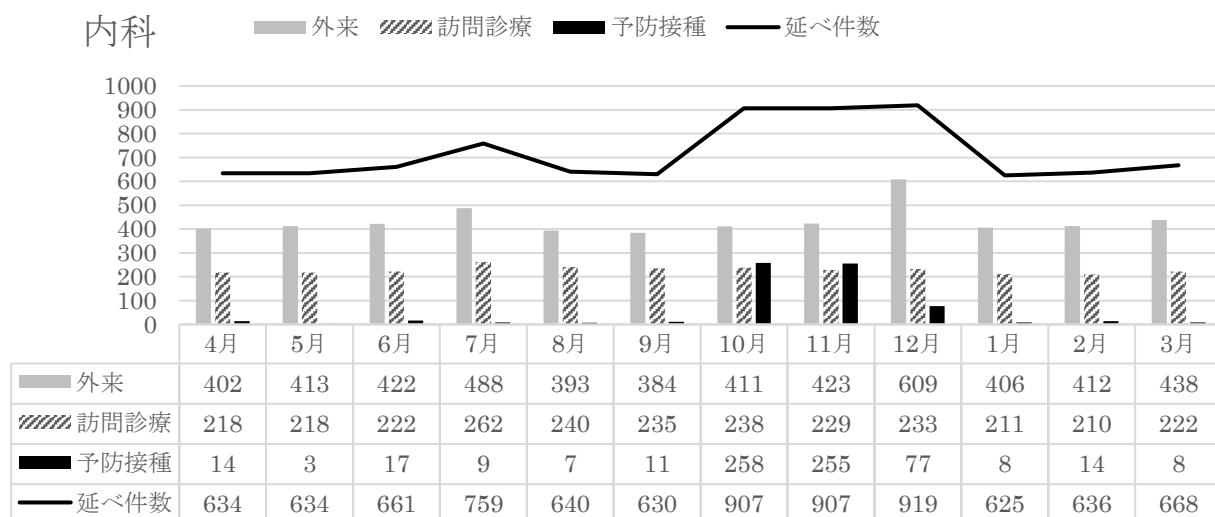
2024 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
収益(円)	13,895,659	12,622,362	11,032,067	15,570,985	13,074,497	14,026,055

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
411	423	609	406	412	438	5201	433
238	229	233	211	210	222	2738	228
258	255	77	8	14	8	681	57
907	907	919	625	636	668	8620	718

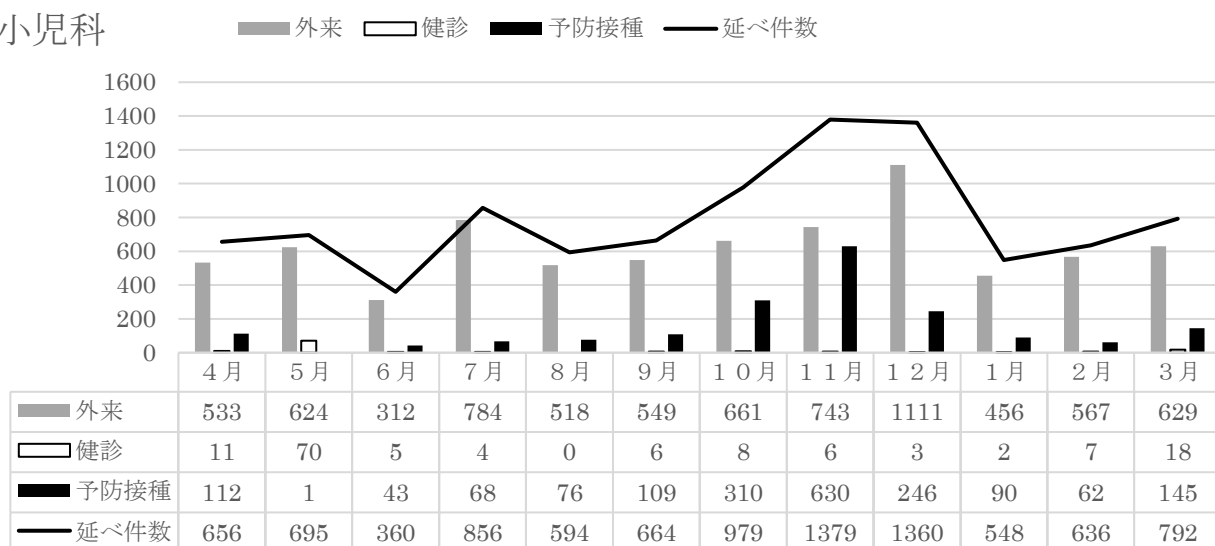
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
661	743	1111	456	567	629	7487	624
8	6	3	2	7	18	140	12
310	630	246	90	62	145	1892	158
979	1379	1360	548	636	792	9519	793

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
15,776,144	18,533,923	18,095,766	12,029,874	12,407,534	15,164,975	172,229,841	14,352,487

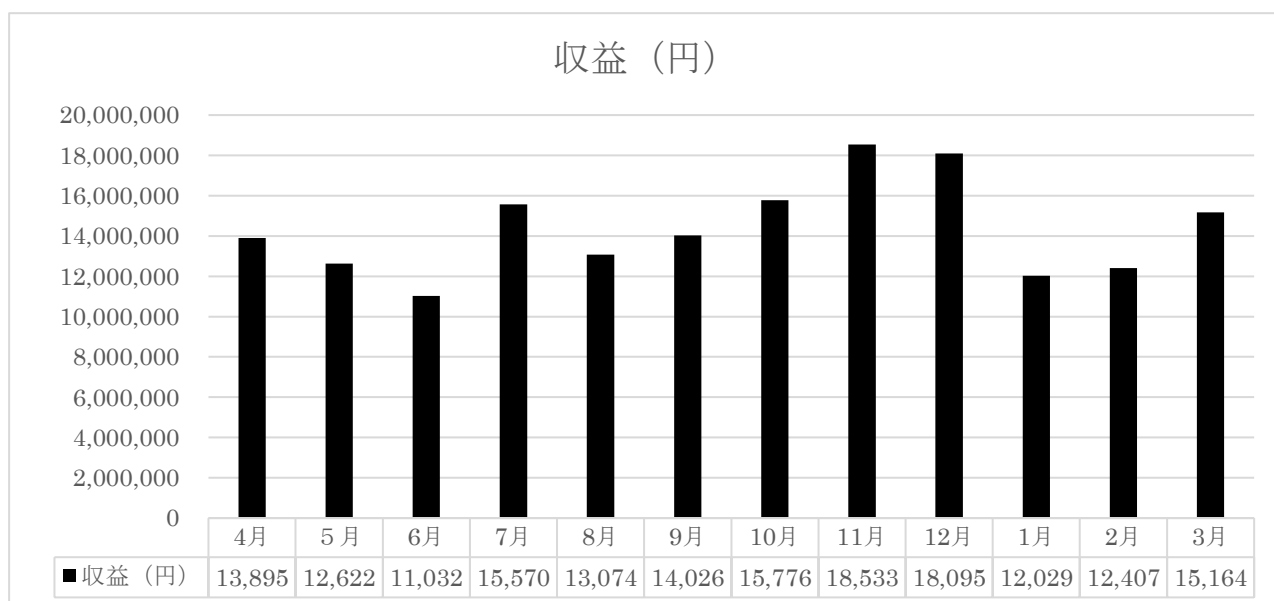
内科



小児科



収益 (円)



2024年度を振り返って <小児科>

2024年度は、冬に新型コロナウイルスとインフルエンザが同時に流行し、再び厳しい診療体制を強いられました。感染の波は予想を超え、スタッフ一同、休む間もなく対応に追われる日々が続きました。

1年を通しての受診者数は、ここ3年間ほどは、おおむね横ばいで推移していますが、特に、新型コロナに関する診療報酬の加算が激減したことで、経営状況に大きな影響が出ています。さらに、感染対策の負担や物価上昇に伴うコスト増を考慮すると、実質的な診療単価の低下は看過できない水準に達しています。

また、本院と連動した慢性的なマンパワー不足も深刻な問題となっています。

このように、現場の負担が大きい一方で、経営的な補填が追いつかない状況が続いており、今後の地域小児医療の継続に向けて、大きな課題を突きつけられる一年となりました。

2025年度に向けて <小児科>

上記2024年度の総括に加え、志免町の出生数は年々減少を続けており、今後の小児医療を取り巻く経営環境は、いよいよ厳しさを増していくことが予想されます。受診者数は今はかろうじて大きく減っているわけではないものの、明るい展望を見出すことは難しく、先行きには不透明感が漂っています。

新型コロナ関連の診療報酬加算がほぼ消失した今、診療体制の維持そのものが大きな課題となっており、経営的な回復の兆しすら見えない状況が続いています。

しかしながら、小児医療は地域にとって欠かすことのできない存在であり、いわば社会基盤のひとつです。こうした中で法人に求められるのは、目先の採算にとらわれず、地域の子どもの健康と未来を支えるという信念と覚悟です。

経営的な合理性だけでは測れない役割を担っていることを自覚しながら、困難な時代にこそ、法人はその存在意義を問われているのだと感じています。

栄光会訪問看護ステーション

職場紹介

1. 職員構成

看護師：10名（内、非常勤3名含む）

理学療法士1名、作業療法士3名、言語聴覚士1名（非常勤）

クラーク1名

2. 業務内容

利用者の方々・ご家族が安心して住み慣れた自宅で療養生活を継続する事ができる様に、適切な看護ケアを提供し、異常の早期発見に努めています。17歳から104歳までの幅広い年齢層、介護予防から在宅ターミナルまであらゆる疾患の利用者のニーズに応じた訪問看護・リハビリを提供しています。

2024年度を振り返って

【訪問看護ステーションあるべき姿】

利用者・家族の療養生活を支える為に、スタッフ間でコミュニケーションを密に図り、個別性に合わせた細やかな看護の提供できる。

【目標】

1. 個々が心身共に健やかに業務できる様、セルフケアに取り組む事ができる
2. 利用者・家族に寄り添い、自身の看護の質の向上に努める事ができる
3. 柔軟な新規受け入れと多職種連携を密に行い個々に合わせたケアを提供する

2024年は上記目標を掲げ、スタッフ一同取り組んできました。

目標1について

ラジオ体操の実施やリハビリスタッフより腰痛や肩痛に効果的なストレッチを指導してもらい取り組む事ができた。セルフケアに取り組みリフレッシュやステーションスタッフ間のコミュニケーションを図る場面ができました。

目標2について

法定研修、学研eラーニングでの研修は計画を立てて個々が積極的に受講する事ができています。BCP訓練は実施してみたものの災害に対するスタッフの意識の低さ、業務継続計画についての理解が浅い事等、様々な問題を知る事ができました。この課題を元に、BCPの研修、訓練を繰り返し実施し災害や感染症への意識を高くもち、いざという時に行動できる人材育成を目指します。

目標3について

新規受け入れは積極的に行い、利用者の方々、ご家族と密に面談を行い、問題点を明確化し、適切な環境整備やサービスの実施・助言を行いました。在宅へ移行しても利用者・ご家族の不安や困り事が軽減できる調整を心がけました。

2025年度に向けて

訪問看護では年に一度、利用者・ご家族への満足度調査やアンケートを実施しています。その結果、スタッフ個々のアセスメント力を磨きより良い在宅生活継続のサポートを実施する事の重要性を実感しました。この結果を踏まえ、2025年度は以下の目標設定する事となりました。

目標

1. 個々が心身健やかに業務できるようにセルフケアに取り組むことができる
2. 専門職として知識と技術の向上に努め、訪問看護師個々の質の均一化を目指す

年間統計

利用者数

訪問看護利用者延べ人数	1083人	月平均：90名
		内、医療保険 月平均：48名
		介護保険 月平均：41.9名

年間延べ件数	7,998件	月平均：666件
--------	--------	----------

年間新規利用者数	91名（医療保険：74名・介護保険：17名）
----------	------------------------

年間在宅看取り件数	41名（内、ターミナル療養費算定39名）
-----------	----------------------



介護事業本部

職場紹介

1. 介護事業本部 事務職員構成

本部長：下稲葉 主一 副本部長：田ノ上 剛

主 任：中山 裕子

職 員：池田 美由紀、齋藤 嘉世、守崎 美智代、長谷川 賢史、藤田 洋子

(2025. 4. 1現在)

2. 業務内容：

介護事業部統括・運営支援、本部事務との連携窓口

各部署介護報酬請求支援、物品管理支援、施設受付・窓口業務など

福利厚生として売店運営など

地域協働部との連携業務など

3. 介護事業部 部署

介護付き有料老人ホームかめやま、栄光会通所リハビリテーション

栄光会ヘルパーステーション、栄光会ケアプランサービス

介護栄養管理課、介護事業本部事務

2024年度を振り返って

2024年度 介護事業部 方針

1. 部署間／職種間の連携を強化し、地域包括ケアシステムの実現をはかる。
2. 介護報酬改定を踏まえ、各事業所に求められるサービスを再構築する。
3. 栄光会における介護事業のあり方を見定め、次世代への基盤を作る。

介護事業部は 関わる方々が過ごされる場所（自宅・施設）において生活を支援し、幸せと生き甲斐に貢献したいとの想いで本年度も取り組んで参りました。その実践の為に、栄光病院ライフサポートセンターとの連携や医療と介護をつなぐ栄光会ケアプランサービスの役割は重要でした。

今後も栄光会グループ連携ミーティングの充実やサービス提供状況の見える化を図り、スムーズな連携を進めていきたいと考えています。

介護付き有料老人ホームかめやまでは、人生最期まで支援していく体制が整っており、栄光会ファミリークリニックをはじめ、栄光病院や在宅医療センター、栄光会訪問看護ステーションのご協力により、本年度、施設での看取りを希望された9名を最後まで支援する事ができました。

事業の再構築として栄光会通所リハビリテーションの短時間化に伴う運営の見直し、介護付き有料老人ホーム給食委託事業の見直しを行ない、経費面での改善に取り組みしました。提案・実践とスタッフ協力の元に行ない、運用改善を実現しました。

また、コロナ禍を経験し、事業継続におけるリスク管理意識が高まり、感染防止対策室との更なる連携強化や災害対策として介護事業BCPの構築が進みました。

次年度は、魅力ある職場づくりを進めて参ります。厳しい経営環境にありますが、各事業の目標達成を介護事業部全体で協力して取り組んで参ります。

2025年度に向けて

2025年度 介護事業部 方針

1. 部署間／職種間の連携を強化し、地域包括ケアシステムの実現をはかる。
2. 地域に選ばれる栄光会を目指し、各部署及び介護事業部内で協力し、目標達成に向けて取り組む。
3. 魅力ある職場を目指し、現状把握、分析、対策を実行する。

職場紹介

1. 職員構成

主任介護支援専門員	(常勤専従)	4名	
介護支援専門員	(常勤専従)	1名	
主任介護支援専門員	(非常勤専従)	1名	計6名

2. 業務内容

介護相談

要介護認定申請、更新手続き代行

居宅サービス計画(ケアプラン)作成

ケアマネジメント業務全般

病院・サービス事業所・行政との連絡調整

施設入退所支援

介護予防支援等業務の一部委託

2024年度を振り返って

近年の居宅介護支援事業所の傾向として、質の高いサービスを提供し続けるために、人材確保、ICT活用、多職種連携などの課題に取り組む必要がある。

介護保険の居宅介護支援は近年事業所数の緩やかな減少が続き、厚生労働省が公表した統計で減少は5年連続の状況、事業所数が減っている一方で、高齢化に伴って中規模化・大規模化事業所は利用者数や給付費は伸び続けている。介護支援専門員の複数人の配置を評価する「特定事業所加算」など、国の施策も影響を与えており現在の居宅介護支援をめぐっては現在ケアマネ不足が顕在化して優勝劣敗の人材獲得競争も激化している。介護ニーズが更に拡大していく今後、質の高いサービスを切れ目なく提供できる体制を作っていくことが大きな課題で、国が業務の効率化、生産性の向上と一定の大規模化を促していることから、事業所数の減少は今後も続く可能性がある。

このような条件下の中で今年度、栄光会ケアプランサービスは「居宅介護支援費Ⅰ1、特定事業所加算Ⅰ、特定事業所医療介護連携加算」を算定でき職員の体制も変わらず、経営基盤の強化を図ることができた。

2025年度に向けて

1. 利用者サービスの充実： 要介護者等の尊厳を保持しながら、その方の同意の下、心身の状況に応じ適切なサービスを利用することができるよう地域包括支援センターやサービス提供を行う者等との連絡調整等を行い、利用者だけでなくその家族も含めての「自立とQOLの向上」を目指す。
2. 地域社会との関係性強化： 地域活動、研修、勉強会、地域ケア会議等を通じて地域包括支援センターや民生委員、地域住民、多職種等との更なる連携強化を図る。
3. 生産性の向上： 記録等のペーパーレス化に取り組み事務作業の効率化を図る。法人内や他の高齢者福祉事業所とデータの共有等、ICT活用を推進し事務を効率的に行い生産性の向上を目指す。

職場紹介

1. 職員構成

看護師：	常勤 6 名	生活相談員：	常勤 1 名
ケアワーカー：	常勤 8 名 非常勤 3 名	介護支援専門員：	常勤 1 名
機能訓練指導員（看護師）：	常勤 1 名	管理栄養士（兼務）：	常勤 1 名

2. 業務内容

入居者の生活全般に対する支援やご家族との連携・相談対応

看護師を中心とした多職種連携による疾病管理・医療処置

法人内外への受診・往診対応

多職種による看取りケア

3. 部署目標

- ①入居者の方々の暮らしが安心して幸福と感じられる生活環境を目指そう
- ②スタッフひとり一人の力で働きやすい職場環境を作ろう
- ③自主性・積極性・探求性を向上させよう

2024年度を振り返って

新型コロナウイルスによる集団感染が1度発生したが入居者の方々の楽しみのある生活が継続できるよう感染防止対策を徹底しながら面会の制限緩和、レクレーションの実施に取り組んだ。

特に統計でもわかるように今年度は看取り件数が多く、ご家族様と過ごす時間が課題となったが通常の面会ルールを超え、時間制限の撤廃や、要望に応じて中学生以下の面会も一定の条件のもと可能とするなど本来の看取り対応に近い形を心掛けた。

事業運営に関しては収入や稼働率及び要介護度の目標達成には残念ながら至らなかった。毎月2～3名の待機者は存在したが比例するように看取りによる退居が続き、何度か目標達成のチャンスはあったものの実際達成することはできなかった。

次年度も引き続き待機者の獲得とスピーディな入居を目指していく。慢性的な人員不足の中、スタッフひとり一人の働きをお互いが認め合い、協力体制が実践できたこと、職員全体で様々な業務の効率化（改善）に取り組んだことで風通しの良い組織風土が構築されつつあり、今年度実施した職員満足度調査でも「働きやすさ」を実感している職員が多かった。これまでの取り組みを継続し職員の定着につなげていきたい。

2025年度に向けて

稼働率目標を達成するために待機者の安定的な確保とスピーディな入居に向けての対策を講じていくことで空床期間の短縮化を図っていききたい。

今年度の目標としている「入居者様の暮らしが安心して幸福と感じられる生活環境を目指す」を実践するため職員の教育研修を強化していく計画である。特に看取りケアと接遇に力を入れ職員が主体となり現場での実践を目指す。

介護人材のなり手は減少傾向となり次世代に向けた介護事業の在り方が問われる時代となることは明らかである。引き続き限られた人材で事業を継続できるか真剣に考え、当該施設に於いても魅力ある施設となるような取り組みを介護事業部全体でも模索していきながら、部署としてもこれまでに培ってきた組織風土がさらによりよいものとなり「働きやすい職場」、「やりがいのある職場」、「自分が必要とされる職場」、「成長できる職場」作りに職員全体で尽力していききたい。

年間統計

年	2024年									2025年		
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	88%	86%	88%	89%	91%	92%	93%	92%	94%	88%	87%	87%
新規入居数	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	1
看取り件数	1	0	0	0	1	1	0	1	1	2	1	1
平均年齢	90.7歳	91.3歳	90.8歳	90.7歳	90.5歳	90.4歳	90.3歳	90.4歳	89.8歳	89.8歳	91.1歳	91.4歳

職場紹介

1. 職員構成

理学療法士	2名（内1名非常勤）
作業療法士	3名
看護師	1名
介護福祉士	3名（内1名非常勤）
相談員	1名

2. 診療内容/業務内容

リハビリ（評価・計画・見直し）
ご家族へ介護のアドバイス
健康観察 社会参加の支援 等

2024年度を振り返って

前年度は「介護報酬改定」が実施される年でありました。

今回は主に要支援の方を中心とした、1年を超えるご利用についての制限が提示されるなど大きな節目となりました。

各利用者の方々における通所リハビリの役割、今後の方向性や必要性について検討し、自立へ向けてサービスを見直していく事が継続的に求められ、今まで以上にご家族、及び多職種による連携を心がけてまいりました。ご家族とお話する機会が増えたことで、生活上の問題点や改善点に一層着目する事ができました。

また、退院後のリハビリテーションが必要な方について、円滑に、継続的にリハビリテーションが提供できるよう、院内スタッフと共に、医療一介護間の連携に取り組んでまいりました。

2025年度に向けて

通所リハビリは「卒業」が求められる時代となっています。

特に要支援は1年を超える継続利用に「卒業」に向けた定期的な会議、検討を続けることが提示されています。

様々な制限が提示されている中でありますが、当通所リハビリでは引き続き利用者の方々の安定した活力のある生活を第一に考え、今後も栄光会の理念に基づき、ご本人・ご家族・地域のニーズに可能な限り応えられるよう心がけてまいります。

職場紹介

1. 職員構成

管理者（常勤兼務）	:	1名
サービス提供責任者（常勤専従）	:	1名
介護福祉士（常勤専従）	:	1名
介護福祉士（非常勤専従）	:	1名
ヘルパー（常勤兼務）	:	1名

2. 業務内容

利用者の方々のご自宅に訪問し、生活や身体の介護を行う。

具体的には、料理／掃除／洗濯などの家事全般から、

日用品の買い出し（買い物代行）、そして食事／入浴／排泄などの
各種身体介助が中心となる

2024年度を振り返って

慢性的な人員不足と突発的なスタッフの欠員により、利用者の方々に対して回数制限や時間変更などのスケジュール調整を余儀なくされたことがたいへん遺憾であった。そのような状況下においても、スタッフ達が利用者の方々生活を支えようと必死に奮闘したことにより、感謝やお礼の言葉を多数頂いた他、アンケートによる満足度調査も高評価であった。

人員をいかに確保していくか、という命題に加え、感染予防への対策を徹底しつつ、限られた制度の範囲内で、ご家族やケアマネジャーと連携し、研鑽を重ねながらの安定的なサービス提供が求められている。また当然ながら収益面での成果も重要であり、来年度も非常に厳しい運営が予想される。

以上の通り、訪問介護事業は厳しい状況下にあるが、地域住民からの事業継続の強い要望に応えていくためには、事業所単独での努力のみならず、事業所間の連携や行政との協力関係等も視野にいれた理想的な事業形態を具体化していくことが必要だと考える。

職場紹介

1. 職員構成

管理栄養士 1名（施設側）

委託（日清医療食品株式会社） 調理師 2名 栄養士 1名

2. 業務内容

献立作成・発注、

施設入所者・利用者の方々への食事提供と栄養管理

クリニック栄養指導・訪問栄養指導

2024年度を振り返って

昨年の上半期は前年度からの食材費高騰などもあり、食事の見直しが必要な時期でありました。

先ず、現入居者の方々にとっての最適な食事量と食事時間の見直しをした結果、食材料費が高騰している中、食費は変わらず節約が出来たかと思えます。しかしながら、異常気象や世界情勢の影響により、食材料高騰は続き、人材不足、更に施設の老朽化等重なり、施設での給食提供を継続するために様々な工夫が必要な時期でした。

下半期は今までの食事に関わる全ての見直しを行い、新しい形での食事提供、及び食費などの変更をしました。この事に於いては、かめやま・事務と連携をしながら、サービス向上に努めて参りました。

食事が変わり、「温かくて美味しい」と今までとは違う感想も聞くことが出来ました。

今後も給食を取り巻く環境は変化していくものと考えます。状況に合わせた考えをしつつ、入居者の方々の生活を支える軸となる食事に関して、より良いサービスを目指していきたいと思えます。

多職種協働によるNST（栄養サポートチーム）を月に1回行う事で低栄養による身体症状の重症化を防ぎ、個々の食事形態や喫食状況を把握、誤嚥予防、体重減少等、早期に身体状況の変化に気づき改善策に取り組んでいます。

2025年度に向けて

給食提供の変更に伴い、給食管理から栄養管理へ。

入居者の方々の栄養管理については、現在行っている多職種協働のNSTでの報告を継続していきたいと考えております。

外来クリニックにおいては生活習慣病予防のため、栄養指導の必要性を理解いただき、具体的な献立の提案を行います。

地域包括における栄養士の役割として、健康教室・うきうきルーム・料理教室開催時には、最新の栄養情報を伝え、食の支援活動を行う事で、地域の健康増進、病気の予防、介護予防等の役割を果たしていきたいと思います。

今年度より栄光病院が在宅支援病院として担っている訪問栄養指導を行っていきます。

又、子どもの栄養不良・過多も近年問題となっています。食事は各世代に於いて誰にとっても重要なことです。

栄光会栄養士として、食事に関わる業務に努めて参ります。



伝道部

職場紹介

1. 職員構成

チャプレン／グリーフカウンセラー 清田直人

2. 業務内容

社会医療法人 栄光会 栄光病院 伝道部は1997年に設立し、病床訪問をはじめとし、患者礼拝、院内キリスト教行事の企画等を中心に活動している。

- 1) 患者、家族へのスピリチュアルケア、職員への心理／産業カウンセリング、遺族へのグリーフカウンセリング
- 2) 患者礼拝“よきおとずれ会”“第四日曜礼拝”の主宰
- 3) 院内キリスト教行事の執行
- 4) 院内における洗礼式、冠婚葬祭などの執行
- 5) NPO法人栄光ホスピスセンター

a) 伝道部基本理念

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」
—栄光会創立の精神—

- i) キリスト教病院としての栄光病院建院の精神を確認し、「栄光会フィロソフィ」に基づいて、その目的達成につとめる。
- ii) キリスト者スタッフは、まず自らの勤務を通じてキリスト者としての立証につとめ、他のスタッフや患者・家族に対して、キリストの愛を持ってそのつとめを行う。

b) 伝道部目標

- i) キリスト教精神に基づく病院理念の啓蒙
- ii) 院内キリスト教行事の充実
- iii) 病院理念に基づくスピリチュアルケアとグリーフケア

c) 伝道委員会規定

(目的) 第1条 委員会は当法人で行われる様々なキリスト教に関連する行事等を企画することを目的とし、その具体案を検討・立案すると共に、その決定により実施する。

(構成) 第2条 委員会は伝道部職員、その他の部署のクリスチャン職員によって構成する。

(運営) 第3条 委員会は隔月1回委員会を開催する。

附則

(施行) 第4条 この規定は平成19年4月1日より施行する。

上記規定(目的)第1条の「当院」を「当法人」に改める。(2014年4月1日)

2024度を振り返って

年間聖句：「わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、
神の建物なのです。」 (コリントの信徒への手紙 第一 3:9)

iii) 病院理念に基づくスピリチュアルケアとグリーフケア

○入院患者およびその家族のスピリチュアルペインを的確に評価し、スピリチュアルケアに繋げていく。 —各病棟との情報共有に努める—

行事

- ・たんぽぽ 毎月発行
- ・よきおとずれ会 院内放送のみで開催
毎週火、木、土曜日 9:00～9:30 栄光の間（野村、清田）
- ・聖日礼拝 第四日曜日 10:30～11:30 礼拝堂 平均出席者数 15 名
- ・第 64 回追悼記念会
日時：2024 年 9 月 14 日（土）14:00～16:00 場所：礼拝堂
対象者：2023 年 10 月～2024 年 3 月に亡くなられた患者家族
出席者合計：28 家族 53 名
4 A 病棟 1 家族 1 名、4 B 病棟、訪問、在宅なし、3 A 病棟 5 家族 7 名、
3 B 病棟 13 家族 30 名、2 C 病棟 9 家族 15 名
- ・召天者墓前記念礼拝 日時：2024 年 10 月 26 日（土）14:00～15:00
場所：聖徳廟 栄光病院納骨堂 出席者：8 家族 16 名
- ・栄光病院クリスマスキャロリング礼拝
日時：12 月 21 日（土）18:30～ 礼拝 19:30～ 各病棟にてキャロリング
- ・年末感謝礼拝 日時：2024 年 12 月 30 日（月） 8:30～8:50 礼拝堂
- ・年頭感謝礼拝 日時：2025 年 1 月 6 日（月）8:30～8:50 礼拝堂
- ・第 63 回追悼記念会
日時：2025 年 3 月 22 日（土）14:00～16:00 場所：礼拝堂
対象者：2024 年 4 月～9 月に亡くなられた患者家族
出席者合計：31 家族 56 名
訪問（在宅含む）2 家族 4 名 3 A：10 家族 14 名
3 B：6 家族 14 名、2 C：13 家族 24 名

その他

- ・結婚式…2024 年度 0 件
- ・洗礼式…2024 年度 0 件
- ・納骨式…2024 年度 6 件
- ・2024 年度 院内葬儀状況（のぞみの間におけるお別れ会を含む）
4 月…1 件、5 月…2 件、6 月…0 件、7 月…1 件、8 月…0 件、9 月…1 件、
10 月…2 件、11 月…2 件、12 月…2 件、1 月…1 件、2 月…2 件、3 月…0 件
合計 14 件



2025 年度に向けて

年間聖句：「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」

（詩篇 119：105）

1) キリスト教精神に基づく病院理念の啓蒙

○栄光会の土台となるキリスト教精神を確認しつつ啓蒙する。

一朝礼、院内勉強会、新人オリエンテーション等でキリスト教精神を伝える-



地域協働部

職場紹介

1. 職員構成

部 長 下稲葉 主一

部長補佐 鷹尾 剛

部 員 和田 優理菜

※地域協働部は、栄光会他部署のメンバー諸氏の協力により成り立っています

2. 業務内容

時代背景

2025年、2040年に向け、時代は「地域包括ケア」及び「地域共生社会」へと向かっている。

在宅時代のなか、専門職及び生活支援に関わる地域住民は育っているのか？

目的

医療介護と地域社会がネットワークを組み、地域社会で生活をし続けることができ、その方々の幸せな人生最期に貢献する事にある。

内容

栄光会と地域人を繋ぎ、ネットワークを形成し、協働できる仕組みをつくる事。

①志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」の運営。

②「NPO 法人志免地域支え合い互助基金」の経営及び事務局。

・ 互助活動広報啓発事業

・ 互助活動助成事業

・ 互助活動コーディネート事業

③大学及び各団体、企業との協働。

④志免町版介護予防事業の研究。

⑤iPad で脳若トレーニング講座の運営。

2024年度を振り返って

福岡工業大学との協働により篠栗町、古賀市で住民・行政・企業のコーディネート手法を培い、その手法を志免町の介護予防づくり及び町づくりに活かす元年の年度であった。これらのプロデュースをNPO法人志免地域支え合い互助基金の助成・コーディネート事業と組合せ、資金と人財の組み合わせにより活動基盤を強化する年度となった。

① 志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」の運営。

「うきうきルーム」は、担当町内会の公民館に理学療法士を中心に訪問し各種講座や運動

を行う。2024年度は5月より開催開始となり11町内会を担当。合計102回の開催、

1, 139名の参加となった。

②「NPO法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局。

当活動を通じて、全町的な人的ネットワークの構築が出来ている。以下は、代表的な活動事例。

- 中学生～40代等の世代との関りが、志免中学校との協働で結成している「支え合い新聞部」を通じて出来てきた。
- 「防災」活動を行う諸団体との協働により、多面的に繋がる人的ネットワークへと進化している。
- 「NPO法人いるか」との連携協定を通じ、志免町の小学校区に1ヶ所の『多機能型子ども食堂』づくりのサポートを行う中で、町内会や議員、行政等、様々な方々との協働が進み始めた。
- みんなの健康プロジェクト志免を結成。志免町内における健康をテーマとした対話の場を主導。
- 『退院支援から生活支援を考える』モデル事業及びシンポジウムを開催。その後、『志免町民の生活支援を考える会』が発足。『コンパッションタウン志免』を目指し、2025年度より志免町内の各コミュニティで交流会を開催予定。
- まちの保健室・事業者ネットワーク志免実行委員会が発足。志免社協を軸に、相談～コーディネートが出来る人材育成や相談解決の為にプラットホームづくりを行う予定。

③ 大学及び各団体、企業との協働。

- 福岡工業大学様との協働⇒篠栗町ラボプロジェクト、古賀市・福津市の介護予防事業への関わり。
- 志免中学校様との協働⇒支え合い新聞部活動。「ほほえみ結ぶ・しめ新聞」4・5号発刊。新聞は、各500部発行され、関係各所に配置して頂いた。
- 志免町の各企業さんとの協働⇒コカ・コーラ様を含めた町内企業との支援自動販売機事業等々

④ 志免町版介護予防事業の研究。

- みんなの健康プロジェクト志免をプロデュース。志免町内のステークホルダーとの協働を開始。

⑤ iPadで脳若トレーニング講座の運営。iPadで脳若トレーニング講座の運営を介護予防の一環として実施。通所型と訪問型にて運営。

- 通所型⇒2回／月の木曜で実施。
- 訪問型⇒志免町社会福祉協議会デイサービス輝き、春日市の介護予防講座に出向き講座を実施。また単発ではあるが、鏡町内会・別府3町内会から個別に開催依頼を頂いた。

2025年度に向けて

1. 介護予防分野に於いては、産官学との協働により、今後の志免町モデル案づくりを行う予定。
2. NPO法人志免地域支え合い互助基金で行う事業活動を通じて人的ネットワーク及び互助分野の準備。
3. 脳若トレーニングのメニューや人材開発を行うほか、志免町各所で展開する。
4. 遠隔看護りに関する開発研究とサービス化に向けた協働に取り組む予定。

ボランティア統括部

職場紹介

1. 職員構成

職員 1 名

2. 業務内容

ボランティア活動が円滑になされるための支援

2024年度を振り返って

2020年度より、コロナ禍の中、ボランティア活動は 屋外での活動の花壇の整備以外は休止していました。それまで ほぼ毎日、病院のあちこちで活動してくださっていたボランティアさんの姿が見られなくなり、4年余もの間、栄光病院は寂しい時間を経験しました。

コロナ感染の拡大が落ち着き、2024年度は ボランティア活動にも変化がありました。感染状況に注意しながら、ボランティア活動を再開することになり、コロナ前に実施していた活動を一件ずつ、感染リスクを考慮に入れて再開可能かどうか師長会で検討していただきました。そして 7月10日、ホスピス病棟の七夕会に 2名のボランティアさんが参加してくださいました。本当にうれしい瞬間でした。

その後もホスピス病棟の季節の行事（お月見会、クリスマス、ひな祭り会）にはボランティアさんの支援をいただいています。11月には、セラピューティック・ケアのみなさんも再び加わってくださいました。コロナ禍の中も活動を続けてくださった花壇ボランティアさんや折り紙やペーパークラフトを送ってくださるボランティアさんたちにも ずっとご支援いただいています。

ボランティアさんは病院に外の爽やかな風を運んで来てくれます。職員とは違った角度から栄光病院に関わることができる重要なパートナーです。ボランティアさんの姿が見えると、患者さんやご家族のみなさん、また職員の間に優しい空気が広がります。ボランティアさんは 栄光病院には欠かせない存在です。コロナ禍を通して、あらためてそう思いました。

ボランティア活動の休止期間は4年を超える長さでした。ご体調やご事情の変化のために、残念ながら活動を続けることができないというお返事をいただいた方も少なくありませんでした。長い間のご支援に感謝しています。

年間のボランティア活動

1. 主な活動

整備、製作活動

外回りの整備—玄関前ボランティア花壇

季節の装飾—折り紙の壁掛け ・ クリスマスオーナメント

病棟の季節の行事の支援—患者さんの搬送補助・見守り・茶菓の準備

心身の癒しの提供—セラピューティック・ケア（手の温もりによる施術）

日本セラピューティック・ケア協会のみなさまによる

2. 栄光病院ボランティア活動実績

（2024年4月～2025年3月）

活動回数・活動時間

月	新規登録数	延べ活動回数	延べ活動時間
4	0	13	11:55
5	0	17	19:05
6	0	12	12:55
7	0	16	15:40
8	0	24	19:10
9	0	16	17:05
10	0	14	13:50
11	11	27	61:30
12	0	18	27:15
1	0	14	13:15
2	0	11	8:50
3	0	13	13:20
計	11 人	195 回	233時間50分

季節の装飾の製作

月	作 品	
4	折り紙の壁飾り	『 チューリップ 』
5	折り紙の壁飾り	『 端午の節句 』
6	折り紙の壁飾り	『 紫陽花 』
7	七夕飾り	
8	折り紙の壁飾り	『 納涼 』
9	折り紙の壁飾り	『 お月見 』
10	折り紙の壁飾り	『 ハロウィン 』
11	折り紙の壁飾り	『 秋の風情 』
12	折り紙の壁飾り	『 クリスマス 』
	ペーパークラフト	『 クリスマスオーナメント 』
1	折り紙の壁飾り	『 お正月 』
2	折り紙の壁飾り	『 節分 』
3	折り紙の壁飾り	『 ひなまつり 』



本部事務局

職場紹介

職員構成

事務局長	1名
事務局次長	1名
主任・副主任	10名
一般職	7名
【計】	19名

(2025/4/1現在)

2024年度を振り返って

2024年度は本部事務局にとって、より多忙な年となりました。「物価高による各種料金の値上げ」、「診療・介護報酬改定」、「働き方改革」、「医療・介護人材不足」等、それぞれの課・業務においてその対応に奔走してまいりました。まだまだ課題は尽きませんが、あらためて「本部事務局の役割・使命」を意識して、協力し、助け合いながら励んだ一年であったと思います。

2025年度に向けて

《2025年度 本部事務局 部署目標》

1. 栄光会の職員としての誇りを持ち、現場を支える使命感をもって業務に精励する。
2. 赤字脱却のため、経費削減をより積極的に推し進める。
3. 担当業務をマニュアル化し、持続可能な組織体制を構築する。

昨年に引き続き、栄光会の経営状況はとても厳しい状況です。主な原因は、コロナ禍の影響を未だ受けていることと、医療・介護を取り巻く環境の過酷化です。2025年度はこの状況を打破するべく、あらためて「現場を支える使命感」をもって働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、これまで以上に積極的に経費削減を進めて参ります。

また、本部事務局のスタッフはそれぞれが重要な業務を担っています。そのため、業務の停滞を避けるための対策は必須です。改めて、それぞれが担当業務をマニュアル化し、あらゆる場合に備えて、持続可能な組織体制を構築していきたいと考えております。

職場紹介

「“経営の羅針盤”となるべく、法人の経営成績および財政状態を適正かつ速やかに把握し、経営の改善・向上に寄与する」。

1. 業務内容

- 1) 各種財務諸表作成
- 2) 資金の調達、管理、運用
- 3) 理事会、幹部会への財政状態・経営成績・財務分析報告
- 4) 新規事業計画の支援（財務面での検証）、または立案・作成
- 5) 法人の意思決定に資する各種情報の収集

年度統計

外来患者数

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月
内科	1,392	1,397	1,425	1,782	1,519	1,299
外科	264	264	301	286	306	271
循環器科	179	171	180	204	169	173
呼吸器科	185	162	154	186	141	166
整形外科	109	103	117	138	128	123
リハビリ	181	130	125	118	115	123
健診センター	262	379	534	421	483	407
在宅医療センター-栄光	179	204	202	223	202	192
予防接種 他	219	168	191	217	181	179
〈計〉	2,970	2,978	3,229	3,575	3,244	2,933

診療科	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	1,491	1,380	1,887	1,753	1,343	1,450	18,118
外科	339	333	256	260	252	274	3,406
循環器科	195	157	162	166	152	149	2,057
呼吸器科	181	175	161	155	164	148	1,978
整形外科	147	129	141	132	105	107	1,479
リハビリ	135	134	110	80	99	113	1,463
健診センター	596	846	462	320	339	467	5,516
在宅医療センター-栄光	207	211	177	161	141	156	2,255
予防接種 他	737	718	394	196	155	207	3,562
〈計〉	4,028	4,083	3,750	3,223	2,750	3,071	39,834

稼働状況

年		2024	2024	2024	2024	2024	2024
月		4月	5月	6月	7月	8月	9月
患者数	外来	2,529	2,395	2,493	2,931	2,559	2,334
	健診センター	262	379	534	421	483	407
	在宅医療センター栄光	179	204	202	223	202	192
	訪問看護	829	786	771	920	833	782
	内科(外来)	416	416	439	497	400	395
	内科(訪問診療)	218	218	222	262	240	235
	小児科	656	695	360	856	594	664
棟	通所リハ	866	909	832	898	791	820
	3 A	652 21.7	705 22.7	649 21.6	669 21.6	604 19.5	666 22.2
	3 B	594 19.8	642 20.7	665 22.2	634 20.5	693 22.4	656 21.9
	・ 延患者数	589 19.6	603 19.5	647 21.6	623 20.1	642 20.7	632 21.1
	・ 1日平均	4 A	1,238 41.3	1,235 39.8	1,216 40.5	1,339 43.2	1,205 40.2
	4 B	645 21.5	662 21.4	567 18.9	693 22.4	803 25.9	666 22.2
	5 A	898 29.9	954 30.8	849 28.3	859 27.7	945 30.5	810 27.0
	全院	4,616 154	4,801 155	4,593 153	4,817 155	4,925 159	4,635 155
	3 A/24	91% 33	95% 23	90% 27	90% 29	81% 41	93% 27
	3 B/24	83% 43	86% 44	92% 36	85% 31	93% 24	91% 24
	・ 稼働率	2 C/23	85% 23	85% 34	94% 32	87% 36	90% 28
	・ 入退院	4 A/45	92% 74	89% 75	90% 63	96% 72	89% 92
	(転棟含む)	4 B/28	77% 19	76% 18	68% 12	80% 16	93% 14
	5 A/34	88% 23	91% 20	83% 21	81% 17	90% 17	79% 16
	全院	86% 215	87% 214	86% 191	87% 201	89% 216	87% 185
その他	有老くかめやま> 35室	%	87%	85%	88%	88%	90%
	・ 時間外比率	%	31%	35%	32%	36%	28%
	・ 死亡退院	人	31	48	42	38	41
他	・ 救急車来院回数	回	19	12	16	26	26
							9

年		2024	2024	2024	2025	2025	2025
月		10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	外来	3,225	3,026	3,111	2,742	2,270	2,448
	健診センター	596	846	462	320	339	467
	在宅医療センター栄光	207	211	177	161	141	156
	訪問看護	895	851	724	627	625	701
	内科(外来)	669	678	686	414	426	446
	内科(訪問診療)	238	229	233	211	210	222
	小児科	979	1,379	1,360	548	636	792
棟	通所リハ	879	874	817	767	751	798
	3 A	688 22.2	642 21.4	611 19.7	600 19.4	597 21.3	712 23.0
	3 B	642 20.7	555 18.5	575 18.5	558 18.0	621 22.2	666 21.5
	・ 延患者数	627 20.2	560 18.7	561 18.1	475 15.3	557 19.9	654 21.1
	・ 1日平均	4 A	1,073 34.6	956 31.9	1,186 38.3	1,125 36.3	1,143 40.8
	4 B	708 22.8	718 23.9	703 22.7	766 24.7	670 23.9	760 24.5
	5 A	742 23.9	743 24.8	912 29.4	915 29.5	879 31.4	883 28.5
	全院	4,480 145	4,174 139	4,548 147	4,439 143	4,467 160	4,965 160
	3 A/24	92% 26	89% 31	82% 38	81% 29	89% 32	96% 19
	3 B/24	86% 32	77% 38	77% 36	75% 29	92% 28	90% 42
	・ 稼働率	2 C/23	88% 33	81% 38	79% 29	67% 27	86% 24
	・ 入退院	4 A/45	77% 64	71% 53	85% 81	81% 60	91% 65
	(転棟含む)	4 B/28	82% 8	85% 12	81% 17	88% 14	85% 18
	5 A/34	70% 21	73% 23	87% 23	87% 21	92% 17	84% 23
	全院	81% 184	78% 195	82% 224	80% 180	90% 184	90% 204
その他	有老くかめやま> 35室	%	91%	90%	91%	83%	84%
	・ 時間外比率	%	21%	32%	39%	51%	33%
	・ 死亡退院	人	41	51	41	36	35
他	・ 救急車来院回数	回	11	10	23	16	13
							8



社会福祉法人 栄光会 現況

社会福祉法人 栄光会 特別養護老人ホーム こころ

施設長 関 恵美子

職場紹介

1. 職員構成

理事長 青戸 雄司 施設長 関 恵美子

介護支援専門員 2 名 相談員 1 名 機能訓練指導員 1 名 看護師 4. 4 名

管理栄養士 1 名 事務員 1 名 介護士平均 3 0. 8 名（パート含む）

食器洗浄員 2 名 夜間管理当直員 4 名

2. 理念

おもてなしの心で 皆様さまの幸せと

生きがいある生活をサポートします。

3. 概要

入居 7 0 床＋短期入所 1 0 床（現在休止中）の定員 8 0 床の全室個室型ユニットケア

入居対象者：要介護 3 から要介護 5 平均要介護度 4. 1

4. 歴史

特別養護老人ホーム「こころ」は、社会福祉法人栄光会が 2 0 1 5 年 8 月 1 日に開設した施設です。栄光病院の全人的医療を基本とし、入居者の「いのちの質」を大切にし、その人らしい暮らしの継続をサポートしています。地域との交流も積極的に行い、社会とのつながりを大切にしています。

2024 年度を振り返って

目標：人材確保、安定した経営を継続する行動

1) 地域に根ざした介護事業の運営に努める。

2) 人間力のある次世代の介護職員を育てる。

1) 年間の入居者平均 6 3. 3 名、平均稼働率は 9 1 % でした。7 月頃より介護士の欠員が続いたため、新入居者を積極的に受け入れられず、下半期の稼働率は低迷しました。しかし、新規申し込みや相談は栄光会ライフサポートセンターやケアプラン、近隣の医療機関、介護施設からの紹介も多くあり、待機者は 1 0 名程度おられますので、今後介護職員が整い次第、目標数の 6 5 床以上を維持しながら入居相談など丁寧に対応していきたいと考えています。

介護職員の人材確保については、全国的に介護業界で大きな問題となっていますが、当施設も例外ではありません。例年通り退職者が多い中採用に苦慮していますが、紹介会社を増やしたり、人材確保に向けて採用コンサルティング事業所のアドバイスを受けながら、ホームページ等の提示変更に取り組みました。また、外国人材（ミャンマー留学生）の受け入れも開始し、介護人材の確保に努めました。

2024年度は徐々に面会制限を緩和しました。ご家族との時間を過ごす事も多くなり、また、レクリエーションやボランティアなど催し物も再開したことで、入居者の方々の笑顔が多く見られるようになりました。

2) 2024年度はフォローアップ研修を取り入れました。ネット配信サービスによる専門的な内容が多数あり、計画的な法定研修も含め、各自が学びたい研修内容を視聴することができました。また、経験の浅い介護職員や新たにユニットリーダーになった介護職員を中心に外部研修に参加してもらい、スキルアップを図りました。感染症予防に対する研修も重ね、冬から春にかけては感染症発生0という結果を出すことができました。

また、接遇、看取り研修など実施し、入居者・ご家族の信頼や安心感に繋がるよう心がけながら取り組む事ができました。今後はコミュニケーション能力やチーム力を高められるよう、自らが取り組むべきことを考えて行動できる介護職の育成に力を入れていきたいと思います。

2025年度 目標

目標：人材の育成と定着を強化しつつ組織力を高め、安定した経営を確立する。

1) 人材確保と職員教育

- ・採用業務の継続、外国人材の採用も継続する
- ・フォローアップ研修や外部研修の継続
- ・働きやすい職場作り（離職率低減を目指す）

2) 生産性向上

- ・入居者が快適に生活するためにインカム・移動用リフトなどを導入し、職員の業務効率化・安全性の向上を図るとともに、職員間の連携強化に繋げる
- ・コスト削減の意識化

3) 安定した入居者確保

- ・入居相談、判定会議等の継続
- ・家庭的な環境作り、接遇の徹底

4) 感染症予防の強化

- ・感染症予防対策マニュアルの理解と意識づけ
- ・感染症発生時の早期対応と連携
- ・勉強会の継続（年2回）



研修状況

院内・院外研修状況

■ 2025年度 新入職員研修実施状況

《 2日研修 》 研修場所 2F礼拝堂

【4月1日（火）】

8:30～ 9:00 開院記念日・入職式
9:10～ 9:40 訓辞・「新しい方々を迎えて」 井上理事長
9:40～10:30「栄光会フィロソフィ」 下稲葉順一院長・ホスピス長
10:40～11:00 法人の概況・職員の心構え 後藤事務局長
11:00～12:30「新人事制度について」 後藤事務局長・小池事務局次長
人事労務関係留意事項 松尾主任
13:30～14:45 医療安全 鎌倉医療安全管理副室長
感染対策 鎌倉感染防止対策副室長
14:50～15:10 防災訓練実施要領説明 齋藤主任
15:10～16:00 防災訓練 齋藤主任
＜礼拝堂・2F リハビリテーション課前自動販売機付近＞
16:10～16:20 名札写真撮影（本部事務局内撮影場所）
16:20～16:50 人事・労務関係入職時提出書類説明 人事労務課
16:50～17:00 事務連絡

【4月2日（水）】

8:30～ 9:00 永年勤続表彰式
9:10～ 9:50「看護部の紹介」 堤看護部長
9:50～10:20「栄光会における地域協働活動」
～住民が支え合い、安心して暮らせる地域社会を目指して～
下稲葉圭一本部長
10:20～10:40「伝道部より」 清田チャプレン
10:50～12:30 部署紹介（9 部署／全 20 部署）
10:50 薬剤課 11:00 リハビリテーション課 11:10 放射線室
11:20 ライフサポートセンター（休憩 10 分） 11:40 ヘルパーステーション
11:50 在宅医療センター 12:00 介護付き有料老人ホームかめやま
12:10 地域協働部 12:20 特別養護老人ホームこころ
13:30～15:30 部署紹介（11 部署／全 20 部署）
13:30 ファミリークリニック 13:40 ケアプランサービス 13:50 訪問看護ステーション
14:00 医事課 14:10 診療情報管理室 14:20 開放型病院推進室
14:40 通所リハビリテーション 14:50 栄養管理課 15:00 臨床検査室
15:10 医療機器安全管理室 15:20 健診センター
15:40～16:10 ビデオ放映（幸福な死を迎えたい）
16:10～17:00「栄光ホスピスの『こころ』」
～関わる全ての人の『幸せ』の『小さなきっかけ』となる働きを目指して～
下稲葉順一院長・ホスピス長
17:00～ 事務連絡

■ 第 16 回 T Q M 研究発表会の開催

栄光会の患者様・利用者様に対するサービス向上、医療・看護・介護のレベルアップ、及び勤務モラル向上を期して、栄光会第 16 回 T Q M 研究発表会を開催した。

栄光会全部署が参画し、各部署創意工夫を凝らした発表を行った。

開催日：2024 年 11 月 15 日（金） 14：00～15：50 礼拝堂及び Web 併用

発表部署（7 部署）下記スケジュール参照

発表時間等 発表時間 8 分×7 部署 挨拶・講評 27 分 計 110 分

審査員 井上理事長・下稲葉院長・青戸副理事長・吉田副院長

堤看護部長・下稲葉副看護部長・下稲葉本部長・田ノ上副本部長

後藤事務局長・小池事務局次長・関施設長 計 11 名

時 間	部 署	テーマ
14:00～14:05	開会挨拶	
14:05～14:13	① 4 A 病棟	「看護補助体制充実加算導入にあたっての病棟での取り組み」
14:15～14:23	② 訪問看護ステーション	「腰部発赤が続く在宅療養者への働きかけと変化が見られた一例」
14:25～14:33	③ 放射線室	「各モダリティの撮影方法と症例」 ～XP、CT、MRI、MMG～
14:33～14:50	休憩	
14:50～14:58	④ 3 B 病棟	「ヒューマンファクター」 ～ヒューマンエラーを防ぐ意識を高める～
15:00～15:08	⑤ 介護付き 有料老人ホームかめやま	「レク活動の現状と課題」 ～レクリレーションは楽しい！！を目指して～
15:10～15:18	⑥ リハビリテーション課	「GLIM（グリム）基準運用に先駆け」 ～集計・分析し 見えてきたこと～
15:20～15:28	⑦ 2 C 病棟	「目指せ！感染対策の意識向上」 ～ViVA 2 C～
15:28～15:50	講評	

※なお、審査採点の結果、最優秀賞：2 C 病棟

優秀賞：訪問看護ステーション、優秀賞：リハビリテーション課
が表彰された

■ 院内研修会 実施状況

栄光これから研修会

月	日	研修会名	講 師	受講者数
5	1	『診療用放射線の安全利用』	放射線室	221
6	5	『感染対策』	鎌倉 副室長	298
7	3	『医薬品の取扱いについて』	中島 主任	207
8	7	『医療安全』	鎌倉 副室長	299
9	2	『認知症について』	大野 脳神経内科部長	292
10	7	『感染対策』	安藤 内科部長	311
11	6	『医療ガス安全講習』	(株)朝日酸素商会	289
12	4	『医療安全』	エーザイ(株)	304
1	8	『接遇』	eラーニング視聴	294
2	3	『臨床倫理』	吉田 副院長	284
3	5	『メンタルヘルス対策』	eラーニング視聴	279

新入職員研修

4	1	『医療安全』(新入職員研修)	鎌倉 医療安全管理室 副室長	29
4	1	『感染対策』(新入職員研修)	鎌倉 感染防止対策室 副室長	29
4	1	『防災訓練』(新入職員研修)	齋藤 総務課 主任	38

■ 看護部 院内研修

看護部研修会 （隔月第2水曜日 17:15～18:00 礼拝堂）

研修日	研修テーマ	講師
2024/4/10	2024年度 看護部目標～目指す方向性～	看護部長 堤 千香子
2024/6/12	論理～認知症の人の意思決定支援	がん性疼痛看護認定看護師 湯川 綾子 緩和ケア認定看護師 河野 智子
2024/7/10	看護師と看護補助者との協働推進の実 際	副看護部長 下稲葉 道一 主任 岡村 真澄
2024/8/7	フィロソフィからコミュニケーション について考える	清田チャプレン
2024/9/11	創傷管理～予防的ケアの基本とワンポ イントアップデート	皮膚・排泄ケア認定看護師 船津 沙耶香
2024/10/9	看護必要度	4A 看護必要度チーム
2024/12/11	認知症と疼痛について	がん性疼痛看護認定看護師 假屋 洋子 認知症看護認定看護師 江口 由美子
2025/1/8	ウキウキワクワクフィロソフィ(発表)	
2025/2/12	ウキウキワクワクフィロソフィ(発表)	

職位研修（看護師長・師長代理）
 学研ナーシングサポート 2024
 オプションコース：看護管理者特別コースⅠ

開催月	コード	セッション	担当者
4月	HEA2401	医療・介護・福祉をつなぐ次世代ヘルスケアシステムを展望する ～DX、病院経営を含めて～	師長 岡崎 祥子
5月	HEA2403	労務管理で組織のモチベーションアップを実現する ～ワーク・エンゲイジメント向上のために～	師長 寺田 泰子
6月	HEA2404	いまこそ押さえない医療安全・危機管理 ～看護管理者として組織を守り、人を育てる～	師長 鎌倉 富雄
7月	HEA2402	看護部全体で取り組む診療報酬・介護報酬改定	副看護部長 下稲葉 道一
8月	HEA2405	ゴキゲンな看護管理者になる！	師長 神信 美砂
9月	HEA2406	スタッフがヒーローになれる人材育成 ～「しなやかで折れない」レジリエンスを育てる～	師長 松岡 晴美
開催月	コード	セッション	担当者
10月	HEA2407	日常のケアを見つめ直す看護論理	師長 波多野 智子
11月	HEA2408	よりよい看護をつくる質管理・質改善 ～ベンチマーク評価の実際～	師長 石田 美千代
12月	HEA2409	レジリエンスな組織をつくる ～組織の目標達成に向けた組織マネジメントの実際～	師長代理 倉田 正子
1月	HEA2410	人材育成のための人的資源管理	師長代理 西村 由加理
2月	HEA2411	接続可能な学習する看護組織をつくるための考え方	師長 村勢 加寿代
3月	HEA2412	地域連携における多職種連携・ケア移行の重要性と 看護師の役割	師長 梅野 理加

職位研修（看護部主任） 看護補助者との協働に対するOJTの計画及び研修の実施

開催日	研修テーマ	参加者
2024/7/19	移乗	13名
2024/8/16	移乗	11名
2024/12/20	食事介助	10名
2025/1/17	食事介助	10名

職位研修（看護部副主任）

行動計画・eラーニング

開催月	研修テーマ
4月	年間目標及び行動計画立案
5月	職位研修「パートナーシップ」についてレポート提出に向け活動する
6月	レポート提出 6/25 まで
7月	カンファレンスについて、各部署の現状把握から見えた点、今後の取り組みについて情報共有 ①外来・2C
8月	カンファレンスについて、各部署の現状把握から見えた点、今後の取り組みについて情報共有 ②3A・3B
9月	上半期評価 カンファレンスについて、各部署の現状把握から見えた点、今後の取り組みについて情報共有 ③4A・4B
10月	上半期評価・下半期行動修正を師長会へ報告 カンファレンスについて、各部署の現状把握から見えた点、今後の取り組みについて情報共有 ④5A・訪問看護
開催月	研修テーマ
11月	カンファレンスについて、各部署の現状把握から見えた点、今後の取り組みについて情報共有 ⑤FaCL
12月	接遇 eラーニング視聴 ・グループワーク実施 「接遇・マナーの基本～患者・家族へのかかわり方～」 「信頼関係を築く医療接遇のあり方」 「医療現場にさまざまな影響をもたらす『あいさつ』のチカラ」
1月	「届ける」を考える
2月	下半期評価と残課題確認
3月	次年度の目標検討

■ 看護部 院外研修参加報告 2024年4月～2025年3月

部署	日付	主催	テーマ	参加数
2C	5/19	medi	明日から活かせる足のケア	1
	6/14. 15	日本緩和医療学会	第29回 日本緩和医療学会学術大会	1
	6/12	日本看護協会神戸	主任のための組織管理入門	1
	7/7	糖尿病看護実践力開発研究会	糖尿病を持つ人の薬物療法	1
	11/23. 24	ELNEC-J	ELNEC-J 看護師教育プログラム	1
3A	6/14. 15	日本緩和医療学会	学術集会「時空をこえて希望につながる緩和医療 サイコオンコロジー」	1
	6/21. 22	日本緩和医療学会	学術総会「信頼と調和による医療マネジメント～地域と共に質の高い安全な医療をつくる～」	1
	12/18	福岡県看護協会	実践に役立つ褥瘡ケア	1
3B	9/6	福岡県看護協会	ココロとカラダによりそうがん性疼痛の緩和ケア	1
	9/7	福岡県看護協会	観戦管理対策(フォローアップを学ぶ)	1
	9/27	福岡県看護協会	観戦管理対策(フォローアップを学ぶ)	1
	9/21. 22 10/5	日本ホスピス緩和ケア協会九州支部	ELNEC-J	1
	10/22	福岡県看護協会	カンファレンスの基本 ～うまくいく心構えとツールづくり	1
	11/8	福岡県看護協会	その人らしい意思決定を支えるために	1
	11/27	福岡県看護協会	訪問看護について知ろう	1
	2/7	福岡県看護協会	観戦管理対策(フォローアップを学ぶ)	1
	2/12	福岡県看護協会	論理的ジレンマ あなたはその時どう考えますか	1
4A	4～5月	メディカルチャレンジ	循環器集中学習コース	1
	6～7月	看護協会	消化官ストーマの基本	2
	5/19	川崎医科大学リハビリテーション医学教室	FIM講習会 基礎編	1
	6/29. 30	日本老年看護学会	老年看護のしんか―進化・深化・真価―	1
	7/1	看護協会	玉置妙優先生から学ぶ私自身が上手に前を向く方法	3
	7/2	看護協会	リーダーとして知っておきたい自部署を守る感染対策	1
	R6/7～R7/7	ラブタープロジェクト	診療の補助の強化書	1

4A	6/20	アテント	WEB セミナー 拘縮・失禁・介護	1
	4/27	日本褥瘡学会九州沖縄 地方会	病・診から在宅へのスムーズな移行	1
	5/25・26	日本創傷、オストミー失 禁管理学会	きらめく WOCN の力	1
	6/18	看護協会	人材はタカラ ～看護現場で人を育てるコツ～(2024)	1
	7/27	看護協会	弁護士が解説する適切な看護記録	2
	8/28	パラマウントベッド	マットレスの管理・運用方法の改善	1
	9/20	福岡徳洲会病院	摂食嚥下機能から考える口腔ケア・姿勢調整 について	1
	9/20	福岡徳洲会病院	心のケア 対処が難しいスタッフの対応につ いて	2
	10 月	地域包括ケア推進病棟 協会アカデミー	認知症とせん妄の治療とケア	1
	10 月	地域包括ケア推進病棟 協会アカデミー	他職種連携による地域包括ケア・医療病棟の ポリファーマシー・ポリドクター対策	1
	10/12	スミス・アンド・ネフュ ー	褥瘡スキントラブル対策 Webinar 緩和ケア編	1
	11/26	パラマウントベッド	明日からの実践！脆弱皮膚のスキンテア 2024～スキンテアの予防とケア	1
	11/26	パラマウントベッド	認知症高齢者の転倒予防の考え方	1
	11/28	e-ラーニング	接遇マナーについて	1
	10 月	地域包括ケア推進病棟 協会アカデミー	地域包括ケア・医療病棟の補完代替リハビリ テーション	1
	8 月	出直し看護塾	診療の補助の強化書	1
	12/1	福岡県看護協会	消化官ストーマケアの基本 ～周手術期と回復期	2
	12/5	福岡県看護協会	転棟を防ぐ！～高齢者のリスク管理～	1
	1 月	e-ラーニング	信頼関係を築く医療接遇のあり方	1
	1 月	e-ラーニング	医療現場に様々な影響をもたらす「あいさつ」 のチカラ	1
	1 月	e-ラーニング	正常な気道開通と危険な気道徴候の特徴	1
	1 月	e-ラーニング	気道確保補助器具の種類と使用方法	1
	1 月	e-ラーニング	気管挿管の適応と介助	1
	2 月	アステッキ	急性期ケア専門士予想問題集アプリ	1
	2 月	パラマウントベッド	看護現場の転倒転落対策の在り方シリーズ① 「身体抑制を再考する」	1

4A	2/7	済生会病院	新人教育について	1
	2/25	ナースの星 WEBセミナー	医療者がおさえておきたい排尿ケアの基本と実践	1
	3月	eラーニング	アドバンス・ケア・プランニングの歴史的経緯	1
	3月	eラーニング	アドバンス・ケア・プランニングの論理的基盤	1
	3月	eラーニング	よりよく生きるためのアドバンス・ケア・プランニング	1
	3月	eラーニング	患者の医師決定を支援するポイント	1
	3/4	パラマウントベッド	コミュニケーション明日から実践！ ポジショニング～前偏	1
	12/17	福岡県看護協会	急変予測に繋がるフィジカルアセスメントと急変時の対応	1
	3月	eラーニング	口腔ケアの意義	1
4B	4/6	福岡博多トレーニングセンター	ACLS プレコース オンデマンド	1
	4/19	田辺三菱製薬	ALS セミナー～ALS 診療全体を考える～ ALS 患者の在宅診療、ガイドラインに基づく ALS 診療と治療開発の展望	1
	4/20	認知症の緩和ケア研究会	第5回 認知症の緩和ケアに関する研究会	1
	6/18	大王製紙株式会社	アテントWEB セミナー 必見！ 今日から活かせる「介護の快護化」に向けた 拘縮予防ケアと予防！	1
	6/19	福岡看護協会	看護に活かすフィジカルアセスメント 1 ～呼吸・腹部～	1
	7/2	福岡看護協会	看護に活かすフィジカルアセスメント 2 ～循環・脳神経系～	1
	7/7	福岡看護協会	急変予測に繋がるフィジカルアセスメントと 急変時の対応	1
	7/13	ナースの星 WEBセミナー	各診療における褥瘡・スキントラブル対策	1
	2/7	済生会福岡病院	教育者育成教育研修会(コーチ)	1
	11/8	福岡県看護協会	その人らしい意思決定を支えるために	1
	11/23	福岡博多トレーニングセンター	ACLS プレコース	1
	11/24	認知症ケア学会	認知症ケア学会 九州・沖縄ブロック大会	1

4B	12/3	福岡県看護協会	急変時の迅速対応と R R S （アーカイブ）	1
	12/8	学研メディカルサポート	身体拘束最小化に向けて ～看護管理者の挑戦～	1
	12/18	福岡県看護協会	実践に役立つ褥瘡ケア	1
	1/18	栄光ホスピスセンター	栄光会ホスピスセミナー	2
	2/4	学研メディカルサポート	オンライン教育講演 スタッフを守り、自身を守るメンタルヘルスケア ～「叱る」を手放し「対話」と「承認」を～	1
	2/6	スミス・アンド・ネフュー	これで納得！ガイドラインに基づく褥瘡局所治療	1
	2/13	スミス・アンド・ネフュー	D E S I G N - R 2 0 2 0 で創をモニタリング	1
	2/13	パラマウントベッド	「明日から実践！ポジショニング ～前編 ポジショニングの意義～」	1
	2/18	P D 領域 W E B 講習会	パーキンソン病の診療 ～高齢者に対するマネジメントについて～	1
	2/20	スミス・アンド・ネフュー 株式会社モルテン共催	各種マットレス・クッションの効果的な導入・活用方法	1
	3/5	ナースの星セミナー	スキン-テアについて学ぶ	1
	3/5	スミス・アンド・ネフュー	スキン-テアと褥瘡予防の為のスキンケア	1
	3/12	スミス・アンド・ネフュー	ウンドハイジーンを知ろう ～治りにくい褥瘡の原因と対策	1
	3/19	スミス・アンド・ネフュー アポットジャパン合同会社共催	褥瘡の予防から治療まで ～せめと守りの栄養ケア～	1
5A	9/18	看護協会	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	1
外来	5/26	福岡 CDEJ 連絡会 ノボルディスクファーマ(株)	第 15 回 CDEJ 連絡講演会	1
	5/31	e ラーニング	労働安全衛生の基本的知識	1
	5/31	e ラーニング	接遇・マナーの基本 ～患者・家族への関わり方～	1
	5/31	e ラーニング	論理の基本 ～医療機関において求められる論理的な行動	1

外来	5/31	e ラーニング	入院・療養生活における日常の環境整備	1
	5/31	e ラーニング	ベッドメイキング・リネン交換の実際	1
	6/14	福岡県看護協会	消化管ストーマケアの基本 ～周術期と回復期～	1
	6/22	消化器内視鏡技師会	第 85 回九州消化器内視鏡技師学会	3
	8/24	富士フイルムコメディ カル株式会社	第 4 回メディカルスタッフセミナー 内視鏡診療・運用に関する情報提供とトラブ ルシューティング	2
	9/21	e ラーニング	CB2401㊤標準予防策㊤手指衛生㊤ゾーニング	2
	9/22	福岡県看護協会	心不全患者急増中 ～知っておきたい心不全看護～	1
	8/21	福岡県看護協会	新人看護職員教育担当者研修ガイドライン	1
	8/23	福岡県看護協会	新人看護職員教育担当者研修ガイドライン	1
	8/26	福岡県看護協会	新人看護職員教育担当者研修ガイドライン	1
	8/1	福岡県看護協会	主任看護師に必要なマネジメント	1
	11/7	福岡県看護協会	災害に備えよう	1
LSC	5/25	福岡県医療ソーシャル ワーカー協会	フレッシュ研修会	1
	7/3	福岡赤十字病院	病病連携の会	1
	7/22	福岡市医師会	第 50 回地域医療連携ワークショップ	1
	6/23	日本死の臨床研究会 九州支部	老いと死	1
	10/26	神奈川県回復期リハビ リテーション病棟協会 連絡協議会	「健やかに働くために」カスタマーハラスメ ントと専門職 前編(オンライン)	全員
	11/30	同上	「健やかに働くために」カスタマーハラスメ ントと専門職 後編(オンライン)	全員
	8/1	福岡県看護協会	主任・副看護師長に必要なマネジメントの基 礎	1
	9/4	福岡県看護協会	家族支援専門看護師と考える家族看護	1
	9/8	NPO 法人志免地域支え 合い互助金	退院支援から生活支援を考える ～交流・対話を通じ、みんなで支援の輪を創 り出そう	2
	9/12	福岡青洲会	第 10 回地域連携懇親会、後援会	1
	9/27	福岡県看護協会	看護管理者のためのセルフコンパッション	1
	10/9	済生会福岡総合病院	第 13 回地域連携フォーラム	1
	10/11～13	日本死の臨床研究会年 次大会	つらさや悲しさを持つ人々とともに歩む	2

LSC	10/16	志免町多職種連携研修会	認知症の方の支援や対応、どんなことに困っていますか?	1
	10/23	福岡山王病院	令和6年度福岡山王病院医療連携懇親会	1
	10/22	福岡市医師会	第51回地域医療連携ワークショップ	1
	10/26		医療と介護の連携	1
	10/30	千鳥橋病院	連携医療機関学習懇親会	1
	11/13	福岡徳洲会病院	福岡徳洲会病院地域医療連携の会	1
	11/13	原三信病院	第22回医療法人原三信病院医療連携の会	1
	11/15	福岡徳洲会病院	心のケア 対処が難しいスタッフの対応について	1
	11/22	HYUGAPRIMARYCARE株式会社	医療介護セミナー 住宅医療と在宅介護の連携	2
	11/25	筑紫医師会	脳血管障害／大腿骨頸部骨折地域連携パス合同勉強会	1
	1/20	済生会福岡総合病院	ACP・もしばなゲーム研修会	1
	1/18	栄光ホスピスセンター	栄光ホスピスセミナー 追悼セミナー	2
	1/25	九州大学病院	免疫とその制御技術	1
	1/29	筑紫医師会	脳血管障害／大腿骨頸部骨折地域連携パス合同意見交換会	2
	2/4	済生会福岡総合病院	次年度マスターコーチ研修	1
	2/11	福岡県精神保健福祉協会	生涯研修制度基幹研修Ⅰ	1
	2/25	福岡市医師会	脳血管障害／大腿骨頸部骨折地域医療連携	1
	3/9	日本生命論理学会	高齢者救急とエンドオブライフケア	1
	3/22	連携室の連携	第47回 連携室の連携	1
FC	8/21	看護協会	こどもの看護 ～成長発達各期のポイント～	1
	9/9	看護協会	KYTでリスク感性を高めよう	1
	9/19	ナースの星ワクチンwebセミナー	予防接種の円滑な運用に向けたクリニックでの取り組み	1
	10/9	看護協会	実践に役立つ褥瘡ケア	1
	1/15	看護協会	働きやすい職場をつくる労働管理	1
	1/27	ナースの星ワクチンwebセミナー	患者の価値観に寄り添う予防接種支援	1
	3/1	ナースの星ワクチンwebセミナー	手荒れの本当の原因と影響を徹底解明	1

訪看	4/19	ナースの星 WEB セミナー	麻疹、流行再燃の逃し！ ナースが「正しく恐れる」ための知識と実践	1
	4/19	田辺三菱製薬	ALS セミナー～ALS 診療の全体を考える～	1
	6/25	福岡県庁	在宅医療・介護スタッフを守るための暴力・ ハラスメント対策研修	3
	6/25	福岡県庁	在宅医療・介護管理者に必要な法的な暴力・ ハラスメント基礎知識と事例	3
	7/12	ナースペース	在宅緩和ケアの課題&病院との連携	2
	7/18	ナースペース	2024 年度診療報酬改定 訪問看護の注意点 &今後の展望	1
	7/31	福岡県看護協会	訪問看護師養成講習会「新任期」	1
	7/31	小野薬品	実践パーキンソン病ケア	1
	6/18	エクサホームケア	認知症ケアを正しく理解し、認知症の人との 関わり方を知る	1
	6/19	エクサホームケア	高齢者虐待と身体拘束の基本理解と防止のた めの実践的な取り組みについて	1
	6/20	コロプラス	最新のストマーケア	1
	6/22	CareWizBCP	必ずおさえる義務化事項 高齢者虐待と身体 拘束の基本的理解と防止のための実践的な取 り組みについて	16
	9/11	Carewiz	在宅向けの BCP 義務化された策定・訓練・研 修を徹底解説	1
	9/20	福岡県看護協会	訪問看護実習	1
	10/22	Carewiz	高齢者虐待・身体拘束を弁護士が徹底解説	1
	10/10	福岡県	福岡県の在宅医療・介護現場における利用者 等からの暴力・ハラスメントの実態及びその 対策	1
	10/10	福岡県	在宅医療・介護スタッフを守るための暴力・ ハラスメント対策	
	10/10	福岡県	在宅医療・介護管理者に必要な法的な暴力・ ハラスメントに関する基礎知識と事例	1
	10/29	福岡県看護協会	訪問看護研修「初任者」	1
看護 管理 室	7/13 12/14	福岡県看護協会	看護管理者が共に学びを深める会	1
	8/2、8/30 9/10、9/13 10/4	福岡県医師会	令和 6 年度(第 46 回)看護師卒後研修会 「看護管理(総論)」	1

看護 管理 室	8/21 8/23 8/26 2/4	福岡県看護協会	新人看護職員教育担当者研修	3
	9/10 9/19 9/20 2/5	福岡県看護協会	福岡県委託新人看護職員責任者研修	1
	2/4	済生会福岡総合病院	新人看護職員指導者研修	4
	2/7	済生会福岡総合病院	新人看護職員指導者研修	4
	2/14	済生会福岡総合病院	新人看護職員指導者研修	4

対外研修の状況

■ 栄光ホスピスセミナー これまでの歩み

1986年4月の開院当初より、栄光病院では終末期医療に取り組んでまいりました。そして、1989年5月、当院ホスピス3年間の経験を元に、さらに多くの方々の現場でのご経験を提供していただき、ホスピスケアの確立・充実をめざして学問的にそして实际的・具体的に研鑽に励み、末期がん患者さんとそのご家族のQOL（生活・いのちの質）を高めることに寄与することを目的として「栄光ホスピス研究会（現・NPO栄光ホスピスセンター）」を設立し、セミナーを開催してまいりました。

	演題 又は テーマ	講師（敬称略）	その他	参加人数
第1回 89.5.20	医の心 福岡亀山栄光病院ホスピスの3年	脇坂 順一 久留米大学名誉教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	VTR「忘れ得ぬ人」	261
第2回 89.7.15	がん告知は いま	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	看護婦・患者・患者家族・牧師 弁護士の立場よりの発表	84
第3回 89.9.2	医師として 末期医療（ホスピス）に どのようにかわるか	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	（医師部会）	37
第4回 89.12.9	ホスピスへ全人格的ケア 4つの痛みはどう応えるか 末期医療ケアの現状と今後の課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島 正治 厚生省健康政策局 保健医療技術調整官		230
第5回 90.2.3	ホスピスケアにおける看護婦の役割	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「病院紹介」 症例発表・質疑応答	118
第6回 90.3.24	残される者へのグリーフケア	河野 友信 死の臨床研究会幹事 都立駒込病院内科心身医療科医長	募集演題発表 4例	82
第7回 90.6.23	がんを病む心・仕える心 －がん患者の心理をめぐって－	牛島 定信 福岡大学精神医学教室教授	発表 患者・家族・看護婦の 立場より	158
第8回 90.9.8	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパ錠の徐放機構について 癌性疼痛とその対策	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 檀 健次郎 福大医学部麻酔科教授	VTR「栄光病院ホスピス案内」 （医師部会）	27
第9回 90.11.10	危機的状況にある 患者・家族の理解と援助	小島 操子 聖路加看護大学教授	発表 VTR「だからみんなで」	123
第10回 91.2.23	患者の家族としてホスピスに何を望むか	患者家族 4名	VTR「いのち輝いて」	64
第11回 91.6.29	安らかな人生最後の日々のために ホスピスにおける精神的援助	ホスピス医・看護婦・患者家族・牧師よりの 発表	VTR「いのちの旅人」	120
第12回 91.10.19	チーム・アプローチと看護 看護の心 期待される看護婦像	海尾 弘 栄光病院看護士長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「ホスピス・ナースの一日」	124
第13回 91.12.14	ホスピスのめざすところ ・ホスピスに期待するところ	患者家族・MSW・チャプレン・ホスピス医	事例検討 VTR	107
第14回 92.3.7	がん告知の理論と実際 －どのように告知するか－ がん告知と精神的援助 －どのように援助するか－	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師	募集演題 2例 事例検討	95
第15回 92.5.9	相即の医療 －死の彼方よりの医療－	藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「われらの国籍は天にあり」	93
第16回 92.7.25	痛みの看護	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「がん病棟24時間」 事例検討	112
第17回 92.10.16	人間の幸福をめざす医療	柏木 哲夫 淀川キリスト教病院副院長 小島 操子 聖路加看護大学教授 佐藤 智 ライフケアシステム代表幹事	（第16回死の臨床研究会 記念講演会）	多数
第18回 92.11.14	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパ錠の徐放機構について モルヒネ剤による疼痛コントロールの実際 －非経口的使用法を中心に－	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	（医師部会）	28
第19回 93.3.27	不二の人生に関わって －精神的援助のあり方を考える－	森山 健也 栄光病院協力牧師	事例検討 VTR「主よあなたがともに」	157
第20回 93.7.24	ホスピスケアの理論と実際	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 海尾 弘 栄光病院看護士長	症例検討 VTR「主よあなたがともに」	203
第21回 93.9.18	医療現場における思いやり・ 優しさとは何か ホスピスのめざすところ ホスピスにおける宗教的援助の役割 ホスピスにおける看護婦の役割	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	事例検討 VTR「ホスピス・ナースの一日」	420
第22回 93.11.5	がん疼痛の鎮痛薬による 効果的治療法のABC	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長		386
第23回 94.3.26	QOL向上をめざす全人格的ケアを ホスピスケアの内容と課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	VTR「主よあなたがともに」	439
第24回 94.5.21	一般病棟でどのようにして ホスピスケアを実現できるか	栄光病院スタッフ	事例検討・意見交換 患者家族の発表	226
第25回 94.7.23	訪問看護婦から見た在宅ホスピス 在宅ホスピスを可能にする 要因を考える 行政側から見た終末期医療	高沢 洋子 淀川キリスト教病院 訪問看護ステーション 林 治子 西南女学院大学 保健福祉学部看護学科 田中 慶司 福岡県保健環境部長		434

第26回 94. 10. 28	インフォームド・コンセントとがん告知	藤江 良郎	栄光病院理事長	事例発表	354
	がん告知、その理論と実際	下稲葉康之	栄光病院ホスピス長		
	がん告知、その精神的援助	森山 健也	栄光病院協力牧師		
	がん告知、看護婦の役割	広瀬 典子	栄光病院総婦長		
	経口モルヒネ使用の理論と実際	武田 文和	埼玉県立がんセンター総長		
第27回 95. 2. 25	QOL向上をめざす全人格的ケアを ーコミュニケーションをどのようにー	下稲葉康之	栄光病院ホスピス長		154
	全人的ホスピスケアの実際	中島美知子	ホスピティウム中島医院院長		
第28回 95. 5. 31	取材を顧みて	迎 恵子	テレビ西日本報道部 チーフマネージャー・ディレクター	VTR「ありがとう幸せの日々を」 (TNCテレビ西日本制作)	317
	ホスピスに生きて20年	柏木 哲夫	大阪大学人間科学部教授 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長		
第29回 95. 9. 8	ホスピスにおけるブライマリーナシグ 症例発表ーブライマリーナスの関わりー	大内 裕子	淀川キリスト教病院 ホスピス病棟婦長代理		189
第30回 95. 10. 30	モルヒネを使いこなそう ーモルヒネ使用の理論と実際ー	武田 文和	埼玉県立がんセンター総長	(医師部会)	193
第31回 96. 1. 26	ホスピス・ケアの実践 ー全人的理解・全人的ケアー	藤江 良郎	栄光病院理事長	症例発表	184
		下稲葉康之	栄光病院ホスピス長		
		森山 健也	栄光病院協力牧師		
		広瀬 典子	栄光病院総婦長		
		藤江 良郎	栄光病院理事長		
第32回 96. 5. 18	死を生きる ーホスピスケアに従事してー	下稲葉康之	栄光病院ホスピス長	栄光病院開院10周年記念	399
		河野 博臣	河野胃腸科外科医院院長		
第33回 96. 8. 3	癌末期患者の症状コントロール 癌告知はいかに	恒藤 暁	淀川キリスト教病院ホスピス長		382
第34回 96. 10. 25	安楽死をどう考えるか 基調講演 シンポジウム	藤江 良郎	栄光病院理事長		325
		下稲葉康之	栄光病院ホスピス長		
		広瀬 典子	栄光病院総婦長		
		浜口 至	北九州がんを語る会 代表		
		阿蘇品スミ子	久留米大学医学部 看護学科助教授		
		森山 健也	栄光病院協力牧師		
		三浦 啓作	奥田三浦法律事務所弁護士		
		海尾 弘	栄光病院在宅部看護士長		
第35回 97. 2. 1	在宅ホスピスー看取りを通してー 在宅医療におけるネットワーク活用について 在宅での看取りー訪問看護の実践からー	青戸 雄司	栄光病院内科部長		256
		紅林 みつ子	訪問看護婦		
第36回 97. 4. 19	死を受容し、安らかな死を迎えたある 癌末期患者への援助を通じて学んだこと ケアにおけるコミュニケーション	山田 由香里	福岡亀山栄光病院 緩和ケア病棟看護婦	VTR 供覧 「魂が癒されるその時まで」 福岡亀山栄光病院制作	235
		青木 福代	トータル・カンセリング・スクールセミナー講師		
第37回 97. 9. 13	ホスピス講習会 基調講演1 基調講演2 基調講演3 患者家族の体験談 特別講演・かけがえのない母を看取って	第一部	死にゆく人への心のケア	症例発表 VTR 供覧 「幸福な死を迎えたい」 福岡亀山栄光病院制作	477
		藤江 良郎	栄光病院理事長		
		森山 健也	栄光病院協力牧師		
		第二部	家族の悩み・家族への援助		
		下稲葉康之	栄光病院ホスピス長		
		池田 典子	患者家族		
		熊谷真実・松田美由紀	女優		
第38回 98. 1. 31	市民がホスピスに望むこと 一般病院におけるターミナルケア	波多江伸子	死生学者・作家		151
第39回 98. 5. 23	栄光病院ホスピスを語る	高宮 有介	昭和大学病院医師	VTR 供覧 「いのちの質を求めて」 福岡亀山栄光病院制作	139
		藤江 良郎	栄光病院理事長		
		下稲葉康之	栄光病院ホスピス長		
		森山 健也	栄光病院協力牧師		
第40回 98. 9. 12	人生に有終の美を	広瀬 典子	栄光病院総婦長		377
		日野原重明	聖路加国際病院・理事長		
第41回 99. 3. 13	家族への援助ー家族に聞くー 基調講演 シンポジウム				99
		下稲葉康之	栄光病院ホスピス長		
		森山 健也	協力牧師		
		広瀬 典子	総婦長		
		青戸 雄司	内科部長		
		後藤 隆子	緩和ケア病棟婦長		
		平井 美幸	医療ソーシャルワーカー		
		松山やよい	患者家族		
		佐伯 洋文	患者家族		
		下稲葉康之	栄光病院ホスピス長		
第42回 99. 5. 22	ターミナルケアにおけるがん告知について 基調講演 シンポジウム	朔 元則	九州医療センター外科部長		132
		中村 浩子	患者家族		
		工藤 涼子	栄光病院緩和ケア病棟婦長		
		三浦 啓作	奥田三浦法律事務所弁護士		
		森山 健也	香椎バプテスト教会牧師		
第43回 99. 11. 13	ターミナルケアにおけるセデーション 基調講演 発表 発表	下稲葉康之	栄光病院ホスピス長		132
		吉田 晋	栄光病院緩和ケア病棟医師		
		堺 千代	栄光病院緩和ケア病棟婦長		
第44回 00. 02. 26	在宅で看取る 特別講演「在宅でこそ その人らしく」 症例発表「死を生き抜くということ」 特別講演「これからの高齢者医療・ 福祉と介護保険」	佐藤 智	ライフケアシステム代表幹事		163
		崎田 雅子	グロリア訪問看護ステーション訪問看護婦		
		荒瀬 泰子	福岡市保健福祉局高齢者部長		

第45回 00. 05. 13	ターミナルケアにおける看護婦の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待する看護婦像」 発表「オーストラリア・ホスピス事情」 症例発表「拒否的な患者への 看護介入について」 特別講演「ターミナルケアにおける 家族への援助ーその危機介入ー」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり メルボルン・モナシュ大学大学院修士課程 深田 美幸 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 小島 操子 大阪府立看護大学学長		302
第46回 00. 09. 01	ターミナルケアにおける医師の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待される医師像」 特別講演「がん疼痛治療における オピオイドと鎮痛補助薬の使い方」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長		106
第47回 01. 03. 10	スピリチュアルケア 基調講演「スピリチュアルケア」 シンポジウム「スピリチュアルケアの実際」	窪寺 俊之 関西学院大学神学部教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟病棟長 清田 直人 栄光病院チャプレン 日野 晴廣 患者家族		229
第48回 01. 6. 16	家族への援助 基調講演「悔いの多い遺族・悔いの少ない遺族」 ～その援助の理論と実際～ 「最愛の夫をホスピスで看取って」 シンポジウム「家族への援助」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 高島 望子 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 堺 千代 緩和ケア病棟主任看護婦 清田 直人 栄光病院チャプレン 池田 典子 患者家族 高島 望子 患者家族		138
第49回 01. 10. 27	チームケアにおける看護婦の役割 一般病棟、緩和ケア病棟でターミナル期の 患者をケアするナースの持つニーズ ～その共通点と相違点～ オーストラリアにおける緩和ケア ～日本への提言～	Susan Lee メルボルン・モナシュ大学シニアレクチャー 下稲葉かおり メルボルン・モナシュ大学大学院修士課程 Susan Lee メルボルン・モナシュ大学シニアレクチャー		午前の部 39 午後の部 156
第50回 02. 03. 02	福岡ホスピス・フォーラム ～死を見つめ、いのちを支えるホスピスケア 講演「死を見つめ、いのちを支えて」 ～ホスピス医として20年～ 講演「ホスピスで母を看取って」 独唱 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 挨拶 ピアノとヴァイオリンによる演奏 特別講演「ホスピスにおける霊的癒しと医学」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 松田美由紀 女優・患者家族 本田路津子 ゴスペルシンガー 長村 文夫 財団事務局長 良永季美枝 ヴァイオリニスト 松村えりか ピアニスト・患者家族 日野原重明 聖路加国際病院理事		1950
第51回 02. 06. 08	ターミナルケア講習会 講演「癒し癒されること」 講演「ターミナルケアにおけるコミュニケーション」 事例検討「キーパーソン不在による 母親としての痛みを支えて」 分科会 a. 症状コントロール b. コミュニケーション c. スピリチュアルケア d. スタッフのケア	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 宮原 純子 緩和ケア病棟看護婦		午前の部 145 午後の部 93
第52回 03. 01. 18	いのちを看るホスピスケア 講演「死を見つめ いのち支えて」 講演「海外看護留学」 ーオーストラリアの緩和ケアにふれて学んだことー 特別講演「いのちを看るホスピスケア」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 柏木哲夫 大阪大学大学院人間科学研究科教授		359
第53回 03. 09. 13	グリーフケア 講演「家族の悲しみ 医療者の悲しみ」 ～グリーフケアボランティアを通して学んだこと～ 講演「お父さん 大好きです」 特別講演「喪失と悲嘆：その理解」	下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 的場章子 患者家族 リンダ・エスピー女史 グリーフケアカウンセラー (通訳:下稲葉かおり)		301
第54回 04. 01. 17	緩和ケア・コンサルトナースの役割 事例発表「積極的な除痛を拒み 「痛みをとらないで」と訴えた 患者の関わりを振り返って」 特別講演「緩和ケア・コンサルトナースの役割」	田村和恵 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 レイリーン・リーズ女史 (通訳:下稲葉かおり)		113
第55回 04. 06. 19	実りある家族援助のために 講演「癒し癒されてーホスピスの現場からー」 特別講演「実りある家族援助のために」 ～カウンセリング的アプローチによる 援助を通して～	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 田中信生 米沢興譲教会牧師 トータルカウンセリングスクール主宰		292

第56回 05. 03. 05	今、死に対峙する人と共に 記念講演「死に対峙する絶望を支えられるか ーホスピス医として20余年ー 発表「死の臨床における宗教的援助の役割」 記念講演「医療の本質とは」 ー癒し癒され、癒されつつ癒すー	下稲葉康之 清田 直人 藤江 良郎 栄光病院ホスピス長 栄光病院チャプレン 栄光病院理事長	日本死の臨床研究会 九州支部第16回研究 集会と共催	252
NPO法人 設立記念 フォーラム 05. 06. 18	記念式典 記念リサイタル 講演「ホスピスのめざすもの～癒しのホスピス」 記念講演「ホスピスケアが支えるいのち」	千住真理子 下稲葉康之 柏木哲夫 ヴァイオリニスト 栄光病院ホスピス長 金城学院大学学長 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長		372
第57回 06. 03. 04	栄光病院ホスピスを語る 【第一部】 ホスピス医として ホスピスにおけるMSWの役割 ホスピスにおけるリハビリテーションの役割 患者家族として 1 ホスピスの心ーホスピス長としてー 病棟案内 (VTR供覧) 【第二部】 家族看護に必要とされる予期的悲嘆への援助 ホスピスにおけるチャプレンの役割 ホスピスにおける栄養士の役割 患者家族として 2 栄光病院ホスピスを語るー理事長としてー	吉田 晋 麻生 直子 林 邦男 原田 公栄 下稲葉康之 石津 暁子 清田 直人 藤川富佐子 徳永 悦子 藤江 良郎 栄光病院ホスピス医長 栄光病院MSW 栄光病院理学療法士 患者家族 栄光病院ホスピス長 「幸福な死を迎えたい」 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院チャプレン 栄光病院栄養士 患者家族 栄光病院理事長		218
第58回 06. 09. 30	世界ホスピスデー 福岡ホスピスフォーラム 福岡県における終末期医療に対する取り組み ー在宅ホスピスケアの普及に向けてー ホスピスの歴史、現状、将来展望 ホスピスにおけるスピリチュアルケア	岡本 浩二 柏木 哲夫 沼野 尚美 福岡県保健福祉部 理事兼医監 金城学院大学学長 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長 六甲病院緩和ケア病棟 チャプレン・カウンセラー		122
第59回 07. 03. 10	こころの声に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 心のホスピス・コミュニケーションの心 栄光病院ホスピスを語る～コミュニケーション こころの声に寄り添って～コミュニケーションが支えるもの～ 「『もう死にたい』と訴えた患者と その家族との関わりを振り返って」 こころの声に寄り添って～チャプレンの立場から～	下稲葉康之 吉田 晋 赤司 宏子 中島 祐子 清田 直人 栄光病院院長・ホスピス長 栄光病院ホスピス長代理 栄光病院ボランティア 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院チャプレン		129
第60回 07. 10. 20	福岡ホスピスフォーラム (世界ホスピスデー2007) ホスピス その傾向と対策 ー栄光病院ホスピスの現場からー やすらぎコンサート “生き方”としてのホスピス	下稲葉康之 Shana 原麻由子 (オカリナ) / 原健太郎 (ギター) 柳田 邦男 栄光病院院長・ホスピス長 ノンフィクション作家・評論家		413
第61回 08. 03. 08	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 終末期における意思決定の際の 医療者と患者のコミュニケーション スタッフのケア	Susan Lee 下稲葉かおり モナッシュ大学看護学科シニアレクチャー モナッシュ大学看護学科レクチャー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	159
第62回 08. 10. 25	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) グリーフケア～今、一番伝えたいこと～ 生と死 いのちに寄り添うこと 星の会との出会いを通して ～ともに感じるひとときを～ グリーフケアを考える ～ちいちゃん歩みをとおして～ 悲しむ人と共に	武田康男 金城亜紀 須堯晴美 清田直人 北九州市立総合療育センター歯科部長 九州大学病院口腔外科歯科医師 星の会 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	247
第63回 09. 03. 14	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「チームアプローチ」 ホスピスは やはりチームケア 症状マネジメントの考え方の基本 どのように患者さんに説明するか どのように家族を援助するか どのように心の不安に向き合うか	下稲葉康之 吉田 晋 下稲葉順一 波多野智子 清田直人 栄光病院院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		101
第64回 09. 10. 24	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「かけがえのない今を生きる」 ～がん終末期患者を支えるとは～ 「緩和ケア認定看護師への道」 ～よりよい看護をはぐくむために～ 「死について考える」 ～オーストラリア・心のケア教育プログラムに参加して～	山岡憲夫 梅野理加 部屋和子 やまおか在宅クリニック院長 栄光病院ホスピス病棟看護師主任 栄光病院ホスピス病棟看護師主任		217
第65回 10. 03. 13	全人的ケア ワンポイントレクチャー 「ホスピスの奥の奥に迫る」 症状コントロール 「ホスピスにおける注射鎮静剤の使い方」 コミュニケーション 「『山紫水明』 心をときはなつ」 家族への援助 「家族の悲嘆を支えるケアについて考える」 スピリチュアルケア 「『スピリチュアリティ』に迫る」	下稲葉康之 吉田 晋 工藤涼子 波多野智子 清田直人 栄光病院院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス長 栄光病院ホスピス看護顧問 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		120

第66回 10. 09. 25	(栄光ホスピス実践セミナー2010②合同開催) ホスピスにおけるスピリチュアルケア 「魂の叫びを聴く～ホスピスケアの心～」 シンポジウム： ‘温かいもてなし’ ホスピスの心で ～栄光ホスピスにおけるスピリチュアルケアの実践～	窪寺 俊之 下稲葉順一 江崎 美子 篠崎智恵子 清田直人	聖学院大学大学院教授 栄光病院ホスピス医長 栄光病院看護師 栄光病院音楽療法士 栄光病院チャプレン・グループカウンセラー		284
第67回 11. 09. 17	(栄光ホスピス実践セミナー2011②合同開催) 子どもの命のそばで 「子どもの命のそばで」 「小児ホスピス 私達にできる事・できた事 ～小児科のない当院での関わりを通して～」 「子どもをなくすということ」 「親・きょうだいをなくした子どもたちに寄り添う ～サポートグループの立場から～」	細谷 亮太 下稲葉順一 吉原良子 大井 妙子	聖路加国際病院 副院長・小児総合医療センター長 栄光病院ホスピス医長 NPO法人SIDS家族の会 副理事長・九州地区ヒップランダー たんぼぼの会		157
第68回 12. 10. 27	(栄光ホスピス実践セミナー2012②合同開催) 認知症を抱え、生きるということ 「認知症を抱え、生きるということ」 シンポジウム 「あるがままを見つめて ～認知症を抱えて、生きる人とともに～」	大谷るみ子 中尾美也子 永富ひとみ 亀割 圭子	グループホームふあみりえ ホーム長 栄光病院ホスピス医師 栄光病院ホスピス病棟看護師 いやしの施設長		141
第69回 13. 11. 23	(栄光ホスピス実践セミナー2013②合同開催) 「人をお世話するという生き方」 「こころの通うホスピスケア ～患者さんが教えてくれたこと～」	池永 昌之 下稲葉かおり	淀川キリスト教病院ホスピス・ 子どもホスピス病院副院長 モナッシュ大学看護助産師学科 レクチャー・博士		165
第70回 14. 9. 13	メインテーマ「出会ったいのちに ありがとう」 「置かれたところで咲く」 「死を想え ～ホスピス患者さんは私の人生の大先輩～」	渡辺 和子 下稲葉康之	ノートルダム清心学園理事長 栄光病院理事長・名誉ホスピス長		335
第71回 15. 2. 7	メインテーマ「チームアプローチのちから 2」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		58
第72回 15. 10. 24	メインテーマ「聴くことのちから」 「聴くことのちから」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	久保 千春 福永 頼子 村勢加寿代 清田 直人 林 邦男 徳永 悦子	九州大学 総長 栄光病院ホスピス医 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院チャプレン 栄光病院理学療法士 栄光ひまわり会（ご遺族の会）		143
第73回 16. 2. 27	メインテーマ「チームアプローチのちから 3」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス病棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		62
第74回 16. 9. 3	メインテーマ「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 シンポジウム 「癒し癒されて」 ～患者さん・利用者さんが教えてくれたこと～	小澤 竹俊 中尾美也子 小宮 真美 田ノ上 剛 藤田 望美	めぐみ在宅クリニック 院長 在宅医療センター栄光在宅ホスピス医長 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光会介護事業本部 課長 特別養護老人ホームこころ生活相談員		142
第75回 17. 2. 25	メインテーマ「ホスピスってなあに？」 ～いのちに寄り添うホスピスケア～ 1) 栄光病院ホスピスのご紹介 2) ホスピス病棟での生活とは？ 3) 入院費はどれ位かかる・・・？ 4) 実は ホスピスでもリハビリします！ 5) 在宅でホスピス緩和ケアを受けるには？	下稲葉順一 杉山小百合 増田こずえ 林 邦男 中尾美也子	栄光病院ホスピス長 栄光病院ホスピス病棟看護師 栄光病院医事課課長 栄光病院リハビリテーション課課長 在宅医療センター栄光在宅ホスピス医長		104
第76回 17. 11. 25	メインテーマ「今、ホスピス緩和ケアに想うこと」 特別講演「ホスピス緩和ケアのこころを深める 講演「ホスピス わが人生道場」 講演「聴く心」 講演「ホスピス緩和ケア」 ～ありがたい『いのち』と共に～	柏木哲夫 下稲葉康之 下稲葉かおり 下稲葉順一	淀川キリスト教病院 理事長・名誉ホスピス長 栄光病院会長・名誉ホスピス長 モナッシュ大学看護助産師学科講師・博士 栄光病院ホスピス長		318
第77回 18. 2. 24	メインテーマ「ホスピスの心で看取る」 講演「ホスピスの心で看取る」 ～ホスピスマインドに満ちた老健施設を目指して～ 発表「暮らしの継続とは～看取りの不安から見えてきたこと 発表「在宅ターミナルケア」 ～本人の思いに寄りそう看護ケア～	中尾美也子 安河内貴代 関 恵美子	介護老人保健施設五島福寿園 医師 特養こころエントリゲーター・介護福祉士 栄光会栄光訪問看護ステーション管理者		120

第78回 18. 11. 17	メインテーマ「悲しみとともに生きるということ」 講演「いのちと歩む」 ～かたること・みつめること・あゆむこと～ 発表「子どもたちを亡くしてから30年のあゆみ」 講演「being with：悲しみとともに」	武田 康男 新生児口腔ケア研究会代表 田村 千早 下稲葉かおり モリツ大学看護助産師学科講師・博士		126
第79回 19. 3. 2	メインテーマ「ホスピスケアの目指すもの」 ～病院と在宅の連携の先に～ 講演「病院と在宅の連携について」 ～納得した看取りが出来るように～ 発表「在宅に向けての支援」 ～安心して在宅で過ごすために～ 発表「家で最期まで過ごしたい」 ～一人で過ごすためにはどのようなサポートが必要だろう～	中堀 亮一 わかばクリニック 院長 矢羽田有希子 栄光病院患者サポートセンター MSW 西尾 雅代 在宅医療センター栄光／ ホスピス地域連携室 看護師		86
第80回 20. 1. 18	メインテーマ「栄光ホスピスのこころ」 基調講演「栄光ホスピスのこころ」 ～関わる全ての方の幸せの 小さなきっかけになる働きを目指して～ 講演①「栄光ホスピスの伝承」 講演②「ホスピスナースとして大切にしている事」 講演③「老健で『いのちの質』を考える」	下稲葉順一 栄光病院 ホスピス長 福德 雅章 函館おしま病院 理事長・院長 堺 千代 大分ゆふみ病院 看護師長 中尾美也子 介護老人保健施設五島福寿園 医師		161

※2020年度、2021年度、2022年度、2023年度はコロナ禍により栄光ホスピスセミナーは実施せず。

第81回 25. 1. 18	故・下稲葉康之（NPO法人栄光ホスピスセンター 前・理事長） 追悼セミナー ～ホスピスこそ人生道場・私たちが受け継いだもの～ 講演「ホスピス道」 －「思い」「こころ」を受け継ぎ 前に進む－ 講演「ホスピスのこころ」 －下稲葉康之先生から受け継いだもの－	下稲葉順一 栄光病院 院長・ホスピス長 NPO栄光ホスピスセンター 理事長 前野 宏 札幌南徳洲会病院 名誉院長 NPOホスピスのこころ研究所 理事長	＜思い出紹介＞ 原口勝先生 （みどりの杜病院 院長） 徳永悦子さん （栄光ひまわり会） 波多野智子さん （栄光病院 看護師長）	133
-------------------	--	---	---	-----

院外からの研修

令和6(2024)年度

No.	研修期間	(時間帯)	研修種別	所属施設・学校名	人数
1	4/16(火) - 4/18(木) am		地域医療実習	九州大学	1名
2	5/1(水) - 5/16(木)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
3	5/7(火) - 5/10(金)		緩和ケア実習(老年看護学)	社会医療法人天神会 古賀国際看護学院	3名
4	5/7(火) - 6/29(土)		理学療法学科臨床実習Ⅰ	柳川リハビリテーション学院	1名
5	5/7(火) - 7/1(月)		作業療法学科臨床実習Ⅲ	福岡リハビリテーション専門学校	1名
6	5/14(火) - 5/17(金)		緩和ケア実習(老年看護学)	社会医療法人天神会 古賀国際看護学院	4名
7	5/20(月) - 6/15(土)		言語聴覚学科臨床実習Ⅰ	麻生リハビリテーション大学校	1名
8	5/21(火) - 5/24(金)		地域医療実習	九州大学	1名
9	5/28(火) - 5/31(金)		緩和ケア実習(老年看護学)	社会医療法人天神会 古賀国際看護学院	3名
10	6/3(月) - 6/14(金)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
11	6/4(火) - 6/7(金)		緩和ケア実習(老年看護学)	社会医療法人天神会 古賀国際看護学院	2名
12	6/6(木)	10:30-11:30	施設見学(病院・ホスピス)	日本キリスト教団 弘前教会	30名
13	6/18(火) - 6/21(金)		緩和ケア実習(老年看護学)	社会医療法人天神会 古賀国際看護学院	3名
14	6/18(火) - 6/21(金)		地域医療実習	九州大学	1名
15	6/25(火) - 6/28(金)		緩和ケア実習(老年看護学)	社会医療法人天神会 古賀国際看護学院	3名
16	7/1(月) - 7/12(金)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
17	7/1(月) - 8/31(土)		理学療法学科総合臨床実習Ⅱ	麻生リハビリテーション大学校	1名
18	7/8(月) - 9/7(土)		作業療法学科臨床実習Ⅱ	麻生リハビリテーション大学校	1名
19	7/16(火) - 8/2(金)		医療事務実習	福岡医療秘書福祉専門学校 医療秘書科	2名
20	7/16(火) - 7/19(金)		緩和ケア実習(老年看護学)	社会医療法人天神会 古賀国際看護学院	2名
21	8/1(木)	13:00-16:00	職業体験	須恵高等学校 普通科	5名
22	8/19(月) - 8/24(土)	うち5日間	地域理学療法実習	福岡国際医療福祉大学	1名
	8/26(月) - 8/31(土)	うち5日間			1名
23	9/2(月) - 9/7(土)		地域包括ケア実習	麻生リハビリテーション大学校	1名
24	9/4(水) - 9/6(金)	(2024年3月の振替実習)	地域医療実習	九州大学	1名
25	9/10(火) - 9/12(木)		理学療法学科地域医療実習	令和健康科学大学	1名
26	9/12(木)	8:30-12:30	診療情報管理士 病院見学	福岡医療秘書福祉専門学校	1名
27	9/19(木)	8:30-16:15	学外病院見学・体験学習	九州大学	6名

令和6(2024)年度

No.	研修期間	(時間帯)	研修種別	所属施設・学校名	人数
28	9/25(水)・26(木)・27(金)・30(月)・10/1(火)		在宅看護実習	福岡女学院看護大学	2名
29	10/1(火) - 10/15(火)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
30	10/8(火)	14:00-16:00	ホスピス研修	福岡高校	40名
31	10/15(火) - 11/12(火)		作業療法学科臨床実習Ⅱ	福岡リハビリテーション専門学校	1名
32	10/16(水)・17(木)・18(金)・21(月)・22(火)		在宅看護実習	福岡女学院看護大学	2名
33	10/21(月) - 11/16(土)		理学療法学科臨床実習Ⅱ	帝京大学 福岡医療技術学部	1名
34	10/29(火) - 10/30(水)		訪問看護同行実習	済生会福岡総合病院	2名
35	11/1(金) - 11/15(金)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
36	11/5(火) - 11/6(水)		訪問看護同行実習	済生会福岡総合病院	2名
37	11/18(月) - 12/6(金)		診療情報管理士 病院実習	福岡医療秘書福祉専門学校	1名
38	11/21(木)	8:15-16:00	認定看護管理者教育課程セカンド*	済生会福岡総合病院	1名
39	12/2(月) - 12/13(金)		卒後臨床研修(在宅医療)	福岡市民病院	1名
40	12/16(月) - 12/20(金)		医療秘書科 病院実習	福岡医療秘書福祉専門学校	1名

令和7(2025)年

41	1/6(月) - 1/17(金)	初日9:30入り 2日目以降9:00	学外臨床実習	福岡大学 医学部	2名
42	1/9(木) - 2/5(水)		認定看護師臨地実習	久留米大学認定看護師教育センター	2名
43	1/20(月) - 2/22(土)	うち25日間	検査測定実習/評価実習	福岡国際医療福祉大学	2名
44	1/21(火) - 1/24(金)	初日、ファミCL 2日目以降、病院	地域医療実習	九州大学	1名
45	2/3(月) - 2/8(土)		理学療法基礎演習	麻生リハビリテーション大学校	1名
46	2/3(月) - 2/14(金)	初日9:30入り 2日目以降9:00	学外臨床実習	福岡大学 医学部	2名
47	2/17(月) - 2/22(土)		作業療法学科見学実習	麻生リハビリテーション大学校	1名
48	2/18(火) - 2/21(金)	初日、ファミCL 2日目以降、病院	地域医療実習	九州大学	1名
49	3/7(金)	14:00～	施設見学(カリフォルニア・セラピー)	熊本大学病院 緩和ケアセンター	1名
				熊本大学病院 心理支援センター	2名
50	3/11(火) - 3/14(金)	初日、ファミCL 2日目以降、病院	地域医療実習	九州大学	1名
51	3/18(火)・25(火)・28(金)		介護支援専門員実務研修		1名

社会医療法人・社会福祉法人 栄光会 年報
第 25 号

2025 年 6 月 24 日発行

発行者 社会医療法人・社会福祉法人 栄光会

編 集 社会医療法人 栄光会 本部事務局 総務課

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 3-8-15

電話 092-935-0147

FAX 092-936-3370

URL <https://www.eikoh.or.jp/>

E-mail eikoh@eikoh.or.jp

理念
～癒し癒される～

私たちは“『こころ』も『からだ』もともに癒され
しあわせに生きる医療・看護・介護”を
目指しています

